

# 母親のぬくもり

子供の問題

自殺・いじめ・犯罪・虐待  
学級崩壊・不登校



本田せつ子

## はじめに

昨今、テレビ、新聞をにぎわしている子供を巻き込んだニュースをご覧になって、どのように感じていますか。幼い、若い命が、いとも簡単に絶たれていくことに憤りと悲しみを感じ、何とかならないものかと考える方も多いのではないのでしょうか。

今現在、私たちが暮らしている環境、社会は、戦後の様々な復興の中で目まぐるしく変化し、その中でまた人々の物の考え方、暮らし方も大きな変革をしてきました。文明の利器、家電も広く普及し、人々の暮らしは楽になり、豊かになったと感じる人もいます。家事が楽になった分、余った時間を社会での労働に費やす女性も増加してきました。収入を得てさらに快適な生活を得ようとする人も、また自分の能力を家庭のみに埋もらせてしまうのはもったいないと、積極的に社会に出ていく女性も増加してきました。一億総中流家庭、その過程を経て今、総下流層、格差の時代と呼ばれる時代にな

りました。

格差、何をもって格差というのか、私には少々疑問です。貧富の差でしょうか、持てる者と持たない者……金力、学力、お金を得るための能力。ここ数年、お金はすべてを可能にする、お金を持つ者が社会の勝者という風潮が強まり、人々の思いはお金へ、お金へと流れ始め、ますますその度合いを強めています。

その中で、その影響を最も受けているのが子供たちです。良い教育を得て良い大学へ、そのためには有名幼稚園へ入るための予備校まで出現する始末です。大切な遊びの時間、家族団欒かぞくだんらんの時間まで削って学力向上に努めることが、子供の幸せにつながると思える親たち、富める親は子供にも自分と同じような道を歩ませたいと願い、そうでない親はせめて子供には自分と違う豊かな人生を歩んでほしいと願う。その中で小さい時から、自分の願いと相容れない親の敷いたレールの上を、強いストレスを感じながら歩む子供たち、一体何が幸せで何が不幸せなのでしょう。

近年、子供を取り巻く環境は狂っているとしか言いようがない状況です。その中で子

供の問題も多発しています。

最近、話題にのぼる自殺、いじめ、子供の犯罪、子供への虐待、学級崩壊、不登校・ひきこもりなど、子供の周辺で起こる事柄は、一体何を私たちに伝えようとしているのでしょうか。

この本では以上の問題に焦点を絞って、お話ししていきたいと思えます。

今、子供の問題が多発する中で教育のあり方が問われ、教育再生がうたわれ、教育基本法の改正についての議論も始まり、決議されようとしています。ゆとり教育の是非についての議論もされています。教員の質の向上や、教員資格の更新制度なども論議されていますが、果たしてそれで問題は解決されるのでしょうか。いいえ、それでは根本的な解決には決してつながらないと、私には思えるのです。子供を取り巻く事件はさらに増加し、とどまるところがない。どれほど識者が集まり対策を考えても、小手先で表面的に問題を捉えていく限り、本当の解決にはつながらないと思えるのです。

人類全体が一つの方向、破壊と破滅の方向へ向けて行進している、そんな足音が聞こえるような気がするのです。

子供に起こる様々な問題は、長い年月を積み重ね、社会が大きく動いてきた、人々も社会の中で様々な思いを出してきた、その結果が現れていると思えるのです。

大人の世界にも犯罪が多発しています。残忍な殺人も多く見られます。親子間での殺人も特に目立つようになりました。親が子を、子が親を、兄が弟を、弟が兄を……人々の心は一体どのようなようになってしまったのだろう、これから先一体どのようなのだろう、と皆さんは考えていらっしゃるのではないのでしょうか。

私は今、五十歳半ばです。自分の小さい時、また学生時代を振り返っても、今とは全く様相が違います。いつの頃からか社会が大きく動き、人々の価値観も変貌へんぼうを遂とげています。二十年あまり子供の問題についての相談業務に携わってきましたが、子供の問題も複雑化し、多様化していることに気付きます。相談内容にも大きな変化が見られるようです。公的な相談機関に勤務してきましたが、そこでは言葉や発達の遅れ、自閉症、学習障害、注意欠陥・多動性障害、ダウン症、また登校拒否、落ち着きのない子供、適

応障害、非行などの子供を持つ親とのカウンセリングを主にしてきました。障害や問題を持つ子供の療育というよりも、障害や問題のある子供の親との心の触れ合いや交流を図ってきました。悩みを聞いて受け止め、アドバイスをしてきました。

しかし、カウンセリングを行いながら、私はその当時学び始めた、「人間とは何か、人生の目的とは何か、人間の本质とは何か」を探求する上で、自分が心の中に見いだしてきた解答と、学問を基盤としたカウンセリングとの間のギャップに、戸惑いを感じるようになっていきました。

言葉の遅れや発達の遅れは、親にとっては大きな問題です。だから、その対応は一応伝えます。でも私の本音は、そんなことは大して重要なことではない、それよりも、もっと大切にしていかなくてはいけないことがたくさんある。夫婦は仲良くしていますか、嫁姑の間はいかがですか、あなたは自分を大切にしていますか、あなたが子供に望んでいること、それは本当に大事なことですか、外に見える事柄よりも、もっと子供の心を大切にしてほしい、そのように伝えたい相談が山のようにありました。子供の能力を引き出すことも大事かもしれない。でも、それよりももっと大事なこと、私は親たちが一人ひとり、もっと自分の心を見つめていくということを伝えたくまりました。相談

室には親は直接的な解答を求めてやってきます。しかしながら、家庭の歴史の中で培われてきた諸問題は、そう簡単には解決できません。それには親自身の意識の変化がどうしても必要になってきます。生活をしていく基盤、もっとはっきり言えば、生きていく基盤を変えていく必要があります。それを伝えるときに、私は公的な機関では無理があるということに、段々気付かされました。

形の世界、また表面的な心の世界を変えていくということは、相談室でも伝えることはできません。でも、それは一時の変化です。

本当に大切なことは、生きる基盤を変えていくということ、そして、それは肉体的な幸せ、肉的な解決を求める心とは相容れない世界なのだというところを、思い知らされました。

親が不満を訴える、自分の心を語る、でも親自身の意識が真っすぐに私に伝えてくる思いとはかけ離れていても、親の心情を考慮したり、自分を守る思いから、それを指摘することも、本当の幸せについて語ることも十分にはできませんでした。

それが段々苦しくなってきた、私は職を辞しました。

子供の様々な問題を考えるとき、今、何が一番大事なのか、そして、なぜこのように様々な問題が引きもきらず次々と起こってくるのか、肉と意識の世界両面から子供の問題を語っていききたいと思うようになりました。

この本を書く前に、今、私の置かれている現状について触れたいと思います。私は教育者という立場やカウンセラーという立場で、子供の問題に取り組み、何かを述べようとは思っていません。私が学んできた心を見るということを根底において、様々な問題について思いを述べていききたいと思います。

私がこの学びに触れた最初のきっかけは、嫁姑の葛藤からでした。同居して数年で根を上げ、毎日、愚痴ぐちを友人にこぼしていました。その友人に「あなたはかわいいそうだなね」と言われたとき、そのかわいそうという意味を全く取り違えていました。毎日毎日、同居したがためにつらい日々を暮らすことがかわいそう、そう解釈したのです。その根底には姑を責める思い、裁く思いがありました。でも、その友人は、「責める思い、裁く思い、そして自分は正しい、間違っていないと思ひ込み、その心を放置しているあなたがかわいそうだ」と言ったのです。苦しんでいる本人が一番悪いと言いたかったので



す。そんなバカなど、なかなか友人の言うことは受け入れられず反発しました。

でも苦しいのは確かに自分です。相手を変えようと思ってでも変えられるわけがありません。じゃあ、どうしたらいいのだろう、どうしたら苦しい自分を楽にすることができのだろうと、半信半疑で学びの門をたたき、それから二十年あまり、自分の心を見るということが続けてきました。

最初の動機はそうでしたが、途中でつよきょくせつ紆余曲折があり、何度も挫折しそうになりました。でも、あきらめずにこの学びを続けてきたのは、自分の中に切なる思いと決意があったのだと、今はそう思っています。初めは他力的に楽になれるものなら、自分も変わって、相手も変われば、それで万事うまく行くという単純なものでした。しかし次第に、これは自分が探し求めていたものだという確信が深まってきました。この学びを伝えてくれた田池留吉氏との出会いは、私の人生を変えました。他力の思いが強いと、なかなかこの学びの真髄に触れることはできませんが、他力の思いに気付くというだけでも、生き方は変わってきました。

真実の自分に出会うために心を見るということを、手を替え品を替え、懇切丁寧に教えてくれた田池留吉氏、そして「ありがとう」の著者、塩川香世さんや多くの学びの友

との出会いがありました。

この本は、すでに刊行されている「意識の流れ」や「ありがとう」を熟読されて、自分の心を見るという基本を実践され、自分の実態を知る、人間の本質とは何か、そして、なぜ生まれてきたのかということ踏まえながら読んでいただけたなら、そして人間の本質は肉ではなく、意識であり、永遠に存在するということを根底において読んでいただけたなら、この本があなたに伝えたいことを、真っすぐに受け止めていただけるのではないかと思います。



「母親のぬくもり」 / 目次

はじめに	1
子供の自殺	15
いじめについて	51
子供の犯罪	117
子供への虐待	159
学級崩壊	203
不登校 ひきこもり	239
おわりに	284

# 母親のぬくもり

子供の問題

自殺・  
いじめ・  
犯罪・  
虐待・  
学級崩壊・  
不登校



# 子供の自殺



ここ十数年の間、子供の自殺は年間百人をゆうに超えています。その一方で、ニュースなどで大きく取り上げられているいじめが原因の自殺は、年間統計上一名ないしゼロという奇妙な現象も見られます。自殺には多くの原因があり、一つの要因ではなく、たくさんさんの要因が重なり合って起きることもあります。

ただ一つ言えることは、人の命の重みがいまにも軽くなった、簡単に死に急ぐ子供が多くなったということです。その背景には何が存在するのでしょうか。昔から子供は親の背中を見て育つと言われてきました。しかしながら、そんな単純なものではありません。大きくは社会の中で、地域の中で、家族関係の中で、友人関係の中で、大きな荒波をかぶり、凄まじいエネルギーにもまれながら心も体も成長していきます。うまく適応して育つことも、挫折することもあります。挫折したときにどう立て直していくか、乗り越えていくか、それがとても不器用になった、ぽっきりと枯れ枝が折れるように自分を否定してしまう、そんな子供が多くなってきたように思います。

私たち大人も自分の生活に追われ、少しでも良い生活をと、お金を得ることにエネルギーを使い果たし、自分が働いているから家族の生活が成り立っているんだ、高校、大学に進学できるのも一体誰のおかげだ、子供は親の言うことを黙って聞いていればいい

んだと、疲れ果てた心で子供の声に耳を貸そうとしない親が増えています。

私は正しい、間違っていないと、子供の幸せを考えているからこそ、自分の勧める道  
を歩んでほしい、それしか道はないと、授業についていけない子供にも過度の期待をし、  
叱咤しったげ激励し、子供をがんじがらめに縛り、苦しめていることにも気付けない親もいるの  
ではないでしょうか。

また中には子供の望むものは何でも叶えてあげたい、好きに自由に暮らしていつく  
れば良いと、物を与えることが愛情だと考えている親もいるのではないのでしょうか。

また極端に、親は親、子供は子供と最低限の親の義務を放棄して、自分本位の暮らし  
をする親もいるのではないのでしょうか。

核家族が増え、隣近所の付き合いも少ない状況の中で、子供は自分の親しか頼るもの  
はない状況の中で、また自分の人格を形成していく過程で手本とすべきものも見当たら  
ない、そのような環境の中で、子供はどのように成長していくのでしょうか。

たくさんの苦しんでいる子供たちがいる、その事実を否定できません。それでは自殺  
をする子供の心、思いに焦点を当ててみたいと思います。

本書の中で、これから文章中に出てくるそれぞれの『思い』は、じかに本人から言葉で語られたものではありません。想像や創作でもなく、心に伝わってくる思い、波動を、言葉に置き換えたものです。

### Aさんの思い

苦しいです。何も語りたくない、語れない。私は何をしたのでしょうか。マンションの屋上にやっとの思いで登り、下を見たときに小さな子供が遊ぶ姿が見えました。自然に涙が出てきました。自分にもあんな小さい時があった。無邪気に遊んで楽しい時もあった。お母さんの笑い声、笑い顔、久しく聞いていない、見ていない。お母さんはどこに行ったの。現実が私を押しつぶしました。いつも眉間にしわを寄せて、とげとげしい声で私や弟を叱る声、「中学生になったのだから中学生らしく、もっとちゃんとできないの。こんな成績でどうするの。お母さんが働いているのも、あなたたちに少しでも良い暮らしをさせたいからなのに、私立に入って、そのまま大学に入れるように努力をすればいいのに、この子はそんな親の思いも踏みにじって、全く育てがいのない……」。母

はいつも愚痴ぐちっていました。お母さんは私を嫌いな、私は大好きなのに。お母さんが好きだから、お母さんに気に入られないから、かわいがってほしいから、お母さんにまとわりつきました。でも、それがかえってお母さんをイライラさせました。私が私立に落ちてから、お母さんの態度が変わりました。弟ばかりに目が行くようになったんです。私を無視してわざと邪険にしている、そんなふうになんか思えてきました。寂しい、悲しい、苦しい、私はどうしたらいいの。あんなお母さん、私のお母さんじゃない。友達もいません。ボーイフレンドもいません。暗い顔をしていると、みんなから敬遠されました。「おばけ」と言われたこともあります。誰にも自分の気持ちを打ち明けることができませんでした。誰にも分かってはもらえない。仲間を作って遊ぶことも、ゲームセンターに行くことも、お化粧することも、自分の気持ちを紛らわせることもできず、ただ部屋の隅の暗いベッドの上で、もし自分がいなくなったと、そんなことばかり考えるようになりました。ふっと心の中から「死んだら楽になる、死んであの親を慌てさせてやれ、誰も悲しまないぞ」、そんなささやきが聞こえてきました。本当に死んだら楽になるのだろうか、すべてから開放されるのだろうか、こんなに悲しいことは、寂しいこととはもうたくさん。死んだらどうなるんだろう。どこに行くんだろう。すべてが終わり

になるんだろうか。何か怖い、恐ろしい。この手すりの上に登って、少し勇気を出して空に向けて飛び出したら、別な世界が私を迎えてくれるのだろうか。勉強のない世界に行きたい。通知表なんかない世界に行きたい。試験なんかない世界に行きたい。そんな世界などあるはずないか。なぜ私は生きているの、なぜ存在するの、分らない。独りぼっちは寂しい。家にいっても一人。学校にいっても一人。孤独って、うつろで寂しい。もう誰の言葉も耳に入らない。何も聞こえない。何も見えない。本当に一人の世界……。

## コメント

この子の寂しい思いが伝わってきませんか。この子が訴えたかったのは、ただ一言、「お母さん、こっちを向いて、とても寂しいの」という思いではないでしょうか。子供の目はいつも母親に向き、母親の心の動きをつぶさに感じていきます。でも母親はどうかといえば、その思いを受け止めることなく、成績が大事、進学が大事ということで聞く耳を持ちません。生活を大事に思うあまり心の余裕がなくなり、子供の心の声に気付くことができなくなった。そして、その結果、子供は見放されたような不安を感じ、愛されているという実感が失われていったのではないのでしょうか。自分自身生きていく意味

を見いだせなくなっていくたのではないでしようか。このような親子は周囲にたくさんいるのではないでしようか。お母さんが見つめている方向と、子供が見つめている方向がずれている。子供が求めているものに気付けない親が、増えているように感じています。

## Bさんの思い

寒い、とても寒い。家の中はいつも冷え冷えとしていました。父とはろくに話もしたことがありません。帰りは遅いし、家に帰っても食事も摂らずに寝てしまうか、仕事を持ち帰り、話しかけてもろくに返事もしてくれない。ピリピリ、イライラ。ちょっと機嫌のいい時だけ、「学校はうまくやっているか」と聞いてくれるけど、こっちの返事なんか聞いてはくれない。何か言うとなんか「母さんに言え」と、さもうるさそうに言う。あなたは僕の父親ではないのか。父から聞く言葉は、会社の悪口、上司や部下の悪口、取引先の悪口。何か責任<sup>せきにん</sup>転嫁<sup>てんか</sup>ばかりしている。自分の能力が欠けているからじゃないか。こんな大人にはなりたくない。自分のことは棚に上げて、小さい時から文句ばかり言われた。褒められた記憶はないな。母さんはいつもおどおどして、みんなの顔色ばかりう

かがって、僕にも腫れ物に触るみたいに、言いたいことも言えないみたいだ。あんたは僕の母親だろう。何でもっとぶつかってきてくれないの。人間の感情なんかないみたい。に能面の顔をして毎日暮らしているの。テストで良い点を取ろうが悪い点を取ろうが、関心が全くないみたい。どうでもいいのか僕のことなんか……。

他人の男と女が暮らしているような、優しさや温かさなんて程遠い、これが家庭なのか。けんかもできないような、そんなつながりもないのか。じゃなぜ僕が生まれたんだよ。いつも僕は根なし草のようで、つかまる場所がなかった。暖めてくれる温かな優しい胸もなかった。ほっとする安らげる場所が見つからなかった。すべてを吸い取って包み込んでくれる場所を、小さい時から探し続けてきたのに……。僕は何のために生まれてきたの……。寂しい、寂しいよ。僕は学校に行っても親しい友人もない。いつも自分の周りに壁を作って、これ以上傷つきたくないかと警戒している。初めこそ、いろいろ声をかけてくれた友達も、今では付き合いの悪い奴、何を考えているか分からない奴と、僕を相手にしなくなった。いじめに遭うよりはいいか……。

ただ虚しい。生きていくのが虚しい。明日を考えられない僕。何の夢も希望もなく、自分でも腐ってしまうほど無気力な僕。誰も僕の存在を認めてはくれない。いても

いなくてもいい存在、それが僕。

## コメント

この子はとても温かい家庭を求めています。母親と父親、両方から冷たい仕打ちを受けていると感じています。自分のしたいことも希望もなく、何で生きているのかなという疑問、不安を抱えながらの毎日だったでしょう。自分の心の中につっぱり棒を作ることができなかったから、ぼっきりと何か出来事があれば折れてしまう、そんな子供です。つっぱり棒を作る、それは日常の生活から自分自身が培っていくものですが、それには愛されているという実感が必要です。親に必要とされている、気にかけてもらっている、大事にされている、その思いが子供を勇気づけ、真っすぐに自分の人生を歩んでいく原動力になると思われます。たとえ目の前に障害が立ちふさがっても、自分の心の中に温もりを感じていれば、乗り越えていく力がわいてくるのではないのでしょうか。

## cさんの思い

毎日の学校がつらい。毎日毎日、来る日も来る日も地獄にいるようだ。僕のこと



ほっといてくれ。構わないでくれ。鷹が獲物を狙うように執拗しつようにいじめてくる。運動靴や教科書を隠されるくらい、そんなことはどうでもいい。もっとじわじわと真綿で首を締めるように追い込んでくる。誰もまともに口を利いてはくれない。教室にいても、侮蔑ぶべつを込めた目、からかいを込めた目、哀れむような目、戦いを挑んでくる目、虎視眈眈こしたんたんといった牙きばをむこうかと狙ってくる目。いつも僕はびくびくおどおどと、どうやってたらこの場をしのげるか、それ以外何も考えられない。授業なんか頭に入るはずがないよ。僕が何をしたって言うんだ。どこが悪いって言うんだ。誰に迷惑をかけたって言うんだ。理不尽だ、このクラスは狂っている。担任なんて僕の言うことを信じてくれない。いや聞いたらあとが面倒だとばかりに、いつも逃げ腰だ。「君にも何か非があるんだろう。原因もないのに、いじめが起るわけがない」って、何も分かってはいないんだ。原因があるんだったら僕も改めるよ。悪いことは直していくよ。僕だって友達が欲しい。みんなの仲間に入りたい。だけど僕の周りの包囲網は厚い。てもでも動かない。母さんにちょっと話したけど、あまりにも心配するから、「大丈夫だ」って言ってしまった。僕は弱みを見せたくない。こんなに情けない自分なんて、家族にもさらしたくない。八方はっぽう塞ふさがりっていいのか、もう僕にはどうしようもないんだ。強くなって、どんなことにも耐

えられる精神が欲しいよ。みんなを蹴散らかす力が欲しいよ。腕力があつたらと思つたけれど、結局それも虚しいって気付いたんだ。僕が力を出したら、その何倍もの力で袋叩きに遭う、そんなこと目に見えてるじゃないか。

みんなの前でいじめについて討論されるなんて、もっといやだ。さらし者だ。先生の言うことを聞くような奴らじゃない。倍になって反動が返ってくる。みんなは見つて見ぬふりをしている。自分がいじめのターゲットにならないように、心にバリアーを張っている。時々、僕を痛ましそうに見て、そして、すぐ目をそらしてしまふ奴ら。みんなそんな生き方しかできないのか。前にニュースで見たことがあるよ。電車で絡まれている女の子や年寄りを見ても、みんな見て見ぬふりをする。かわり合いを持ちたくない、とぼっちりを受けたくない、下手に注意をしたら殺されかねない、そんな世の中なんだ。一体いつからそうなったんだ。

先生は言う、「もっと強くなれ、小さいことは気にするな、くよくよするな」。どうやったら強くなれるんだ。「いじめなんか気にするな」なんて、よく言うよ。どんな状況なのか見てもいないくせに。今、みんなの目にとっても傷ついている。暴力が加わったらどうなるんだろう。いくら口汚くののしられても、罵倒されても、「汚い、臭い」と言

わかれても、トイレに顔をつっこまれるよりはましだ。ボコボコにされて下着まで取られるよりはましだ。でも、いつそうなるか、明日のことは分からない……。憎い、許せない、絶対許さない。くそー、今に見てろ。

## コメント

いじめによる自殺は、最近、連鎖反応を起こしているかのようによく多発しています。いじめ自体を教師は受け止められず、また親も多くは知らなかった。この子は寂しい思い、悔しい思い、そして大人は信用できないという思いを、自分一人の心に膨らませていきました。他人のことには無関心、人の痛みは理解しようとしもない、自分だけを守ろうとする周囲の人間に絶望感を感じていきました。大人への不信感も増し、どうにもならない壁を感じ続けて、その壁を破る気力もわかず、将来への不安も大きくなっていったのでしょうか。

もしかしたら、親は子供をありのまま受け入れていくという思いに、欠けていたのかもしれません。成績が良くて、すべてに優れている子供なら我が子として受け入れるけれども、そうでない子供は……。親は不用意に言葉を発してはいけません。その言葉でど

れほどの子供たちが傷つき、自分を見捨てていったか、私は多くの事例を見てきました。

## Dさんの思い

私は勉強ができません。何をやらせても愚図ぐずでのろまだと言われてきました。みんなの会話の中に入れなくて、無理をして仲間入りしようとしても、いつの間にか浮いた存在になってしまいます。「あの子には何を言っても通じないよ、宇宙人だよ」、そこから少しずつ障害され始めました。遊びの仲間にも加われなくて、みんなが楽しそうにディズニースタジアムやサッカーやコンサートに行く相談をしても、仲間には入れてもらえませんでした。私が近づくとみんなさっさと話をやめるんです。そして笑い声だけを残してみんな散っていく。どんなに寂しい思いをしたか。私は人の悪口なんか言ったことのないのに、いつの間にかチクリ魔と呼ばれ、卑怯者ひきょうもの呼ばわりされました。悔しいです。ほんとにチクッた人は知らん顔で私のせいになっている。でも、それを説明しようとしても、うまくできません。涙がいっぱい出て悔しさが募ります。そんな私をますますバカにしておもちゃにして転がす、言葉の恐ろしさを知りました。言葉では何を言ってもいいんですか。どんなに傷つく言葉でも言いたい放題、周りで聞いている人もにやにや笑

うだけ。誰一人かばってはくれませんでした。そんなことをしたら自分が今度は何を言われ、何をされるか分からないから怖いんです。その気持ちも分かるけど、絶望しました。お母さん、ごめん、もう頑張れないよ。転校したい、こんな所もういやだ。

クラスで席替えしたとき、みんな私の隣はいやがった。そのままグループにされるのがいやだったんだ。先生は何も言わなかった。「しようがない奴らだな」、それでしまいだった。グループに入れなかったら何にもできないよ。研修旅行も、野外活動も、いつも独りぼっちなんていやだ。無理やり入ってもどうにもならない。気持ちはいつも独りだから……。

どうしたらいいんですか。ずっとずっとこのまま殻をかぶって押し黙ったまま、毎日をごしていくのですか。助けて、誰か救って。ああ、もうこんな地球爆発してしまえばいい。こんな学校なんて消滅してしまえばいい……。

## コメント

この子はやや発達障害があるため、クラスから阻害されている子供です。人との関係を取ることが下手なため、人の輪に入っていけない傾向が見られます。また物事の感じ

方が少し変わっているため、なかなか理解されにくい特徴があります。このような子供は教師のケアがとても大事です。常に目を配り、少しでも集団の中に入れる配慮が必要でしょう。家庭では急ぎ立てることなく、ゆっくりと心を休ませてほしいと思います。学校でこの子はこの子なりに精一杯努力もし、頑張っています。それが受け入れられない。そしてまた家庭でも、それに輪をかけて遅れを取り戻そうとはっばをかければ、いつかはパンクしてしまう。この子の心が悲鳴を上げていきます。地球も学校も爆発してしまえばいいという思いは、自分をも爆発させてしまう思いに通じ、死に直結してしまう可能性があります。

### Eさんの思い

僕は毎日、日記をつけている。その日何があったか、何をされたか、担任が言ったことも、奴らが言ったことも、すべて書き留めている。どれだけのことを言われたか。気にしなければそれでもいいのかもしれないけれど、こんなに弱った心にはきついよ。僕が強かったら、元気はつらつだったら、笑って済ませたかもしれない。おどけて済ませたかもしれない。でも今、僕は自分が生きている意味が見つからない。全部自分を否定さ

れて生きていけるほど強くはないんだ。今まで普通に生きてきた。中学に入るまではスポーツも勉強もこなしてきた。目立たない存在だったかもしれない。中学には二つの学校から集まったグループがあった。最初は出身小学校別に、そのうちみんな交じり合って親しくなっていた。でも僕はどこからもあぶれてしまった。僕は背が低いし太っている。からかい気味に「チビ、デブ」と呼ばれた。僕はただへらへら笑っていた。そのうちに「デブ、豚、臭い、汚い」と言われるようになった。「臭いから、汚いからそばに寄るな、そばに来るな、眼が汚れる」と言われた。もう笑ってなんかいられなくなった。靴も隠され、運動服も踏まれてどろどろにされて、そのたびに悔しい悲しい思いをした。怒りが込み上げてくる。担任が「誰がこんなことをした」と、クラスのみんなを問い詰めても、みんな押し黙っている。誰かが先生に告げ口した。犯人は分かったけど、いやがらせは終わらなかつた。ますますエスカレートしていった。

なぜいじめがあるのか。でも、いつも何かターゲットを探している。一人を痛めつけることで気持ち晴れるのかもしれない。いつもイライラして舌打ちしている奴。その舌打ちを聞くたびに背筋が凍る。いつこちらに向かってくるのか。学校は地獄だ。いつかあいつらに思い知らせてやる。絶対、黙っては死なない。洗いざらいぶちまけて死ん

でやる。悔しいよ、そんなことしかできない自分が悔しいよ。

## コメント

この子は遺書を残して自殺しました。その遺書で伝えたかったこと、「本当はもっと生きたかった、生きたかったよ」という思いだったと思います。理由もなく、なぜ自分がいじめられるのかも説明できないまま、死を選んでしまった心は、どんな叫び声を上げていたでしょう。もう少し教師がいじめという行為ではなく、痛めつけられ弱っているその心に気付いていたら、そして親と共にその傷ついた心を受け止めることができたならと、残念です。

## Fさんの思い

いつも僕はナイフを持ち歩いている。それが僕の支えなんだ。光るナイフの刃やいばを見ているときだけ、何か味方を得たような気持ちになれるんだ。負け犬だね。ナイフを持っていても、それを使える僕じゃないって分かっているから、なお情けないよ。いつも頭痛がする。吐き気がする。学校へ行こうと思うとふらつくんだ。ご飯も食べたくない。



親父やおふくろは、「何を生なことを言っている。ガッツを出せ。大体、夜昼逆さまの生活を送っているから体がなまるんだ。わがまま気ままなことばかり言ってるんじゃない」って叱りつけるけど、どうにもならないんだよ。「頑張ろうと思えば思うほど、冷や汗が出てめまいがする。朝起きるのがつらい、体がだるい。学校に行っても、誰かが僕のことを言ってると思うと……。いいや悪口ばかり言っている。ひそひそ何か言っている。怖いよ、みんなの目が怖いよ。先生は「お前の思い過ぎだ」って言うけれど……そうじゃない、そうじゃない。もう学校には行けないよ。部屋に閉じこもってご飯も食わず、どこにも出かけない。風呂にも入らない。何もかもするのがいやなんだ。天井を向いて、ただ音楽をガンガンかけて寝ている。音楽をかけないと変な音が聞こえてくるんだ。小さなささやきが聞こえてくる。「楽にしてやろうか、もういい加減、楽になれよ」。誰だ、僕の耳にささやくのは。楽にとってどういうこと、死ねということか。

ナイフの刃の光を見ていると吸い込まれそうになる。刃に唇を当ててみる。冷たい、その冷たさが好きさ。刃に写る自分の顔を見ていると歪んでくる。自分の顔が情けなそうに歪んで泣いている。頭に何かかぶったようにぼんやりとして思考停止になるんだ。僕がどんどん壊れていく、僕が僕でなくなっていく、怖い。寒い真っ暗な部屋で、ただ

膝を抱えて縮こまっている……。「壊せ、何もかも壊せ、破壊しろ」、そんな声が聞こえてくる。壁に何かが見えた。僕をじっとのぞき込んでいた。枕を投げた。びくともしない。ナイフを手に持つ、あいつを倒した。自分の手に刃先を当てる。何か安らぎを感じた……。

## コメント

精神的症状から身体症状まで引き起こしている少年です。思春期にかけて、何らかの要因が重なり合って誘発されます。被害妄想、幻覚、幻聴があり、親は心配して神経科へ行かせますが、薬を飲んでもなかなか改善が見られません。でも少年の思いに耳を傾けていけば、この少年が何を訴えているのか分かってくるでしょう。

心に抱えている闇におびえる。その闇にどう立ち向かえばいいのか分からず、自分を追い込んでいく。自分を追い込んでいく原因が、必ず内面からばかりではなく、親子関係、特に母子関係という外面からの圧力、過剰な干渉が引き金になることもあります。

## Gさんの思い

虚しい、ぽっかりと胸に穴が開いたよう。身の置き所がないくらい何も手につかない。気分がどんどん落ち込んでいく。私はそんなに魅力がないの。友達は、「失恋の一つや二つ、経験経験」と言って慰めてくれるけど、私には彼以外考えられない。親が聞いたら「バカじゃないか、学生には学生の本分がある、恋愛なんかうつつを抜かすな」って言うけれど、そんなに簡単なもんじゃない。私は中学生の時から、もう五年も彼だけを見つめてきた。彼の笑顔やしぐさやすべてが私の中で生きている。彼だけが私の生きがい、希望。彼の彼女になれない自分なんて、生きてても意味がない。みんな私のおかしいと言う。どうしておかしいのよ。私はみんなのように次から次へと彼を作って、遊ぶ気になんかなれない。夜の街でふらふら遊ぶ気にもなれない。「恋愛より勉強、早く大学受験の準備をしろ」と、いつもいつも言われてきた。だから勉強した。でも、あまり身が入らなくて、成績はどんどん落ちていった。もうクラスで後ろから数えたほうが早い。特に美人でもかわいくもないけど、でも精一杯研究してチャームポイントを強調してきた。何もかも虚しいよ。少しでもお付き合いしたのに、最後に「重い」と一言、言われた。それでおしまい。「受験でこれから忙しくなるから、彼女はいらな

い」と言われた。嘘だ、彼の気持ちは、「お前は重い、うざい、好きにはなれない」だった。打ち明けなかったらよかった。遠くから見つめるだけにしておけばよかった。こんなに傷ついて、気持ちもうボロボロ。恥ずかしい。みんなが私をバカにしている。振られた女って烙印ろういんを押された。彼は人気者だ。身の程知らずって陰口を言われている。友達までが何か引いている。何だかとても孤独。あぁ、苦しいな、頭が変になりそう。突然笑い出したくなる。私の中から記憶を全部消し去りたい。忘れよう、忘れよう、でもダメ。忘れようと思えば思うほど、私の中で彼の存在はどんどん大きくなっていく。消えろ、消えろ、失せろ。もうどうにもならない。リセット、人生をリセット。この人生、ジ・エンド……。

### コメント

失恋による自殺です。何とも言えない気持ちです。この方が、自分が生まれてきた意味、人生の目的を、もし少しなりとも知っていたらと残念でなりません。生まれてくるには生まれてくる理由がある。誰一人偶然で生まれてきた人はいません。自分で母親を選んで、今世はこのような心の修正をしたいからと、望んで生まれてきたことを思い出

してほしいのです。人生の目的を果たす前に、自分で命を絶ってしまうことの意味を知ってほしいのです。

### Hさんの思い

受験、受験ってそんなことばかり言うな。「親父の跡を継いで医者になれ」だと、親父がここまで大きくしてきた病院を「お前が継がないでどうする」と、顔を見るたびに責められる。僕は医者には向いていない、やりたい医学なんてないんだ。患者と向き合う仕事なんて僕には向いていない。親父は「患者と向き合うんではなく、病気と向き合うんだ。病院を継ぐのがいやなら、大学に勤める医学者でいいじゃないか」とも言う。何でそんなに医者にこだわるんだ。医者なんて本当に医学を志す者がなればいいんだ。いやいや医者になる奴が多いから、金儲けばかり考えてなる奴が多いから、とんでもないことをしでかしてしまうんだ。「金儲けができるから医者になりたい。人から認められ先生、先生と尊敬されるのって気持ちいいじゃないか。お前は恵まれてるよな、国立がダメなら、私学でも親父が金を積んでくれるだろ」、友達はそのな<sup>や</sup>揶揄をする。うるさい、僕の気持ちなんか分からないくせに。自分の人生は自分で決めたい。

親父は医者じゃない、まるで経営者だ。病院の経営のために本当の病人を追い出している。治ってもいない病人を追い出している。責めると、「今の体制では仕方がないんだ。きれいごとで病院の経営はできない。ごちゃごちゃ言う前とにかく医学部へ行け。わしの息子なら医学部へ行け」と言う。そんなのありかよ。医者にならないと親子じゃないのか。この家では異端者なのか。僕はこの病院の跡継ぎになるために生まれてきたのか。苦しいよ、切ないよ。勉強なんてくそくらえだ。家をふらりと出て、夜の繁華街へ出てみた。飲んだくれの親父連中、大声で喚わめきながら人からんでいる奴、物陰でこそそそしている奴、客引きをしているホステスたち。親父の軽蔑している連中がうようよいた。医者にならなかつたら、僕はどんな人生を歩んでいくんだろう。どっちみち親父には一生責められ続けるんだろうな。何か物悲しくなって涙が出てきた。自分の人生は自分で決めると親父には息巻いてきたけど、なりたいたいものなんて今のところ本当はないんだ。希望もないんだ。だから普通に大学に行って、その間にゆっくりと考えただけなのに。それも許されないのか……。もう、いいよ、もう疲れた。おふくろが何ともいえない顔で僕を見る、やめろよ、その目は。

おふくろは以前言っていた、「私はお医者さんと結婚したいから薬剤師になったの。」

そして研修中のお父さんと知り合って結婚したのよ」。親父が医者だから結婚したのか。親父には愛人がいる、それでいいのか。病院から真っすぐそっちへ行ってしまおうのに、何の文句も言えないのか。お金を潤沢じゆんたくに使える生活が望みだったのか。ブランド物ばかり買いあさり、似合いもしない服やアクセサリーを身に着けて、海外旅行だ、何が豪華客船の旅だ、芝居だ、パーティだ。それでいいのか。本当にそれでいいのか。楽しい笑い声なんて家の中では久しく聞いたことがない。親父は「医者になれ」の一点張り、おふくろは僕には無関心。言いたいことはいっぱいあるだろうに、おかしいくらい口をつぐんでいる。はっきり言えよ。僕には何の期待もしていないのか、自分の生活を守ればそれでいいのか、おふくろは一体何を考えているんだ。もっとこっちを向いてほしい。学校から帰ってきたら、「お帰り」と笑顔で迎えてくれるおふくろが欲しかった。いつももない、部屋に化粧品化粧品の匂いだけを残していつももない……。寂しい、どこか遠くに行ってしまいたい……。

## コメント

親の要求を押しつけた結果、子供は行き場を失ってしまいました。親の圧力を跳ね返

せるほど強くはなかった。また自分の進路をはっきりと決められるほど、この子の内面が育っていなかったと思われれます。温かな家庭がなく、母親も父親もバラバラの方向を向いて気ままに生活していた。親への不信感と自分自身への不安が一気に高まって、生きていく気力が失われたように思われれます。父親が厳しかったならば、母親は温かく子供を抱き締める、その温もりを心に持ってほしい。父親と母親は、その役割分担を上手に受け持ってほしいと思うのです。

### Iさんの思い

死ぬってどういうことだろう。苦しくないのかな、怖くないのかな。

自殺する子供のニュースが毎日テレビで映っている。みんな簡単に死んでいる。どんな思いで死んでいったんだろう。いじめ……我慢できないほど苦しくて悔しかったのだろうか、遺書を残して……。

遺書を書く間、気持ちが変わらなかったのだろうか。僕は今まで何度も遺書を書いてきた。気分がふさぐたびに書いてきた。自分の居場所がなかったから、自分が生きていく意味がないような気がしたから。でも書けば書くほど、本当に言いたいことが書けな



かった。こんな遺書を残して死ねないと思った。いろいろ推測されて言われるだろう。でも、それもしばらくの間、いつか忘れ去られてしまうと思うと、何か寂しくて、切なくて、死に切れなかった。マンションの屋上から飛び降りる自分、頭がぐしゃぐしゃに割れて脳みそが飛び散った。夢だった。いやな夢。死の現実ってそんなに奇麗なものじゃない、だから思いとどまった。

学校に行っても、家にも仮面の自分がある。これは本当の血の通った自分ではない。現実がふうーっと遠のく感じがした。みんなと勉強し、みんなと遊ぶ、冗談も言い、喧嘩もする。だけど僕は本当に生きているという実感がない。普通の家庭、普通の子供、世間ではそう言うだろう。普通ってどういうこと。みんな外観しか見ていない。家庭の中で繰り広げられている思い、葛藤、冷たい風、不和、誰がそんなことを見ているっていうの。表に出ないから、なお苦しいってこと気付かないのかな。押し込められて言えないことだから、なおさら苦しくて自分を傷つけていることに気がつかないのかな。

また自殺のニュースが流れた。いじめらしい。でも誰も本当のことは分からないと思った。遺書に本当のことは、心の叫びは書けない。何かかわいそうに思った。いじめた奴は心の痛みなんて感じていないよ。また普通の生活に戻って、普通の生活をしてい

くんだ。いじめていたことにも気付かないかもしれない。そんなのがうじゃうじゃいる。僕はいじめられてはいないけど、でも何気ない言葉で傷ついたことはたくさんある。でも、それをいつまでも気にしなかった。何か言われたら同じ言葉を返せばいい。死は怖くない。こんな世の中にいるよりましだ。でも、その瞬間が何か怖い。ビルから飛び降りて地上に激突するまでのその瞬間が、その時間が怖い。僕は紐を用意した。遺書は書かない、どうせ何も書けないから、心のすべてを書けないから。

みんな、さようなら……。

## コメント

この子はいじめによる自殺の報道が盛んになった頃、遺書も残さず自殺しました。はじめもなく、問題もなかったと周囲は語っています。明るく成績も良かった。そんな子なぜ突然、死を選んでしまうのでしょうか。本人は気がふさぐたびにと語っています。きつと気分の変調、むらがあったのでしょう。

自分でもなぜだか分からず、そのようなことがあるのを体験したことはありませんか。今まで楽しい、嬉しいと思っていたのに、急に何もかも面白くない、つまらない、切な

い、寂しい、虚しいと感じたことがありますか。そんな時は、そんな空気の中に沈み込まないでください。自分の好きなこと、興味のあることに思いを向けてください。そして気分が元に戻ったときに、その時の自分の心の状況を思い起こしてください。なぜ寂しいと思ったのか、虚しいと思ったのか、必ずその原因が自分の心の中にあることに気付いていくでしょう。

自分の心の中を静かに見つめながら、心でお母さんをお母さんでください。あなたの赤子の時を思い起こしながら、温かな胸に抱きしめてくれたお母さんを思い起こしてください。温かな思いが伝わってきませんか、優しい思いが伝わってきませんか。あなたは決して一人ではないのです。

自分で命を絶つ子供たちの思いを聞いていただきました。自殺するには、その子供にしか分からない理由があるでしょう。耐え切れず、持ちこたえられず、苦しみなから、悲しみながら、恨み、憎しみを膨らませながら、絶望に打ちひしがれ自ら死を選ぶ。そんな人生を歩んでほしくない、それが率直な思いです。あまりにも痛ましいです。ただ自殺をする原因には、いじめや失恋、学業不振、家庭の問題、虚無感、精神障害、その

他にもいろいろとあるでしょう。表面的にはいろいろな原因が考えられます。しかし根本に隠された思いは、そんな単純なものではないことに気付かされることでしょう。

たとえば、いじめに遭う子供は数多くいます。これからますます増えるかもしれません。でも、いじめられた子供すべてが自殺に追い込まれるわけではありません。何とか周りの支えを受けて立ち直る子供もいるでしょう。死に真っすぐに向かってしまう子供、そこから引き返してくる子供、そこにどのような違いがあるのでしょうか。もちろん、家庭の環境、その子供を取り巻く環境の影響も否定できません。でも一番強く思うことは、その子供が自分で生きていく意味を見いだしていけるか、否か、その違いではないでしょうか。

そして、その違いはやはり家庭の中で、はぐくまれていくものだと感じています。

あなたは子供がとても大切な存在であるということを、心から伝えてきたでしょうか。親にとって代わりがない、それほど愛すべき存在だと伝えてきたでしょうか。愛情は物では表現できません。心から心へ伝わっていく、心で受け止めていく、そういうものではないでしょうか。

子供は自殺ということを、どれほどの重みで受け止めているのでしょうか。中にはゲー

ムのような感覚で、死んでもまた生き返れる、生き返って違った人生を歩めると思っ  
ふっと死に急ぐ子供がいても、今のご時勢から考えるといかないと言い切れません。人  
生をリセットする、そんな感覚かもしれませぬ。

昨今、あまりにも人命を軽視したゲーム、漫画、ブログが巷ちまたに溢れています。ニュー  
スでも各地の戦争、紛争の現状が映し出され、人の命があまりにも簡単に失われていく  
惨状を目にすることが多くなっています。人々の心の奥に潜む闇のエネルギーが様々な  
形をなして目の前に現れている、今はそんな時代なのではないでしょうか。

しかし、どんな情報が巷ちまたに溢れていても、自分の生きる意味、自分の存在の意味が確  
立されている子供はびくともしないでしょう。

死にたいと考えている子供に、「死ぬな、死んだ気になって頑張れ」と言うのは簡単  
です。「死ななければ、これからきつといいことがあるかもしれない、楽しいことも、い  
い思い出もいっぱい作れるだろう、苦しいのは今一時だけだ、乗り越えろ」と、叱咤しったげ激励げいき  
するのは簡単です。でも、それに子供は応えてくれるでしょうか。

本当は親子それぞれが、命の尊さ、そして、なぜ生まれてきたのかを自ら知り、生きていく喜びを見いだしていけるような家庭環境、親子関係を持っていただきたいと思うのです。苦しい自分ではなく、喜びの自分を見いだしてほしいと思うのです。自分をいとおしいと思ったら死ねるでしょうか。自分の中に優しさや温もりを感じていたらなら死ねるでしょうか。子供たちには自分を大切にすること、ぜひ心で知ってほしいのです。人はそれぞれ自分で決めてきた道があります。お母さんに命をかけて産んでもらい、自分はこんな道を歩んでいきたいと、決めてきた道があります。それは決して出世をするとか、認められる職業に就き高所得を得るとか、また何かに秀でて世界にその名をとどろかすということでもなく、本当の自分を取り戻すということです。では本当の自分とは一体何でしょうか。今、苦しみ、悩み、様々な葛藤の中で自分の行く末を考えている、また死を考えているのも自分です。でも、それは肉を基盤とした自分です。喜怒哀楽、絶望、失望、憎しみ、憎悪、呪い、様々な感情によって動かされる自分があります。人の言動、行動、自分に対しての思いなどに左右されて心を揺らし、様々な思いを出したり、反撃したりするのも肉の自分です。

しかし自分の中に、それを冷静に客観的に眺める目があるのを感じたことがあるで

しょうか。今、あいつがこう言ったから、ものすごく腹が立った。ぶん殴ってやりたいほど腹が立った。だけど、どうして腹が立ったのだろうか……。あいつの言った言葉のどこが気に入らなかったのだろうか。どうしてそれが自分の心をえぐったのだろうか。それにとらわれる心があるのだろうか。一体自分は何を嘆き、何を悩んでいるのだろうか、その実態はなんだろう……。と、一つひとつ心が動くたびに自分の心の奥深くを見つめていけば、自分の心の中にある闇に気付くでしょう。闇に気付き、その闇を自分のものとして認めていったとき、それはやがて喜びに変わっていきます。

何を言われても、どんな行動をされても冷静に受け止め、ただ自分を見つめるようにしていく自分を見いだしたとき、もうあなたは人の言動、行動に左右されるあなたではなくて、本当の自分と共に歩んでいくあなたに、変わっていきけるのではないのでしょうか。

自分にとって苦しいことも、すべて自分自身の心を見ていく教材と受け止められないでしょうか。少しずつ何事にもとらわれない自分を発見したとき、どんどん軽くなっていく自分を感じて、生きていくのが楽しくなっていくのではないのでしょうか。自分の中に段々優しい自分を発見したとき、責め裁き、憎んでいる相手の心や思いを、自分の心

の中にも見いだして、全く同じだったと自分も人をも許せる思いを発見したとき、あなたは自分の心が広がって、些ちか細なことにとらわれない自由な自分を感じていかれるのではないのでしょうか。

もう一つ大切なことは、私たちは永遠の命を持っているということです。私たちの本質は、この〇〇という名前のある現在のこの姿ではありません。意識は永遠です。たくさんの過去世があり、未来があります。数え切れないくらいの転生の間に、様々な心癖を培ってきました。真っ暗な凄まじい闇のエネルギーをまき散らしてきました。心に培ってきた闇に気づき、それを修正していく、本当の自分に帰っていく、真実に目覚めていく、そのためにこの肉を選んで生まれてきたのです。

今、苦しいからといって自分の命を絶つということは、自分で自分をさらに闇の深淵しんえんへ落とし込んでいくということです。死んでも苦しい思いや悲しい切ない思い、憎しみ、憎悪の思いは消えることはありません。決して楽にはならないのです。ますます苦しい思いを抱えていくということを知ってほしいのです。信じられないかもしれせん。でも、それは厳然とした事実です。

あなたがその肉体を母親からもらって生まれてきた、それはとても大きな意味がある



のです。生かされてなしていくことがあるのです。それを途中で放棄して、自分で自分の道を断ち切ってしまうということが、どういうことなのかお分かりでしょうか。

死にたいという闇の思いに飲み込まれないでください。自分の人生の目的を果たしていきたいと願う、真実の自分に忠実に生き続けてください。

命を大切に……、それはとても大きな意味があることなのです。

### ※ 母親の温もりからのメッセージ

私は一人ひとりの心の中に存在する優しい温かな温もりの心です。その温もりを見失ってしまい、寂しい孤独な人生を歩んでいると感じているあなた。誰にも認めてもらえない、必要とされていないと感じているあなた。決してあなたは一人ではないのです。あなたの心の中には、たくさんのあなたが存在します。今、肉体を親から頂いて存在しているあなたは、代わりのない掛け替えのない存在なのです。自分の心の中をのぞいてみませんか。心から訴えてくる思いに耳を傾けてみませんか。寂しい思い、苦しい思い、悲しい思い、悔しい思い、憎む思い、それはすべて肉体を持つあなたが作り出してきた思いです。本当は存在しない、消えてしまう、いいえ、あなたの中で喜びに変え

ていける思いなのです。

肉が本当のあなたではないのです。永遠に存在する意識のあなたを大切にしていってください。肉はいずれ消えていき、意識だけが存在する。そして、また新しい肉体を頂いて転生を続けていくのです。本当の自分に帰る心の旅を続けていくのです。心に蓄積させてきた、たくさんの汚れた凄まじい思いを一つひとつ見詰め続けて、温かな優しい思いの中へみんな帰っていく、そのために存在しているのです。立派なあなたでなくもいい。人に尊敬されるあなたでなくていい。本当に大切なのは、ありのままの自分を知り、自分を大切にしていくということなのです。一緒に歩いていきませんか。あなたはいつも私と一緒に、ひとつです。苦しいとき、悲しいとき、切ないとき、そして嬉しいとき、いつも私に語りかけてください。いついかなるときも、あなたの心の中に存在しています。

### ※母親の温もり

すべての人の心に存在する思い、言い換えれば本当の自分、ここでは母親の温もりと表現します。きっと、自分の心で感じていただけるのではないかと思っています。



いじめについて

最近、いじめの問題が大きくクローズアップされてきました。いじめによって自殺してしまっただけの子供たち。それを契機に、どのようにいじめに対応していくか、いじめをなくすためには、教育の現場でどう対応していったらいいのかが取りざたされています。いじめに対して何の対応もしてこなかった、いじめを隠す教師、学校、教育委員会などが世間の非難を浴びています。

なぜ、いじめが起きるのか。そして、それが年々増加しているのか。いじめに遭う子供、いじめられる子供、そのどちらにも心に大きな傷を負い、先の人生に影を落とすこともあるでしょう。いじめられる子供、いじめられる子供、そのどちらにも家庭、家族があります。家族はこの問題にどのようなかかわっているのでしょうか。

いじめに遭っている子供は、その被害が大きければ大きいほど、家族には何も言わないで一人で抱え込み、苦しみ、どんどん自分を追い込んでいきます。また、いじめられている側の子供も、普段は良い子で通り、家の者はその実態を知らなかったというケースも多いのが実情です。

それではいじめに遭っている子供、いじめに参加している子供、そして教師、周辺の

大人の思いを聞いていきましょ。う。

### Aさんの思い

今まで仲良くしていたグループ、どこに行くのも一緒、勉強するのも、遊びに行くのも一緒だった。でもある日、突然無視されるようになった。なぜだかよく分からない。話しかけても返事もせず、すうーっと離れていく。理由を聞いても、「自分の胸に聞いてみな」と言うばかり。それ以外は一言もない。グループ以外の人も皆遠巻きに見ている。遊ぶのも何をするのも一緒だった。依存していたのかもしれない。学校へ行くのも一人、勉強するのも、お弁当を食べるのも、部活も、何か急に寂しくなった。母にちょっと話したら、「気にしないほうがいいよ。何か気に障ったのかもしれないね。自分の胸に聞いて恥じることがなかったら、ほっておきなさい、友達はまだできるから。これからも何かあったら、必ずお母さんには言ってちょうだいね」と言われた。何かほっとした。お母さんだけは分かってくれる。お母さんだけは私の味方をしてくれる。心強かった。私は努めて学校でも何気ないふりをし、私からは何も話しかけず、交流を求めるところもしないようにした。それがかえって気に障ったのか、わざとぶつかったり、あるこ

とないこと悪口を言われるようになった。聞こえよがしに聞くに堪えないことを言っている。クラス中にうわさが広まった。私が万引きをしたとか、他校の不良と付き合っていると、根も葉もないことを言っている。弁解したって誰が聞いてくれるというのだろう。みんな信じているのだろうか。気の毒そうな顔をして見ている人もいるけれど、そんな中傷をしてはいけないと、注意してくれるクラスメートは一人もいなかった。先生に呼ばれた。「一体何があったの、どうして仲たがいのしたの」、そう聞かれても説明のしようがなかった。でも、「うわさになっていいることは全部嘘です」とだけ伝えた。いじめなんかに負けない、絶対負けない。ただ淡々と日々を過ごしていこう。いつまでもこんなことが続くとは思わない。楽しいことがあるって信じていこう。いじめている友達もいつかは気付いてくれるかもしれない。自分たちのしていることを恥じる時が来るかもしれない……。

### 母親の思い

このところ浮かぬ顔をしていると思ったら、この子がいじめに遭っていたなんて。でも、よく私に言ってくれました。プライドの高い子だから、きつと苦しかったでしょう。

言葉の暴力というのは恐ろしいですね。私も実は中学生の時、いじめに遭いました。何の根拠もないことを言われました。ちょっとしたけんかが広がって、私をのけ者、仲間外れにするというものでした。その時の苦しい気持ち、やるせない思いがよみがえりま  
す。でも私は負けなかった。味方になってくれる友も一人だけいたし、母も支えてくれました。「頑張り」とは言いませんでした。「相手があることだから、でも自分の気持ちをしつかりと持ちなさい」と言ってくれました。私のことを「信じているから」と言ってくれました。私はそれでよかったです。信じてくれている母がいるというだけで強くなれました。私も娘を信じます。きっと乗り越えてくれるでしょう。

### コメント

Aさんの場合はまだ暴力を伴わない、少人数によるいじめです。他のクラスメートからは、グループが分裂していると見られたかもしれないかもしれません。また、いじめる側が強いリーダーシップを持っていなかったのと、Aさん自身がかなり強い精神力を持った少女であったこと、そして、いじめの初期に母親に打ち明けることができ、また母親がその思いを受け止め、共に考える強い味方になってくれたことが、功を奏しているように思



われます。子供は自分が信じてもらっている、愛されていると感じると、とても強い力を発揮するものです。

## Bさんの思い

痛いよ痛いよ、なぜ僕がこんな目に遭わなきゃいけないんだ。僕が何をしたっていうんだ。いつの頃からか、よくからかわれるようになった。僕がもたもたしているところをやってる、愚<sup>ぐ</sup>図<sup>ず</sup>、どじ、まぬけ」と、どつかれるようになった。ただ黙って笑っていると「こいつへらへらしてるよ、どつかれるのが嬉しいらしいぜ」と、ほったたをつねられたり、お尻を蹴<sup>け</sup>飛<sup>と</sup>ばされるようになった。誰も止めてくれない。学校に行くのが怖くなった。休み時間、移動の時間、笑いながらそばに寄って来て「おい、のろま」と言いながら、服に絵の具を塗っていく。なぜ、こんなことをするんだ。人をいじめるのがそんなに楽しいか。学級委員が担任にいじめがあることを言ってくれた。先生はホームルームの時間に、いじめについてどう思うかとアンケートを取った。だけど、それでいじめがなくなったわけではない。学校の中だけじゃなく、学校への行き帰りに待ち伏せされて、地面に押し倒されて、殴られ、蹴<sup>け</sup>られた。どろどろになって帰った僕を見て、

父さん、母さんは真っ青になって学校に飛んでいった。「一体何が起こっているんだ。学校はいじめの実態を把握してるのか。教師や学校は何をしているのか。どんな対策を取ってくれているんだ」。担任は言った、「ホームルームでも話し合って、子供なりの考えも聞き、その件については十分に対応しています。考えるにこの子にも何らかの原因があるように思われます」。原因で何なんだ。僕は誰の迷惑になることもしていない。悪口も言ったことがない。いじめる奴らは「ただお前がそこにいるということが我慢ならない」って言った。「同じ空気を吸うと毒で汚れる」と言った。「バイ菌をまき散らす奴とは一緒にいたくない」とまで言った。

体育の時間に運動服に着替えようとしたら、足首や袖の部分が瞬間接着剤で閉じられていた。必死になってはがして、破れた運動服を着て遅れて集合した。体育の先生は、「何で遅れる、気持ちが悪んでいるぞ。もっとちゃんとせんかい」と言った。あいつらは横目で見て面白そうに笑っている。悔しさと情けなさいっぱい、涙が溢れてしようがなかった。もういやだよ、こんな学校。正しいこと、間違っていることが何の判断もされなくて、僕は我慢を強いられるばかりだ……。

## 母親の思い

いじめが話題になるたびに、うちの子がその対象にならなければいいと、そればかり思ってきました。時々、元気のなさそうな顔で学校から帰ってくると、そのたびに不安がよぎりました。この子は気立てのよい優しい子です。あまり自己主張することもなく、のんびりと過ごしてきました。人が五分で済ますことを十分かかる、そんなのんびりしたところもありましたが、それも個性だと思ってきました。決して欠点だとか問題だと、家庭では捉えたことがありませんでした。でも今、物事をてきぱきこなせない、自分の思いを主張できない、人との付き合いが下手、それが全部いじめにつながるのであれば、一体どのように対処していったらいいのでしょうか。以前はそんな子供を手助けしてくれる子供もいました。いろんな子供がいて、助け合いながら、補い合いながら、楽しく学校生活を送ってきたように思えます。どうして子供たちの心がこんなにすきみ、いじめの対象を探し、これでもかこれでもかと追い立てるのでしょうか、何かにせきたてられているように……。こんなことが許されているのでしょうか。いじめをなくすということは、いじめをする子供の心の奥深くに入って原因を受け止めていく、その子供の心の悩みや寂しさを探っていくということではないでしょうか。子供がどろどろに

なって帰ってきたとき、慌てて夫と学校に走りましたが、今の教師にはやはり失望しました。事なかれ主義です。「ちゃんと言っていますから、お母さん、そんなに騒ぎ立てないでください」と言われました。私はいじめをする子が憎いとは思いません。きっと何か悩みがあるんでしょう。人に言えないストレスもあるんでしょう。そんな子供に対応していくのが教師や学校の役目ではないんですか。いじめそのものをなくすことばかり考えても、何の役にも立ちません。うちの子のように、いじめに遭う子供が増えるばかりではないでしょうか。

普段、夫は育児にはほとんど口を出しません。育児はお前の仕事だ、そんな態度でした。でも息子の様子を見たとき、慌てて学校まで談判に行った夫は、私には頼もしく思えました。家族の中で通い合える心を感じました。親にとって子供は掛け替えのないものです。どこの親もそうではないでしょうか。

### いじめの子供の思い

いじめが悪いことだなんて百も承知だ。だけどBの顔を見ると、ついついつっかかっていきたくなる。お人よしのぼんぼん顔を見ると、ぐしゃぐしゃにしたいくなる。いじめ

ても抵抗してこないから、やりやすい。Bには仲間もいないからやりたい放題、誰も文句を言ってこない。こんなことをしている自分は、何となく自分でもいやだ。でも、もう止められない。仲間でやると、そのうち加減が分からなくなる。どんどんエスカレーターしていく。誰か止めてほしいと思うこともある。だけど親も教師も……。どうでもいいか。期待する俺がおかしいか。いじめていても虚しいよ、寂しいよ。自分が存在している意味なんてどこにも見いだせないから、惰性で学校に来て、惰性で勉強をして、意味もなく時間をつぶしている。不良というレッテルを貼られているわけじゃない。でも学校で、自分の中のこのどうしようもないエネルギーを発散させているときだけが、何か生き生きとしてくる。家では何食わぬ顔をして、親とはめったに話もしない。自分の部屋にひきこもって、パソコンを操作している時が一番楽しい。ゲームは楽しいよ、非現実の世界に遊んで、違う自分を発見できる。指の動き一つで、ゲームの中ではどんな強い奴らも倒せる。機関銃を持ってなぎ倒せる。

自分でも気分が高揚して、何でもできるような気持ちになってくる。やばいな、ふっとそんなふうに思うときがある。

気弱な鈍い奴を見ると、何かこの指で握りつぶしたくなるような思いにかられる。無

性にイライラしてくる。だけど、いじめが大きな問題になったら俺たちどうなるのかな……。いじめが悪い、確かにそうだ。だけど本当に悪いとは思っちゃいない。Bがそこに存在するから、どうしても手を出したくなる。消えてしまえ、目の前から消えてしまえ……。

### 教師の思い

あの子は、やや発達に個性が見られる子供です。はっきり遅れているとまでは言い切れませんが、すべてに不器用です。それがクラスメートをイライラさせるのでしょうか。グループ別で何らかの課題をこなすとき、一人足を引っ張ってしまう。協調性がない。そんなことが原因になり、いじめられしきものがあるのは薄々感じてはいましたが、ある生徒からそれをはっきりと指摘されたとき、大変なことになったと思いました。クラスでどのくらいいじめがあるのかアンケートを取りましたが、確かに片手間と言われれば否定できないお粗末なものだったかもしれません。本音を言わせてもらえば、いじめの原因は学校にはないと私は思っています。学校は勉学の場です。つけの場ではない、しつけは本来家庭でなされるべきものでしょう。何でもかんでも学校や教師のせいにはされた

らたまったものではありません。家庭のしつけにまで口を出せるほど、今の教師は信頼されていない。また聞く耳を持った親は少ないと思います。高学歴の親が増えました。小中の教師なんかよりは、自分たちのほうがよっぽどましだと思っている親が多いし、また子供の前で教師の悪口を言う、そんなことに何の抵抗もないんです。親がバカにしている教師の言うことなど、子供が聞くと思えますか。ある親は子供が聞いている前で、「良い教師は私立や塾に引き抜きされる、公立に残っている教師に能力のある先生は少ない」とまで言い切りました。今の学校はこんな状態です。何かがもう完全に狂っているんです。学校で社会性を身につけさせる、そんなことはもう夢です。教師の多くは、内心学校にあれこれ言ってくる前に、自分で自分の子供をもっと管理せよと思っているのではないのでしょうか。

## コメント

いじめをする子供の親について教師は語っています。確かに言っていることは部分的にはうなずけます。でも、それではそれにどのように対応していったのでしょうか。話し合いの場を設けて、問題のある事柄について話し合うことができたのでしょうか。そ

れとも話し合う意欲すらわかなかったのでしょうか。初めから両者ともあきらめているようにも思われます。どちらも世間体やらプライドを捨てて、子供本位で物事を進めていく姿勢が大切ではないでしょうか。いじめをする子供の心に親は気付いているでしょうか。その心の叫びに気付いているのでしょうか。なぜ学校で人を傷つける行為をしまうのか、弱者を痛めつける行為をしまうのか、その心の奥深くに隠されている闇の心、エネルギーは決して放置してよいものではありません。どうしてそのようなエネルギーが心の中に蓄積されていったのか、「苦しかったろう」という思いで子供を見つめることができますか。それとも「そんなことをしてかして、親に恥をかかせて」という思いで子供を見つめるのでしょうか。親自身も自分の心を見つめていく、いいきっかけではないでしょうか。

### Cさんの思い

許さない、絶対許さない。いじめ、そんな単純なものではない。こんなことがあっていいのだろうか。生きていくのがいやになるような仕打ちばかりされる。最初は単なるからかいから始まった。「色黒、出っ歯、お前はメーカーしなくてもガンダロだな」。ただ



笑って済ませていた。でも何となくいじめの前兆が感じられたとき、友達は離れていった。今まで友達だと心を許している話していたことが、筒抜けになった。いじめをする五、六人の中の一人の悪口を尾ひれをつけて伝えられ、私は校庭の隅に呼び出され、リンチを受けた。外から見える所はやばいぞと背中をどつかれたり、腹に蹴りを入れられた。必死で逃げて、そのまま先生の所へ行った。今までのことをすべて訴えた。担任は、「校長先生にもよく相談して善処するから、それまで何とか頑張って耐えてくれ」と言った。なぜ、すぐ行動を起こしてくれないの。いじめた奴らがすぐそこにいるのに、なぜ何もしてくれない。ガングロと呼ばれるくらい、いいじゃないか。暴力を受けたと訴えても、外から傷が見えないから親身になってくれなかった。男の担任に服を脱いで見せられないじゃないか。私はびくびくして教室に戻った。

段々いじめはエスカレートして、家族の悪口まで言われるようになった。「お前の親父は悪行で金を儲けているんだから、その金を持ってこい」。初めは、五千、一万と自分のお年玉なんかの貯金から持っていった。次第に二万、三万、五万、十万と金額がつりあがっていった。親のお金を盗んで持っていった。十万の時はさすがにばれた。「何に使うの、泥棒みたいなことをして」、母はかなり機嫌悪く言ったけど、深くは追求しな

かった。母は忙しい。あまり私のことは干渉しない、というよりどうでもいいのか。もし私がいじめに遭っていると知ったらどう反応するのか。でも家では誰にも言えない。兄ははじけ飛んで、この家には寄りつかない。母とすごいけんかをして出ていった。お金はもう持ち出せない。母がどこかに隠してしまった。お金を都合できなかったら次はどんな要求をされるのか。

私は何も望まない、ほっておいてくれたらいいだけ。学校にも、もう行きたくない。朝起きるとお腹なかが痛くなる、吐き気がしてくる。今日は休もうか、休んだら家にまでは押しかけてこないだろう。何であいつらのしていることは許されるの……。弱腰の先生、いじめてる奴らに何も言えないなんて、それでも教師か。でも、もう何も期待しない。

いじめで自殺する話をよく聞くけど、気持ちは分かるけど、でも私は死なない……。こんなことで死んだら自分がかわいそうじゃないか。それに私が死んでしまったら、かわい犬も鳥も誰も世話してくれない、この子たちは私だけが頼りだもの。家で一人寂しい時も、悲しい時もいつも慰めてくれた。今でも尾っぽをちぎれんばかりに振って私を見て喜んでくれる。つぶらな瞳でじーっと見つめてくれる。その優しい目が好きだ。

人間よりよっぽどいいよ、絶対裏切らないもの。

## 母親の思い

いじめですか、あまりピンときません。うちの子は気が強く頑としたものを持ってるので、いじめには遭わないでしょう。いじめられたら、いじめ返してやればいいんですよ。泣き寝入りするなんてそんなバカなこと……。それより非行が心配です。悪い友達と付き合っていないか、このところ金使いが荒いように思えるんです。どうもお金を持ち出して使っているようなので、お金の管理をしっかりするようにしています。私は今、夫の代わりにいろいろな事業をしています。夜の仕事もしています。だから家庭の細かいことまでは気が回りません。子供なんて衣食住を満たしてやったら、あとはほっといても育てていくものと違いますか。こんな立派な家があって、気に入ったものは買って着てるし、食事も宅配が届くし、好きな所で食べられるじゃないですか。今の子は贅沢ぜいたくですよ。私だって好きで仕事に没頭しているわけではありません。夫にちょっと不都合があつて、それでやむなくやっているだけです。息子は、散々悪態をつけて家を出ていきました。親の苦勞、子知らずですね。私が夜遅いのも、タバコを吸うのも、お

酒を飲んで前後不覚になるのも仕事の一部じゃないですか。そこを理解しないで勝手に出ていってしまいました。子供なんて育てるものじゃないですね。一人で大きくなったような顔をして……。でも寂しいですね。何か虚しくなってきました。

### いじめる子供の思い

前からあいつは気に入らなかつた。持ち物が気に入らなかつた。いくら親に言っても買ってもらえないような小物類をいっぱい持っている。あれは何万もする奴だ。着ている下着もソックスも全部ブランド物だ。一人いつもつんとして、自分はある人たちとは違うのという顔をしている。顔が黒いから、からかってやった、何にも似合わない不細工女って……。悲しそうな顔をしていたけど、その顔を見たらなおムラムラしてきた。私の悪口を言っていると聞いたので、それを理由にリンチを加えてやった。少しは思い知れ、何様のつもりだ。ブスで出っ歯で何の取り柄もないくせに。お前の持っているのは金だけじゃないか、その金が憎いんだよ。うちなんか親が二人がかりで働いても食べていくのがかつかつき。満足に小遣いももらえない。欲しいものがあるてもいつもじっと我慢か、ピークが過ぎて安くなってからじゃないと買えないよ。くそ腹が立つ。妬ねたまし

いんだよ。でも、そんなことはおくびにも出さず、痛めつけてやるのが快感なんだ。お前のうちは金があるから私立でも行けるだろ、さっさと行ってしまえよ。転校でも、退学でも何でもしてしまえ、目障りなんだよ。

### 教師の思い

本当に困ったものです。やはり僕のクラスにもいじめの問題が発生しましたか。いじめは今に始まったことじゃない。私が小学生や中学生の時にもいじめはありました。でも、その底に流れるものは全く違いましたね。昔はからかいが少し高じた程度のいじめでした。私も「出べそ、お前のかあちゃん出べそ」などと、よく言われたものです。その時は少し悲しかったけど、あとはまた普通に遊んだものです。教師もすかさず、「お前見たことあるのか、見てもないことを言うんじゃない」と、それでしまいました。子供の世界に貧富の差や、親の職業の違いや、家庭の背景をあまり持ち込まなかった。いろいろな違いはあっても、それはそれで学校では皆入り混じって順応していたものです。いつの頃からか学業も競争になり、子供の間の競争、教師の間の競争、学校間の競争が激しくなり、人の心にゆとりや思いやりといった温もりが、どんどん消えていきま

した。今では塾に行くために、掃除当番も弱い者に押しつけて、急いで帰る子供が多くなりました。放課後残って、楽しくおしゃべりをするということもなくなりました。教師の中には生徒を遅くまで学校に残しておく、ろくなことがないとせきたてるように帰す人もいましたが、掃除当番をお金を払って代わりにさせる子もいて、それはさすがにやめさせました。すべてにおいて自分本位で、自分の都合で他の子を動かす子供が増えました。

教師をしていると、つくづく今の子供がかわいそうな気がします。子供の価値がまるで勉強の出来で決まるような、そんな風潮はおかしいですよ。どう考えても。分刻みの生活をさせられて、塾のはしごをしている子供はいっぱいいます。夕飯も家でそろって食べる子供は少なく、それぞれ自分のスケジュールに合わせて、ぽつんと一人で食べている。子供はいつ学校であったこととか、悩みとか、嬉しいこととかを、親と話し合っていて共感するんでしょうか。今、いじめの問題があると、どうしたらいいかなくなるか、学校はいじめにどう対応していったらいいかと議論になりますが、そんな上面をなぞるようなことでは解決しないでしょう。人間としての基本が全くできていない、あんぐりと口を開けてしまうような何とも言えない、社会性がないというか、協調性がないとい

うか、みんなで物事を達成する喜びを知ろうともしない、自分勝手な子が多いような気がします。それは父兄にも言えることで、自分の子供さえよければそれでいいという親が増えました。学業の遅れた子がいるとクラスのできる子の足を引っ張るとか、結局それが全体のレベル低下につながるかと、平気で文句を言ってくる親が増えました。教師の値踏みもし、気に入らないと「担任を変えてくれ」と平気で言ってきます。自分の子供がどうだからではなくて、担任が悪いから、教科の担当教師の能力が低いから成績が上がらないとか、あまりにも理不尽なことが多く、ノイローゼになった同僚もいます。本当にやりにくい世の中になりました。

大人の世界の縮図が子供の世界に持ち込まれている、そう感じるときもあります。弱者が追い詰められる、いじめられる、そして、ただ傍観する、教師もただ傍観する、そんな状態なのかもしれません。校長にも事態を説明しましたが、「あそこは家庭にも問題があるところだな、厄介だな、何とかしてくれ」と、丸投げをされました。

## コメント

忙しい母親、物を与え、食べさせ、お金を与えること、それが養育だと思っている節

が見られます。教師はそんな家庭に疑問を持っています。家族のあり方、家庭のあり方に教師なりの思いがあるのでしょうか。しかしながら、いじめる子供への対応は全く手がつけられない状態のようです。学校側もいじめ問題への対応がうまく話し合われていません。今まではこんなケースが多かったのだろうかと推測されます。私が以前担当したケースの中で、やはり担任の教師を変えてしまった親がいました。子供は落ち着きのない、授業中もうろろする子供でした。少しいじめにも遭っていました。注意欠陥とまではいなくても集中力に欠ける子供でした。親は自分の子供だけを注意深く見てほしい、そして、その反面、特別な目では見てほしくないという希望を持っていました。親の希望もあり、子供を注意深く見ていると、他の児童への目が行き届かなくなり、クラスがざわついてきました。その時、親はこの先生には指導力がないと決めつけました。中にそれに同調する親がいて、担任は交代になりました。この親は一見普通の人です。でも子供にやや問題があるということ、必要以上に敏感になっていました。子供の力を信じるのではなくて、子供をサポートする体制ばかりに注意を払うようになりました。そこに問題があったように思うのです。担任が代わっても同じような状態になったとき、初めて親は自分が今まで出してきた思いを見つめるようになりました。周りを責



め裁く思いをまき散らしてきたけれど、自分にこの子を受け入れる気持ちがなかったのだということに、気付いていかれました。その時以来、とがっていた三角の目が優しくなったように感じました。

## Dさんの思い

私は先生との相性が悪い。最初、担任になったとき、ふといやだなと思った、うわさでひいきの多い先生だと聞いていたから。何か気分が不安定で、いやになれなれしかったり、突き放すようにしたり、あまり先生という感じがしなかった。私はいつもぶっきらぼうに接していた、少し気持ちが悪かったから。

でも、そんな私に腹を立てたのか、次第に何か、私だけにつらく当たるようになった。私は一番後ろの席に座っていたから、プリントの枚数が足りなくて「足りません」と言っても、聞こえないふりをしていた。前の子が「先生一枚足りません」と言ってくれても、「Dは何でも分かっているからいらなんだ」と言い放った。友達がコピーしてくれたら、その子まで「余計なことはするな」と叱られた。

担任に睨にらまれたら大変なことになる。私は進学希望だし、どんな内申書を書かれるん

だろう。何か暗澹あんたんたる気持ちになってきた。「あの子は問題児だ、気をつけて付き合いなさい」と、友達に言った。友達は初めは同情的だったけれど、段々遠ざかっていった。とても悔しくて、悲しくて、情けなかった。どんどん私の中で憎しみが広がっていく。あれが教師か、公平であるべき先生が何の躊躇ちゅうちよもなく私を無視している。テストの解答も合っているのに、「字が汚くて読みにくい」とか、「文章の構成が悪い」とか言って点数をくれない。他の子のほうがよっぽど字も汚いし、文章も下手くそでの外れているのに。抗議しても、「文句があるなら零点にしてやろう」と、零点にされた。どんな人間なんだろう。あんな奴、教師になるべきじゃない。校長先生に言いにくいとか、聞いてくれるだろうか。親には言っていない。何か言えない、どうしてか分からないけど……。きっと親は心配するだろう。そんなバカなことって学校に飛んでいくだろう。朝が来ると、とても憂鬱ゆううつになる。体が重く鉛が入ったように感じる。他校にボーイフレンドがいる。このことは何にも言っていないけど、もしかしたらうわさで耳に入っているかもしれない。でも以前と変わらず普通に接してくれる。私は彼といるときが一番楽しい、ほっとする。彼との間には競争もないし、利害関係もないし、素直な気持ちで向き合える。

頑張るだけ頑張っていこう。実力で入れる、そんな所へいけばいいんだ。学校を卒業したら、もう担任ともお別れだから、それまでの辛抱だ。だけど絶対許さない、許してなるものか……。

### 母親の思い

いつの頃からか、あの子がテストを見せなくなったのが気になって、机の中を悪いと思いつながら調べてみたら、ぐちゃぐちゃになってバカと大きく書かれたテスト、おまけに零点と書かれたテストを見つけてしまいました。何かすうーっと血の気が引きました。何が起こっているのだろうと思いましたが。あの子は何も言いません。でも時々何か考え込むような様子でため息をついているのを見て、何と声をかけようか、いやいや本人が何か言い出すまで待ってみようかと、葛藤し続けました。言葉を出さずに自分の心の中であれこれ思うのって、本当につらくて苦しいです。娘の性格は明るくて物怖ものおじしない、そして思いやりのある優しい子だと思っています。でも、やや人の好き嫌いはあるかもしれませんが。ですが誰しもそれぐらいのことはあるのではないのでしょうか。私は一人っ子で育ちました。両親はとてもかわいがってくれました。過保護じゃないかと思

えるくらい、かゆいところに手が届く養育というのでしょうか。だから息苦しくなって反抗もしました。わざと親の勧める学校へ行かず、自分でデザインをやりたいと、「大学に行け」と言うのを振り切って、専門学校へ進みました。私はただ目的もないのに箔はくをつけるために大学に行く連中がいやだったんです。大学に行かなかったことも、後悔なんかしていません。行けなかったんではなく、自分の意志で行かなかったという自負があるからです。好きなことをやる学生生活は楽しかったです。自分でも生き生きとしていたと思います。運よくデザイン事務所にも勤めることができました。楽しみながら仕事をし、お金にならなくても何の苦にもなりません。二十六歳で結婚して子供も一人できました。少し手が離れたので、今、家で少しだけ仕事をしています。私は今の子は何を目的に生きているのだろうと、ふと考えることがあります。娘が通う学校は受験校ではないけれど、それでも競争は激しくて、テストの点などにかかなり敏感になっているようです。娘にはいつも「自分のやりたいことをやったらいい」と言っています。が、どう考えているのか分かりません。私が息が詰まるような思いをしてきたので、娘にはなるべく自由に自分で考え、行動するよう伝えてあります。でも、しばらくは娘の様子に気をつけて、どんなサインでも見逃さないように、注意を払っていききたいと思っ

ています。今になって何か親の思いが分かるように思います。両親はきっと私のことが心配だったのでしょう。

### 教師の思い

私は自信がありません。大学は文学部に入りました。ただ小説が好きで、いつかは自分も何か書いてみたい思いがあったからです。他の学部には大して興味がありませんでした。サラリーマンになって、毎日決まった時間に起き、会社に行く。そして仕事に疲れストレスをためる生活、出世競争などに打ち勝つ自信もありませんでした。無難なところで高校の教師になろうかと思いましたが、なれず中学に赴任ふじんしました。最初から何か希望を持って教師になったわけではありませんでした。私は人との付き合いがあまり上手ではありません。自分の思いも何かうまく伝えられません。集団の中にいるよりは、一人でいるほうが心が安らぎます。担任を持ったときとても不安でしたが、中にしっかりとした女子がいたので、いろいろと声がけをして、自分の味方というか手足になってほしかった。でも、その子はかえってそれをいやがって、私を避けるようになってきました。時々、不信感丸出しの顔をして私を見つめます。ここで負けるわけにはいかな

いと思いました。ぎゃふんと言わせ、私に従わせようとしたのです。でも、うまくはいきませんでした。私は時々、自分の中に残酷な自分を見いだします。突き上がってくるような、何とも言えないどろどろしたマグマを感じます。私は教師には向いていないのでしょうか。でも負けるわけにはいかないのです。今さら職を辞し、再就職する当てもありません。この頃、いじめの話題が世間をにぎわしていますが、私の行動、言動も非難される対象になるのでしょうか。何か段々窒息しそうな息苦しさを感じます。

## コメント

教師による子供へのいじめというのでしょうか。大人に成り切れていない教師と生徒の様子が目に見えるようです。母親の支えと愛情が感じられる家庭です。子供を育てながら、束縛や強制、干渉のし過ぎもありません。自分が昔息苦しかったことを思い浮かべながら、子供にはそんな思いをさせたくないと言っています。自由にのびのびと自分の人生を歩んでほしいと願っています。母親は自分自身にも自信があるのでしょうか、精一杯自分の人生を歩んでいるという自負があるのでしょうか。自分の願いを子供に託すということもありません。だから子供はのびのびと自分の考えの下で、たとえ教師

との反りが合わず、いやな思いをしながらもとらわれず、自分で自分の道を切り開いていく力、そのエネルギーを蓄えてこれたのだと思います。母と子供はそれぞれの人格を尊重し、共生的でも依存的でもありません。そんな関係を築いてきたのは、とてもよかったですと思います。

子供は、今は教師に対しても絶対許せないという思いを抱えています。時間が過ぎて振り返ったときに、それもまた自分を成長させた一つの出来事だったと、受け止めていけるのではないのでしょうか。心を見ていくことによって、そのように受け止めていくれたらと願うものです。

### Eさんの思い

苦しいよ、苦しいよ、誰か助けて。僕は変になりそう。教室の中がまるで地獄に感じる。教師が言った一言、「こいつは不可解な奴だ」。先生はどういう意味で言ったのか分からない。でもそれから、前から僕に対してなんか一物持っている奴のいじめが始まった。先生のお墨つきをもらったように「こいつは変人、奇人だ、目が四つっている怪物だ」と、何かにつけ騒ぎ立てるようになった。それに対して先生は何も言わな

かった。かえって面白がっているようだった。そのうち机の中にゴキブリが入れられた。得体の知れない汚物が入っている。みんなは僕が泣き出すのを待っているようで、固唾かたずを飲んで見つめている。負けてなるものか、でも何かプツンと緊張の糸が切れた。もうどうなってもいい。教室を飛び出すと後ろから奴が追ってきて、後ろから蹴けりを入れられた。前につんのめってカエルみたいになった。それを見て連中が笑った。こんな無様な格好、みっともない。怒りよりも、何か心をずたずたにされたような悲しみを感じた。もう学校には来たくない。家に逃げ帰り、洗いざらいぶちまけた。母は泣き出し、父に電話を入れた。大変なことになったと思った。父の性格はよく知っている。父は何て言うだろう。学校から逃げ帰ったことを叱るだろうか、弱虫だと僕を軽蔑するだろうか、それとも……。何か恐ろしい。

母はおろおろしている。父が帰ってきて、母から一部始終を聞いて、そして僕の顔面のすり傷を見て、「いつから始まった。一体何をされた。よく話してみろ」と言った。僕は何とも言えない悲しさと、悔しさと、屈辱感で息が詰まり、ぜいぜい言うばかりだった。もういい、どうなってもいい。父は「ゆっくり風呂に入って、今日はもう寝ろ」と言い、奥の部屋に入っていった。だけど両親に言えたことで張り詰めていたものが、



ふっとほどけた。少なくとも父が僕を責めなかったことが、僕には嬉しかった。今まで母や父をバカにしてきたけれど、時にはうるさくうざいと思ったけれど、でも何か故郷のような安心感を感じた。もう学校はいやだ、死にたいと一瞬思ったことが、ふっとほどけていった。

## 父親の思い

息子はおとなしい性格で目立つ子供ではありません。でも何か一つ、どうしても入っていけないような芯を感じる子供でした。私に甘えることもしません。反抗的ではありませんが、干渉されることを極端に嫌いました。だから教師に対しても何らかの干渉があったときに、はねのけるような反応を示したのでしょうか。それが教師の癪かんに障ったのかも知れません。ですが、「不可解」とはどういう意味でしょうか。それに便乗して他の子からいじめを受けているとは、私にはやはり許せません。私は我が子を何としても守りたい、いや守ってやりたい、即座にそう思いました。あまり感情的になってもいけないので、とにかく明日は一度学校に向向いて、状況を聞いてこようと思います。今までのいじめの問題も他人事ひとごとのように思っていました。まさか我が子に起こるとは、何とも

言えない心境です。母親は、もう明日にでもこの子がどうにかなってしまおうのではないかと、泣いて嘆いています。私も心中穏やかではありませんが、私が動揺したら息子はなお不安を募らせるでしょう。今まで子育てにはあまり関与してきませんでした。私の仕事も今は不況で順調とは言えませんが、でも今はそんなことは言ってもらえません。教師というのは不意な言葉を決して発するものではありません。その一言で子供の人生が変わることをもっと留意するべきです。大人に成り切っていない、やや人格形成に問題ありの教師もいるやに聞いています。明日話をよくして、話にならなかつたら校長に、それでも手ごたえがなかつたら、対策を考えていかないといけないでしょう。

### いじめる子供の思い

いじめめる対象は誰でもよかった。だけど、いじめやすい奴って大体決まっている。友達のない奴、いても目立たず弱虫同士の連合。誰かを標的にすれば一発さ。担任が忌々しいまいまそうに「不可解な奴」と憎らしそうに言ったとき、しめたと思った。こいつをいじめても担任は何も言わないだろうと、やっぱりそうだった。何か固唾かたすを飲んで、何かを期待するような顔つきだった。担任は生徒に愛情なんて感じていない。自分の権限、

プライドを侵す奴は絶対許さない、そんな教師だ。だから僕らは心得ている。あいつはバカだ、担任の神経を逆なでするから痛い目に遭うんだ。僕らは勉強はどうでもいい。何の楽しみもない、遊ぶことくらいか。だけど、それも何か刺激が少なくて、ゲームのような刺激を探してたところさ。このまま高校へ進んで、ところてん式に大学へ行って一体どうなるんだろう。あの大学じゃ先が知れてる。みんなに「誰でも入れる、行っても行かなくてもいい大学」って、バカにされているスカみたいのところさ。小さい時から親に認められなくて、褒めてもらいたくて、僕なりに頑張ってもみたけれど、期待通りにはいかなかった。何か自分でもどうしようもないって、自分に見切りをつけるようになった。いつの間にか同じような奴が集まって、いつも虚しい気持ちを抱えて、獲物を探すように刺激を求めて、心はさまよっていた。

親父は小言ばかり言う。僕を見ては母を責める、「お前の子育てがなってないから、根性のない、こんなどうしようもない奴に育つんだ」と。だけど、じゃあ親父は立派かよ。やっていることはどうなんだ。飲む、そして女。香水の匂いを服につけて、平気な顔をして深夜に帰ってくる。人に何か言う前に自分がシャンとしろよ。でも、そんなことを思っていると、「子供の分際ですねかじりが、家を出て行きたければ何もかも置いて、い

つでも出て行け」と、酔いが回った顔で喚く。こんな家、もういやだ。親父とやりあった日は腹が煮えくり返るようで、むしゃくしゃして、学校でもめちゃくちゃなことをしたくなる。何もあいつが憎くていじめているわけじゃない。ただ目の前にいるから、僕の中のこのどうしようもないエネルギーが疼き出す……。

### 教師の思い

僕は、あの子の目が嫌いだ。何もかも見透かしているような目が嫌いだ。自分の思惑で自分の意見を通そうとすると、間違っているとばかりに腑に落ちない顔をする。その顔を見るとドキッとす。何も自信を持って教師をしているわけではない。しかし僕も、良い教師になりたいと初めは思った。だけど難しい。今の子は不可解だ、予想もつかない。でも本当は自分の見が狭いのは感じている。自分の思い通りに子供が動いてくれて、クラス運営もうまく行き、良い教師、能力のある教師と評価されたいと、そんな思いが渦巻いていた。だから思い通りに行かず危機感を感じると、その元をたたきつぶさねばという思いが突き上がってきた。あの子に対し「不可解な奴」と言ったとき、僕の思いはこんな奴つぶしてやりたい、言うことを聞けという思いで、怒りが渦巻いて

いた。とてもじゃないが、その子を思ってたかではなくて、自分のプライドを守りたい、このクラスにお前がいては邪魔だという思いがあった。でも、それを認めるわけにはいかない。教師失格の烙印ろういんを押されるだろう。ああ、だけど何か僕の心が痛む。一段足を踏み外してしまったような、何かそんな感じだ。

## コメント

いじめている子供の心から凄まじい寂しき、虚無感が伝わってきます。何をする希望もなく、何をしても心底楽しめない。生きている意味も、自分の価値も分からない。常に親に拒否されて、受け入れてもらうことなく過ごしてきた人生が目に見えるようです。両親の不仲の中で、この子は心の拠より所が全くつかめず、冷たい空気の中をさまよいつづけていたのではないのでしょうか。

いじめられた子供は、父親の支えが心に染みたことでしょうか。やっと傷ついた心を癒してくれる場所を見つけ、ほっとしたことでしょうか。学校でどんなつらいことがあっても、家庭で癒される場があるということ、そして自分の思いを存分に語れる場があるということが、これからは特に必要になっていくのではないのでしょうか。

お父さんもお母さんも、しばし仕事の手を休めて、子供に真正面から向き合ってください。何もお互いに言わずとも、語らずとも、共にコーヒーでも飲みながら、一緒にテレビを見ているだけでもいいんです。必ず心から心へ伝わっていく温もりがあるはずです。いとしいという思いが伝わっていくはずですよ。

### Fさんの思い

今、私は天秤の真ん中に立って、どっちに足を伸ばそうかそう考えている。生きるほうへ、死ぬほうへ、心はゆらゆら揺れている。ちょっとした風が吹いたら簡単にバランスを崩しそうだ。いじめが始まったのは、もう一年前だ。私はアトピーがひどくて、小さい時から全身がかゆくてどうしようもなかった。夜寝ているもあちこちかきむしり、シートに血の染みが出てしまうほどだった。気が狂いそうになる。かゆくてかゆくて皮膚が破れているのに、それでもまだかゆい。アレルギーと診断されて、食べてはいけない物がたくさんできた。卵も小麦も牛乳もダメ、だからおいしいケーキもパンも食べられない。母はいろんな所に治療に連れて行ってくれたけど、一向によくならなかった。授業中もかゆくて痛くて集中できなかった。そのうち皮膚がボロボロしてきて真っ

赤な顔になり、赤鬼のようになった。小学生の時、給食ではなくて、私は母の作ってくれたお弁当を持って学校に行った。寂しかった。みんなまずい給食が出ると「Fちゃんはいいね、弁当が食べられて、好きなものばかり」と、羨ましうらやそうに言うようになった。何も分かっていない。私だってみんなと同じものが食べたい。一人自分だけお弁当を食べなきゃいけない寂しさがどんなものか。あれもダメこれもダメと制限されて、おいしそうな物も食べられず、外食もできない。それがどんなに厳しいか分かっていない。

中学に入学してから、そのうちに皮膚がボロボロしているからと気味悪がられ、「汚い、フケが飛んでくる、そばに寄るな」と言われるようになった。「病気なんだから、そんなことを言ったらいけない」とかばってくれる子もいたけど、ものすごく傷ついた。アトピーで毛根が傷ついて、眉毛まゆげや睫毛まつげまで抜けてしまった。そのうちに「どんずるぼろ」と言われるようになった。女の子がそんなことを言われたらどんなにつらいか。死にたいくらいつらくなるのに、みんなは無神経だ。一体どうしたらいいの。自分でも自分の顔を見るのが怖い。鏡を見るのが怖い。もう学校には行きたくない。外に出るのもいや。人の視線が気になる。皮膚科に行っても、内科に行っても、その後、心療内科と

いう所まで行ったけれど、少しもよくはならなかった。このままではどう生きていったらいいのか分からない。こんな体質に産んだ母親が憎い。母の皮膚はすべすべしてお化粧しても奇麗、私はお化粧もできない。でも母は、お勤めも辞めて食事作りに専念してくれている。少しでもおいしく見えるように材料を吟味して、とんかつもパン粉や小麦粉や卵を使わず、それらしく見えるように作ってくれる。みんなで一緒に食事をして楽しく食べられるように工夫してくれる。それはとっても嬉しい。でも時に気詰まりになる。苦勞を考えたなら、そこまでしなくていいよと開放してあげたくなる。責任を感じているのかもしれない。でも、どんなに気を使って食事作りをしてくれても、何をしてくれても、どんどん心がふさいでいく、閉じられていく。「かゆみが薄くなっただけでも喜びなさい」と言うけれど、これからのことを考えると、とても不安になる。自分には楽しい未来も何もないように思える。学校なんて少しも楽しくない。いじめは、からかいと心を突き刺す言葉だけで暴力はないけれど、もうクタクタになるくらい疲れている。からかいや陰口、人の視線なんか気にならないくらい強くなればいいのかもしい。でも、とても難しい……。



## 母親の思い

娘はまだ三歳になるかならないくらいに、アトピーが目立つようになりました。毎日かゆがって泣き叫び、聞くのがとてもつらかった。全身、おしりの穴まで真っ赤になってぶくぶく膨れてきます。下着も血で汚れ、寝ても体が温まるとかゆがって眠れない、そんな子を見てるのがつらかった。何が悪かったのだろう。飲ませていたミルクが悪かったのか、離乳食が悪かったのか。私は勤めていたので、母乳も手作りの離乳食もあげることができませんでした。添加物が悪かったのか、私は自分を責めました。でも働いている女性の子供すべてが、ミルクや市販されてる離乳食を食べた子供すべてが、皆アトピーになるわけでもない。家で十分手をかけて昔ながらの食事をしていても、なる子はなる。だから本人の体質だろうと思うことにしました。でも、これからはできるだけのことをしようと思えました。これだけやってあげてるなんて、子供の前では素振りも見せないように努めました。でも時には私自身、息が詰まりそうになりました。献立を考えると頭痛がしてきます。最初の頃は、私が変わってあげたいくらい子供に対して申し訳ない思いと、何とも言えない切ない思いが交錯して、この子のためなら何でもしてあげると思いました。でも今は、時に何でこの子がアトピーなんだ、どうしてう

ちの子がと、やり場のない思いにかられることもあります。どんなに疲れていても、体がしんどくても、この子の食事だけだと思うことが負担になってきたんです。この頃はおやつなどは成分、材料名が書かれ、卵や小麦、バターの使っていないものも増えました。でも食事となるとどうしても限られてしまいます。毎日、お茶漬けや海苔巻きばかり食べるわけにもいかないでしょう。すっきり治るといふのなら希望もわいてきます。でも出口のない、いつまでかかるか分からない、おまけに治るかどうかも分からない、それがつらいです。

学校でいやな目に遭っているのは知っています。今の子供たちは悪意はなくても言いたいことをずばりと言い、傷つくことも多いと思います。中にはいじめのターゲットを探して、悪意を持っていじめられる子供もいるでしょう。でも人の口に戸は立てられないし、たとえ立てても横道ができるでしょう。本人が強くなってくれることだけが頼みです。眉毛や睫毛まゆげが抜けても、いくらでも今の化粧ではカバーできるでしょう。それよりもっと視線を上げて強くなって、自分の興味のあること、やりたいことを見つけて没頭していったってほしいと思っています。つらいのは分かります。でも、それに負けないでほしい。私は祈るような気持ちで、いつもこの子を見つめています。

## コメント

幼い時から治癒せず、ずっと続くアトピー、苦しかったと思います。また物心もついて思春期に向かうこれから、様々な困難にも出会うでしょう。この子はアトピーの苦しみといじめの苦しみがあり、心を痛め続けてきたと思います。本人も苦しければ、お母さんも苦しかったと思います。母親は自分に原因があったのではと思ひ悩むこともあったでしょう。でも子供はお母さんの愛情をしっかりと感じていきます。お母さんをもう解放してあげたいという、思いやりの心も育っています。今まで、その心で学んできたことはたくさんあったのではないのでしょうか。人間、乗り越えられないものはありません。

人間の本質は肉ではなく意識です。表面的な美しさなど、すぐ消えてしまいます。でも内面の美しさは磨けば磨くほど輝きます。それが心を見るということです。人の視線や言葉、行動にとらわれない自分を見いだしていったとき、自分自身が一番幸せを実感するのではないのでしょうか。私自身、顔に痣あざがあり、苦しんだ時期もありました。でも今は、それも心を見ていく教材だったと、受け止められるようになっていきます。

## Gさんの思い

僕は今、大学生です。中学の時にいじめに遭いました。死ぬことを考えたくらい壮絶でした。でも今、こうやって生きているのは、その時の担任の支えと計らいがあったからだと思えます。いじめのきっかけは私自身には思いつきません。でも何をしても何をやっても受け入れられない、頭から拒絶され、クラスでは無視され、孤独でした。まともな話をしてくれる人がいませんでした。何か誤解があったのかもしれないが、それを説明する場もありませんでした。冷たい視線の中で、自分を受け入れてもらえない集団の中で、ただ心だけが傷ついていきました。今、振り返って見れば、僕が東京から転校してきて、言葉や態度がすかしていると映ったことから始まったのかも分かりませんが、想像にすぎません。担任の教師は、転校当時よりもどんどん快活さがなくなり、成績も落ちてきた僕を気遣ってくれました。現状を知ってくれました。そしてクラス全体に向かって、人としての生き方や、自分の望む生き方を語ってくれました。徒党を組んで思いやりのない言葉を吐いたり、行動をすることが、どれほど人の心を傷つけるかも話してくれました。いじめはなくなったかのように思いましたが、でも一部の数人のク

ラスの人と他のクラスの人が、学校には知れない所で僕を待ち伏せして、脅しや金品を要求するようになりました。蹴飛ばされたり、殴られたりもしましたが、担任は気をつけて見ていて、自分の取った方法が通用しない、間違っていたと僕に謝りました。謝られても何か悲しく、ますますプライドを傷つけられたように感じましたが、でも、それからは放課後、図書館で勉強するように言われ、仕事が済んだら一緒に自宅まで送ってくれるようになりました。理由を知った父や母は、それからは途中まで車で出迎えてくれるようになり、今までなかった会話の時間も持てるようになりました。両親といろいろ話せるようになって、僕の苦しみも軽減されました。理解してくれる味方がいるというのは、とても心丈夫です。そして、いろいろ話しているうちに自分が見えてきました。自分がクラスで取った行動や、行動しなくても心の中で軽蔑したり憎んだり、あいつら死ねと呪っていた思いが大きいことに気付きました。それって正しいことだろうかと自問自答し続けました。

僕にとっては忘れられないじめの記憶、そして今、じめのニュースを見聞きするたびに、僕の場合は恵まれていたとつくづく思います。担任は僕の苦しみや寂しさや悲しみ、そして持って行き場のない憤りを理解し受け止めてくれた。僕を否定しなかつ

た。生きるほうへ生きるほうへ導いてくれた。そんな気がします。僕のような立場で、理解できない理由でいじめられている子は生きていく勇気が出ないし、また自分をも否定してしまう、それを何とか支えてくれる場が欲しいと思います。

今、僕は大きな夢があります。やはり教師になりたい。現場は大変でしょうが、でも生きていくということの大事さを伝えていきたいと思うんです。

## コメント

教師の対応がよかった例です。教師は子供一人ひとりが我が子のようにいとしかったのでしょう。注意深く見守り、また指導もし、そして、それがうまく行かないと子供にも謝っています。それは子供の心につまでも残る誠実さだと思います。教師の誠実な真摯な姿勢が、一人の少年の心を救い、そして希望を与えたのだと思います。

## Hさんの思い

私は高校時代にいじめに遭いました。今考えても苦しく、思い出すと怒りが込み上げてきます。いじめた奴らは今、どうしてるのだろうと思います。天罰が下ればいいと

思ってしまった。実際、藁人形わらにんぎょうの話聞いて、やってやろうかと思っただけですが、神社に行く途中で誰かに捕まっていじめられたらいやなので、実行には移せませんでした。憎いとどれだけ思ったか、死んでしまえとどれだけ思ったか、なぜあんなに平気で人の心を傷つけることができるのか、人格否定をするのか、「お前に吸わせる空気は日本にはない」と言われたり、「この学校の恥だ」とか言われました。持っているものすべてを三階の教室の窓から捨てられたり、靴で踏まれたりしました。「生きていく価値ないよな、自分でも生まれてきて、しまったと思っただろう。お前の親も産んで後悔してるぞ」と、罵詈雑言ばりぞうごんが飛び交います。何の根拠もない、ただ暴力的な言葉をこれでもか、これでもかと連発する。何が楽しいんでしょうか。何が目的なんでしょうか。でも私は怒りをバネに踏ん張ってきました。絶対負けるものかと自分に鞭打ってきました。自分に何か非があるのならともかく、理由もなく言いたい放題言われっぱなしはつらかったです。でも私が頑張れたのは、いつまでもこんなことが続くはずがない、続かせてはいけないという思いでした。先生は「強くなれよ、お前は何も悪くない」と、慰め力づけてくれました。いじめはなくなりませんでした。でも高校卒業までもう少し、もう少しと踏ん張ってきました。希望する大学目指して負けてなるものかと、頑張

ることができました。運よく大学も合格して、今は楽しい日々を過ごしています。仲の良い友人もできました。何と彼女は中学時代クラスメートをいじめたそうです。今は悪かったと話し、だけど何でいじめに加わったのか、その心理は今でも分からないと言っています。でも今の彼女は好きです。私は人を憎んだり、呪ったりしました。人ってそんな思いが出るんですね。そして、それを今でも引きずっている。もう忘れたいです。すべてを忘れたいです。新しい自分を発見していきたい、そんな思いです。

## コメント

今は楽しい大学生活を送っているようです。こんな方はきっと周辺にたくさんいるのではないのでしょうか。強い精神力を持った子供で、また先生も力づけてくれたのが支えになったのでしょうか。家庭もこの子にとっては、居心地が良かったのだらうと思われれます。自分の中に憎む思いや呪う心があることに気付いています。すべてを忘れたいと言っていますが、決して忘れることはできません。されたことをどうこうではなくて、自分が出した思いを本当に間違っていたと心で感じたときに、そして、そんな思いで自分の心を汚してしまったことを申し訳ないと心から思ったときに、この方はきっと



また違った自分を発見していくでしょう。

## Iさんの思い

僕は今、植木職の見習いをしています。地味な仕事ですが庭木に向かっていることが楽しいです。力仕事もあり体力的に厳しいですが、それでも自分でも生き生きしているとします。中学に入ってからいじめが始まりました。僕は少しもりません。小学生の時は、そんな僕をいじめる者もいませんでした。他校から入ってきたクラスメートが、僕の話し方を真似るまねようになりました。からかいふざけ、「お前の話していることは分かりにくい、まどろっこしい」と、何か言うやうと「略せば、こうだな」と先回りをして言います。僕はますます口が重くなりました。学校に行っても気が重く、なるべく人目につかないように図書館にすることが多くなりました。いじめるほうは別に何のこだわりもなく、ただだからかって面白がっていただけかもしれませんが、僕にはつらい思い出です。僕は人と接して話すことが億劫おっくうになりました。なるべくなら人と話さなくてもいい職業に就きたいと思いました。母や父は高校進学を勧めましたが、学校生活を続ける気持ちはありませんでした。社長と職人と僕だけの小さな造園業に入り、今では楽しくやっ

います。もし高校に進んでいたら、もっとひどいじめの対象になっていたかもしれません。嫌気が差して中退して、ぶらぶらしていたかもしれません。植木職人になっても挫折感はどこまでもつきまとったかもしれません。僕は「中学を出たら高校には行かず、職人になる」と言ったときだけ、頑固になりました。両親は「絶対反対だ。職人になりたいならせめて高校を出てからにしないさい、今の気持ちなんていつ変わるかもしれない」と、思いとどまるように説得しようとした。でも親の言うことは聞けませんでしたが、後悔はしていません。

大方の人が大学へ進学する時代になりましたが、僕は少しも羨ましいとは思いません。大学行って遊ぶだけの人生なら、初めから好きなことをすればいい、人それぞれだと思います。僕はきつと、僕にしかできない丁寧な仕事をして認められるようになりたい、そんな夢があります……。

### 母親の気持ち

あの子が「もう高校には進学しない」と言ったとき、仰天しました。学校でいじめられ、いやな思いをしているなどというのは気付いていましたが、あの子のどもりは今に始

まったことではありません。今はいじめられても進学したらまた周囲も変わるし、状況も変化するのではないかと思ったのです。今日日、高校にも行かないなんてきつと後悔すると思ったんです。気が変わって学歴が要求される職業に就きたくなったら、この子は挫折するだろうと思ったんです。夫は怒りました。「不甲斐ない、高がからかわれたくらいで弱気になって、自分の人生を台無しにするのか」と怒りました。「お前のしつけが悪い」とも言われました。でも息子は頑として聞き入れませんでした。園芸の本を何冊も取り出してきて、「自分は将来こんな庭を作りたい、だから職人に見習いに入りたい」と言いました。主人は思いとどまらせようと、「どうしても園芸をやりたいなら、まず高校へ行き、農業大学へ行って、そこで造園を学べ」と食い下がりました。息子の意志は固かったです。先で苦労してほしくないというのも親心でしょう。でも私は自分の心に不純なものを見つけました。夫も私も一応大学を卒業しています。特に私などは学びたいというものもなく、ただ大卒という資格だけをつけとけば、あとで何かの役に立つかもしれない。子供の家族歴に親の学歴覧があったとき、引け目を感じなくて済むという単純な見栄もありました。どちらかと言えば学歴偏重で、結婚相手にも学歴を重視してきました。だからこの子が中卒で、就職や結婚にもいろいろ支障が出てくること

を心配しました。それに体力的にも、この子に植木職人が勤まるだろうかという危惧きぐもありました。でも親の見栄のために、体裁のために、この子の希望をつぶしてしまうこと、それはやはりできませんでした。

今、顔色もすっかり日焼けして、元氣そうになり、何より顔つきが変わり、生き生きとしているのが嬉しいです。夫はまだ何か不満がありそうですが、でも息子が自分の人生を立派に生き抜いたときに、きっとこれでよかったと思うに違いありません。私は私の価値観を息子に押しつけるところでした。自分の価値観で息子の自由を奪い、縛りつけるところでした。今、そうしなかったことが嬉しくてなりません。私も自由にのびのびと生きていきたい。そして死ぬときに、私の人生捨てたもんじゃなかった、幸せだったと思えたら最高です。

## コメント

両親には様々な葛藤があったでしょう。学歴主義の母親が子供の要求を受け入れるということは、自分のこれまで培ってきたもの、価値観、人生感をも引っくり返すものだったかもしれません。でも母親が選んだのは、この子の本当の幸せでした。この子が

十分考えて自分の人生を選んだのなら、それを受け入れようという子供への愛情と信頼がうかがわれます。母親がこの子をずっと温かい目で見つめていた。そして、これからもそうだろうと思います。また子供も自分自身の適正を知って、自ら就きたい職業に、どんな反対があっても自分の意志を貫き通していった。それは一時の思いつきではなく、じっくりと考えた結果であったから、母親の思いをも変えていくことができたのだと思います。親が自分の思いを押しつけるのではなく、子供の思いを尊重して、話し合いながら進路を決めていくことができたならば、もっと幸せな子供が増えるのではないのでしょうか。

### Jさんの思い

私は高校の時に家の事情で進学を断念したときから、クラスメートから阻害されたような寂しさを味わってきました。特に進学校だったため、九割以上進学希望者で埋まる教室で、進学しない者は何となく肩身の狭い思いをしてきました。でも進学しない者同士が固まることはありませんでした。自分が進学しないのは家庭の事情で、学力は誰にも劣らない、そんな自負がありました。先生は奨学金のことも説明してくれましたが、

でも本当は高校を続けることもやっとでした。母はせめて高校だけは続けなさいと、借金をしてやっとならせてくれていたのを知っていたから、大学のことなど言い出せませんでした。奨学金をもらったからといって、大学に進学できる状態ではありませんでした。私が働くことが先決でした。

先生は思いやりだったのかもしれませんが。補習のプリントや入試に関するプリントが、一切私には渡されなくなりました。「ああ、あなたは必要ないね」、その言葉が胸に突き刺さりました。確かに必要ないかもしれませんが。でも補習のプリントくらい欲しかった。まだ高校生だったから勉強はしたかったし、能力で負けるのもいやだった。でも「プリント下さい」の一言が言えませんでした。こんな思いをするなら進学校をやめたいと思いました。でも無理をしてくれている母を思い、また「今まで続けてきたんだから、もうあと数カ月で卒業だから頑張らなさい」と言う母の言葉で、踏みとどまりました。私の前で悪気はなくても将来の希望を語ったり、大学生活の夢を笑いながら語りたりするクラスメートを見ているのはつらく、一人でいる時間が多くなりました。今までの友人とも進路が違ふとあまり話をしなくなりました。入試の情報交換をしたりする場からは遠くなり、孤独感に襲われました。進学校だっただけに、その場では私の存

在は薄くなりました。どんどんいじける自分が出てきて、ひがむ思いが出てきて、私一人が欠けると競争相手がいなくなつて助かるだろうと、そんな思いも出ました。学歴偏重、学力だけがその人の価値を決める、学校の価値を決める、そんな真っ只中にいて心も歪み切つていたと、今、振り返っています。私はいじめに遭つていたというより、自分でいじめの世界を作っていた。自分の心の中にいじめの世界を作っていた。そう思います。初めは自分の環境を恨みました。親を恨みました。もっと裕福な環境であつたら自分の能力が最大限に活かされたのにと、そのようにも思いました。でも、それは結局は甘えだったのだと思います。与えられて当然、うまく事が運んで当然、いやなことがあるとすぐキレル、自分を見失う、すべて甘えじゃないですか。どんな状況になつても自分を信じて、できる範囲でそれなりに頑張つていく、自分が納得する人生ならいいのではないかなと、今は思っています。

## コメント

この子はいじめに遭つていたというより、自分でいじめの世界を心に作り出していました。家庭の事情で進学できなくなり、とても残念だったでしょう。進学に向けて努力

してきたのに、それが途中で挫折してしまう。いろいろな思いを出しながら、それでも自分を見つめています。母親が無理をしても「高校だけは卒業しなさい」と言った愛情を、素直に受け止めています。人生には自分の思い通りにならないことがたくさんあります。努力しても報われないときもあります。でも、その中で精一杯自分なりに頑張れたと思うことができたなら、この子はとても満足して、有意義な人生を送っていくのではないかと思います。やけにならずに、自分を見つめていくことは大切なことです。

## Kさんの思い

私は間違っていない。自分の心に正直に、ただ思ったことを行動に移してきただけなのに、でも、それがクラブの人には許せなかったんでしょう。クラブでは必ずいじめの対象がいました。「とろい、役立たず、お前がいるからいつも負けるんだ」と、練習に出てきてもまともな相手にされない人がいました。わざと顔面にボールを当てたり、取れないようなパスを回してきたり、失敗すれば、それ見たかと言わんばかりに嘲笑し、いたたまれずクラブを辞めていった子もいます。私は「もうそんなことやめようよ、みんななぜ楽しくやれないの」。こんなクラブは最低だと思ったから、言いたいことを



言いました。だけど、それからいじめのターゲットは私に回ってきました。まともに練習させてもらえませんでした。パス回しもわざと飛ばされたり、顔面に向かって、胸に向かって、まるでドッチボールのように、敵を倒すような勢いのボールが回ってきました。クラブのみんなは顔をしかめても、私のように注意をすれば、今度は自分がターゲットにされると思って、笑いを浮かべるだけで何も言いませんでした。私はいじめにも傷つきましたが、でも周りでそれを笑いを浮かべながら見ている他の子らに失望して、さらに傷つきました。

誰もが見て見ぬふりをする。私は先生は見てくれていると思っていましたが、無関心でした。いじめてる人は上手だったから、それで強いことを言えなかったのかもしれない。毎日、憂鬱ゆううつになりました。明日学校のクラブがあると思うと胸がつかえ、何をしても楽しくなかった。勉強も身が入りませんでした。好きな音楽を自分の部屋で聴いていても、どこか心はいつも不安で言いようのない怒りと喪失感がわいてきました。クラブでは相変わらずいじめが続きました。もう、どうにでもなれと思いました。母が私の様子に気付いて「何かあったの、言ってごらん」と、今までの話を全部聞いてくれました。「そう、一人で悩んでいたの。かわいそうに、そんな人たちを絶対許しちゃいけない

ね」と、私と共に学校に相談に向向いてくれました。でも顧問の先生も話は聞いても、具体的にどうしようという動きは出ませんでした。もっとクラブの間、しっかりと私たちの様子を見守ってほしかった。少しの間だけなら誰もわざわざ先生の前でいじめはしないよ。形ばかり体制を整えて、「しっかりと対応しています」と言いたかったのか。本当に真剣に私の訴えに耳を貸して、共に考えたり悩んだりする、そんな様子は見られなかった。「お荷物、やっかいもの。やめちゃえばいい。みんな迷惑してるのが分からないの」、次から次へと浴びせられる言葉。一人では何も言わないのに、四、五人集まれば同じ人かと思うくらい、いやな言葉が飛んでくる。そんなに私が邪魔、私に消えてほしいの。

私の両親はとても理性的な人です。自分たちの信念を持って子育てしています。少し窮屈に感じたこともあったけど、でも優しい普通の親でした。家庭では特に不満はありませんでした。希望はいろいろと聞いてくれて、「ダメなことはダメ」と、はっきりと伝えてくれました。私はいじめで自殺する人のニュースを知るたびに、何て勇気のない人たちなんだろう、何でもっと立ち向かっていかないんだろうかと思っていました。逆に簡単に死ぬ人を軽蔑し、もっと強かったらよかったのにと、いつも思っていました。で

も今、私はいじめの対象になって初めて、いじめられるってどんなにつらくて悲しいものか、その思いが分かるような気がします。傍はたから見れば、私も「何で死ぬ必要などあるの、もっと頑張ればいいのに、あなたは強いはずじゃないの」と言われるかもしれない。でも、その孤独感、無能感、膨大な闇と真向かいになっているような、抵抗できない圧力を感じて、私など荒波に揺れる木っ端のように感じてしまいました。押し引いても反応があるのは救いです。でも全く反応がない、つかみどころがない、そんな闇を感じてしまいました。私はいじめる人の思いが分かりません。なぜ、そんなに人々頭から否定することができなのか。人が悲しみ、屈辱を感じ、何の希望も持てなくなり、打ちひしがれていくのを見るのがそんなに楽しいのですか。もしそうならば、あなた方は人間ではありません。あなたのお父さん、お母さんは、そんないじめをしているのを知っているのですか。私の親なら気付いたでしょう。いくら隠しても親なら気付いたでしょう。

お父さん、お母さん、ごめんね。期待に答えられなくてごめん。何もしてあげられなくてごめん。もっとお母さんとゆっくりいろいろと話をしたかった。旅行にも行ききたかったね。大好きだったよ、お母さん。

## コメント

理想的な家庭で育っていても、いじめに負けてしまいました。この子はとても良い子でした。利発で明るく、親子関係もとてもうまく行っていました。でも、良い子過ぎたから弱さがあったのかもしれない。全部自分の心の中にしまい込んで、自分で何とかしようと頑張り過ぎてしまったのかもしれない。いくら両親に相談して援助を受けても、どうにもならない心の寂しさを抱えていたのかもしれない。学校で自分のいる場がなくなったとき、そしてクラブの仲間にも裏切られたと感じたとき、その寂しさがどんどん増大していったのでしょうか。

いじめの子供は時に残酷です。それがどれほどの心の痛みと傷を与えていくか考えることができないほど、心が後退しているのでしょうか。でも、いじめの子供が特別な存在ではない、今はそんな時代になってしまったのではないのでしょうか。なぜ、どうしてと、訳が分からないくらいに人々の心が荒廃してきました。まるでガチガチに固まったマグマが噴出するように、真っ黒なエネルギーが様々な形となって現れているように感じています。

人は得てして残酷な心を持っています。あなたは人の喜びを自分の喜びとして受け止めることができますか。人の不幸を喜ぶ心はないですか。いじめを傍観する人の心に、この思いがないでしょうか。残酷なビデオやブログを見る人に、この思いがないでしょうか。自分の心の中の残酷さと同じようなものを、ビデオやコミック、ゲームの中に見だし、現実と非現実の世界の区別がつかなくなる。いじめもその延長線上に、そして今、多発している犯罪も、この延長線上にあるのではないのでしょうか。

たとえば自分の子供がいじめに遭っている、どのように援助の手を差し伸べていったらいいのかと、悩んでおられるご両親もたくさんおられるのではないのでしょうか。たとえ教師や学校が頼りなくても、必ず学校との連絡を緊密に取ってください。親が子供のために熱心になることで、子供は安心感を得ます。たとえ事態が必ずしも即座により方に向かわなくても、親と共にいじめに立ち向かっている、一緒に解決に向かって努力しているということが、子供の心を安定させていきます。孤独ではない、親はいつも味方にいるということを、しっかりと伝えてください。

子供がなぜ、親にいじめに遭っていることを言えないのか、今までの親子の関係を見

直していただく。もしかしたら子供を押さえつけていなかったか、子供に厳しく正論を押しつけていなかったか。

そして、じっくりと子供の言葉に耳を傾けてください。決して結論を急いだり、あれこれ指示する必要はありません。子供の寂しさや悔しさ、無念な思い、憎しみの心を即座に否定せず、受け止めてあげてください。そして、ゆっくりと共に考えていきましょう。いじめの話題ばかりではなく、遊びや趣味や芸能でも、そこらに転がっている話題、何でもいいのです。今まであまり話す機会がなかった親子には、いいチャンスではないでしょうか。いじめを克服する頃には親子が理解し合い、今までにない親子関係が築けているのではないのでしょうか。

いじめに遭っている子供、また、いじめている子供、周辺の思いを聞いていただきましたが、どのような感想を持たれたでしょうか。様々な感想を持たれたと思います。あなたの置かれている環境、あなたの生き方、人生観などによっても意見は様々だと思います。いじめる子供に怒りを感じる方、教師、学校、教育委員会などの対応に怒りを感じる方もいるでしょう。でも、いろいろな人の思いに耳を傾けると、誰しもが苦しんで

いると感じませんか。

いじめは心の病、心の闇が噴出したものだと思っています。現代の社会のひずみ、そして人々の心の中に蓄積された様々な思いが、子供を通して現れているように思っています。だから、いじめそのものに焦点を当てて、どうやったらいじめがなくなるかと、いじめる子供に絞って対策を考えても、また、いじめが起こったときの対応をマニュアル化しても、結局は何の解決にもつながっていかないと思えるのです。

実際、最近の子供は思いやりが無い、優しさが無い、限度を知らない、暴力的だ、またこらえ性がない、我慢が足りないなどの声を耳にします。では一体誰が子供を育ててきたのでしょうか。子供は決して一人では大きくなりません。様々な環境の中で、家族関係の中で、親の生き方を見ながら育っていきます。親はまた社会の影響を受けて自分の人生観を培っているでしょう。

まず、いじめる子供を責める前に、なぜそのような心理に至るのかを、子供の心に問うのではなくて、大人たちが自分の心に問うていただきたいのです。最近のテレビを見ていると、学校の対応の仕方、責任転嫁せきにんてんかの姿勢を問題にしている報道が多いように感じます。確かにそれは事実です。今の学校の先生は自分を守ることばかり、出世ばかりを

考えている、教師としての資質に欠ける、それも事実です。

では、そういうあなたは大人の資質があるのでしょうか。私は間違ったことをしていないときっぱりと言えるでしょうか。私は社会の規律や法律、世間の常識に照らし合わせて、間違ったことをしているかと問うているではありません。あなたの出す思いを見つめていますか、家庭で社会でどんな思いを出し続けていますかと、お聞きしたいのです。子供を育てていくのは言葉ではありません。また表に見える行動でもありません。ましてや説教で子供を変えることなど到底できません。子供を変えていくのは良くも悪くもその人から流れるエネルギー、波動です。真っ黒なエネルギーを流しつつ、あでもない、こうでもない議論を続けても、不毛ですよとお伝えしたいのです。

対決の姿勢では何も育ってはいかないと思えるのです。互いに責任<sup>せきにんてんか</sup>転嫁すること、責任を追究することだけに心を奪われることをやめて、自分たちが歩み続けてきた道を、今こそ振り返って見つめていく時が来たのではないのでしょうか。今の子供の親たちが、またその親たちが、そして教師たちが、何を子供に望んできたのか、どんなルールを敷いてきたのか、振り返ってみる時が来たのではないのでしょうか。誰しもが我が子の幸せを望んでいるでしょう。でも、ではその幸せとは一体何でしょうかと問うたときに、ど



んな答えが自分から返ってくるでしょうか。意外と本音と建前が存在するのではないのでしょうか。

本当の幸せとは何なのか、今一度、それぞれが真剣に自分に問うていく時が来たのではないのでしょうか。

今、様々な形で自分たちが垂れ流してきた闇のエネルギー、想念が、厳しい形となって噴出してきているように思います。だから今こそ正面から向き合い、自分を見つめていくチャンスではないでしょうか。

いじめという形の世界を改めていくのではなく、自分の心の世界、いじめを作り出してきた心の世界を見直していく、その時に少しずつ少しずつ真実が見え始めてくるのではないのでしょうか。

人々の希望や価値観が、今の学校制度を作ってきました。そして、そこではみ出している子供が多いのが事実です。はみ出し、阻害された子供たちが向かっていく先はどこでしょうか。子供の心を大切にしてほしい、すべての子供に生きる意味があり、一人ひとりが価値のある人間なんだと、伝えてきた社会だったのでしょうか。お金につながる学力だけが偏重され、親は少しでも評判の高い学校へ子供を入れるために、叱咤しったげ激励

してきました。絶対評価ではなく、相対評価をもって子供を比較し、選別し、自分の子供を押し上げようと必死になってきました。人を押しつけてもいい、あの子だけには負けるなという思いがなかったでしょうか。

学校は評価を上げるべく大学合格に的を絞り、人間性よりも何よりも、すべての中で一番学力が重視され、入試のための学習という気風を作り上げてこなかったでしょうか。

自分の学校の評判、そして校長としての立場、教師としての立場を守り、大学入試の成果を上げ、自分の高校の評価を高めるために科目の履修のルールまで曲げ、そして偽った報告をしてきたことに対し、どのように思っているのでしょうか。

いじめというのは、そのものだけが一人歩きをしてきたものではありません。たくさんの要因、社会的要因や人々の心、価値観などすべてが重なり交じり合って、子供の心、物の考え方、行動に影響を及ぼしてきた結果ではないでしょうか。いじめは決して他人事ひとごとでなく、一人ひとりの心の中に存在する思いではないでしょうか。

自分の心の中には区別も差別もある、職業に対する思いもある、貧富に対する思いも

ある、弱者に対する思いもある、そのすべてを認識したときに、まさしく子供の世界は大人の世界の縮図に感じられないでしょうか。

社会を変えていく、そんな大きいことを言っているのではありません。まず自分から、そして家族、家庭と、見直すことはたくさんあるのではないのでしょうか。

いじめによる痛ましい死を未然に防いでいくためにも、今、私たち大人が互いに責任<sup>せきにん</sup>転嫁<sup>てんか</sup>をするのではなく、自らを振り返っていくことが必要なのではないでしょうか。思いが形をなしていきます。今こそ自分の思いを再点検していく時が来ていると、私は思います。

### 母親の温もりからのメッセージ

いじめの底には、とても大きなエネルギーが存在します。いじめるほうも、いじめられるほうも、そのエネルギーに翻弄<sup>ほんろう</sup>されているということに気がつきませんか。いつ立場が変わるかもしれない、そんな恐怖の中で、自分を守るためにいじめに加担していく子供の心は悲鳴を上げています。「何のために生まれてきたの、どこまで心を汚し続けるの、早く気付いてください」、あなたの心の中からそう伝えていきます。いじめられて心を

小さくし、絶望し、憎しみ憎悪、恨み、悲しみの思いを膨らませているあなたにも伝えていきます。肉は皆ちっぽけで間違い多い存在だけど、本当の自分、その心は大きく広がり、優しく温かくすべてを包み込むエネルギーなのだ……。自分を小さくしないで、ただひたすら心を見ていてください。

いじめられたからこそ、気付いた自分の心があるのではないのでしょうか。いじめる人はその自分の心の闇を放置しないで、温かな思いで包んでいてください。あなたの中にも優しい思い、温かな思いが存在することを私は知っています。そして信じています。そして、いつまでも待っています。



# 子供の犯罪

子供の犯罪が年々増加し、低年齢による犯罪も増加の一途をたどっています。今までに見られなかったような犯罪が起こり、大人たちは、その残虐さや無謀さに度肝を抜かした方もいるでしょう。これから一体どんな世の中になってしまうのだろうか、不安にかられる人もいます。

たとえば子供が親をバットで殴り殺したり、中学児童が幼児を残忍に殺したり、同級生による刺殺や、一家六人惨殺や、放火による親、兄弟の焼死など、数々の犯罪が世間をにぎわせてきました。子供たちをそのような犯罪に追い込んできたものは何でしょうか。

子供たちは犯罪を犯すことで何を訴えたかったのでしょうか。犠牲になった方は本当に痛ましい限りです。かわいい子供を殺されてしまった親の気持ちは、言葉に表せないくらい無念で悲しく、また憎しみもわくでしょう。許せない思いも強いでしょう。また反面、犯罪を犯してしまった児童の家族もいたたまれなく、消えてしまいたい心境かもしれません。そのどちらの家族もが、今なお苦しみの真っ只中におられることと思います。

なぜ、どうして……と、その思いが強くと伝わってきます。

今、ここで犯罪に走る子供の思いを聞いていきたいと思います。

ここにあげる思いは、昨今、実際に起こった事件ばかりではなく、心の中に何かきっかけがあったならば、犯行に走ってしまいそうな子供の思いもあげています。

### Aさんの思い

ああ、むしゃくしゃする。楽しいことなど一つもない。刺激のある楽しい生活なんて自分には無理だ。成績、成績と言われて、小さい時から机の前に座らされて勉強ばかりしてきた。どんなに勉強しても、とても自分の力では追いつけない、そんなすごい奴がいる。一体どんな勉強の仕方をしているのか。僕のように叱られながら、どつかれながら勉強なんてしてないよな。頭がもともといいのかもしれない。飲み込みが早いのかも。そんな奴には太刀打ちできないよ。努力でカバーできることと、素質で初めから負けていることがあるって、高校に入ってから分かったんだ。人はそれぞれなんだ。上ばかり見て、あのようになりたいなんて無理なんだ。親父もおふくろも僕が勉強すると喜ぶ。僕の価値は成績いかんで決まってしまうのか。僕は親父に認めてほしくて



精一杯頑張ってきたよ、だけど認めてはくれなかった。今日八十点なら明日は九十点、今日九十点ならその翌日は百点を目指せ、いつもそう追い立てられていた。たまに悪い点を取ると容赦なく鉄拳が飛んだ、頭がぐらくらするくらいに。

家は地獄だった。学校は少しだけ楽しかった。仲の良い友達もいたし、心配してくれる友達もいた。彼も勉強はよくするけど、僕みたいに追い詰められてはいなかった。何を目的に生きていったらいいの、なぜこんな苦しい思いをしなければいけないの、親父は自分がたどってきたレールの上を僕にも歩ませようとしている。

僕が何をしたいか、何に向いているかなんて、一度も一緒に考えてはくれなかった。「僕は親父を尊敬している」と言った。でも、それは嘘だ。恐ろしかったただけだ。優しい笑顔など長い間見ていない。外から見ると内から見るとは大違い。人の生活なんてそんなものだろう。「明るい楽しい家庭があるのに、なぜ、たくさんもの家族を殺すようなことをした」と言われるけれど、殺したいという思いは憶えていない。ただ何もかもまっさらにしたかった。すべてを消し去りたかった。

僕が小さい時から、どんなに寂しい悲しい思いをしてきたか、子供心に周りの大人の顔をどれほど見ながら暮らしてきたか、わがまま気ままは許されなかった。愛された

い、かわいがってもらいたい、その思いがとでもつらかった。心から自分のすべてを委ねて甘えることができなかった。お母さんの温もりも知らない。何をしても許される、何をしても愛される、僕はそれだけでよかったんだ。それが欲しかった。僕は仮面をかぶって生きてきた。本当の自分ではなくて、愛される自分を演じてきた。愛される家族の一員を演じてきた。でも、それもとても疲れた。なるべく家にはいないで時間をつぶすことを考えた。本当に心から落ち着ける自分の居場所がなかった。僕には羽根を休める温かな家庭はなかった。家庭の温もりを知らなかった。

親父に対して、「自分のこの苦しみの元凶はお前だ」と叫びたかった。「何で僕からすべてを奪い去った」と訴えたかった。「優しい温もりも、温かな家庭も、全部親父が壊したんじゃないか、人のせいにするなよ。聖人君子面をするな、全部知ってるぞ」、そう叫びたかった。何もかも吐き出したなら、楽になっていたのかもしれない。でも演じ続けた僕は、最後まで演じなければいけなかった。

苦しい、苦しいよ、息ができないくらい胸が詰まる。僕の心は鉛の玉がいっぱい押し込められているように重くてつらい。人の命を奪ったことよりも、僕は今、自分の人生、前途を閉ざしてしまったことを強く感じている。取り返しのないことをしてしまっ

た。この場から僕も僕は逃げ去りたい、どこか遠くに行ってしまいたい……。また初めから、お母さんのお腹なかから産まれるものなら、初めからやり直したい。

## コメント

自分からすべてを奪い去った父を憎み、殺そうとしたけれど遂行すいこうできず、家族を殺してしまった子供です。父親の期待に応えようと精一杯努力したけれど、父親の求める要求水準が高過ぎたために受け入れられず、次第に挫折感を感じ、心の中は周囲の者を憎む思いで膨らんでいったのでしょう。自分の育った家庭そのものを否定し、消滅を図った。心の底にたまった憎しみのマグマを、そのような形でしか表現できなかった子供の心。なぜ、そのようになってしまったのか、この子には心が休まる場所がなかった。そして十分に甘えさせてくれる温かな母親の胸もなかった。受け入れられているという安心感がなかった。いつも不安定で、大人への不信もある。でも、それを表面に出さないように、いつも緊張を強いられていたのではないのでしょうか。抑圧され続け、ついに爆発してしまった状態だったのでしょうか。

## Bさんの思い

母は口うるさい。小さい時から、「勉強、勉強」と強く言われてきた。あまり褒めてくれたことも、いとしいと抱き締めてくれたこともない。私を拒否しているみたいに冷たい顔を見せる。何か失敗すると、「こんなこともできないの」と頭から拒否する。優しい人だなんて一度も感じたことがない。母は家庭を取り仕切る。父まで何か母の陰で小さくなっている。あの母親がいてはこの家庭は破滅だ。生きている価値がない。私はもうたくさんだ。私の生きる道まで注文をつけないで、私の自由を奪わないで。どこかで私を監視している目を感じる。うっとおしい、消えてほしい。母は、私が小さい時から何かに夢中になると、それを取り上げた。いろんな理由をつけて取り上げた。でも絶対渡さない。私の大切なものは渡さない。

私は人があまり好きではない。感情の起伏のある人は一番嫌いだ。大きな声で話す人、ずかずかと人の心に入ってくる人、干渉好きな人、無知な人、頭の悪い人、みんな嫌いだ。一人でいるのが楽しい。本を読んでいるのが楽しい。実験して予想した通りの結果が出てくると、とても嬉しい。理科、科学、物理、数学、すっきり、きっぱりとした学問が好きだ。文学や歴史、語学はあまり好きではない。

私は自分の中に残忍な自分を感じる。私が手に入れたいものは、どんなことをしても手に入れる。そのために犠牲になるものがいても仕方がない。私は自分の中の優しい思いを全部つぶしてしまった。もう何も残っていない。私にとって必要なもの、必要じゃないもの、はっきりとしたい。

ああ、私は母が憎かった。大嫌いだ。早く消えてくれと願った。なぜだか分からない。でも心の奥から、そんな思いが噴き上がってくる。自分でも収拾がつかないほどに心が騒いでくる。助けて、誰か助けて。私を止めて……、でも止まらない。

小さい時から母の目を恐れて生活してきた。母の目から逃れたい、母の目の見えない所で生きていきたい。それが私の願いだった。言いたいことも言えない。自分の中で不満を膨らませてきた。私の心の中には大きな闇がある。その闇を母の目は見抜いている。

だから殺さなくてはいけない。殺さなければ私が生きてはいけない。

でも捕まるのはいやだ。束縛され自由を失うなんて考えただけでもいやだ。いくらでも殺す方法はある。人生の先輩が教えてくれた、私が尊敬する人生の先輩。たくさん殺人を苦もなくやってのけた、その気持ちはどんなだろう。きっと邪魔者は全部消し去

りたかったのだろう。きっと自分を生かすために、周りを次々と殺していったのだろう。私には何となくその気持ちが分かる。表面は冷静でも、心の中はきっと嵐のような風が吹いていただろう。その風が心地よいと感じたのだろう。私も同じ世界に行く、同じ世界に行って私を見つめ直していききたい……。

## コメント

母親を殺そうとした少女です。その心の奥深くに抱え込む闇の大きさ、本人はそれを闇とは感じていません。まるで使命感のようなものさえ感じさせる。殺して当然という思いがあるようです。罪悪感もなく、自分が何をしたかも受け止め切れない状況かもしれません。生育歴や親子関係の間違いだとは単に受け止められない、心の歴史の中で親子の葛藤を感じさせる事件です。親子はそれぞれが互いの心を見るため、心の癖を修正し、積み重ねてきた心の闇を自ら見だし、温もりに変えていく、そのために親子の縁を結んでいます。偶然に親子になったわけではありません。心を見ることなく、互いが傷つけ合うということ、さらに闇の心を増大させていくことだと気付いてほしいのです。

## Cさんの思い

何もかも破壊したい、僕を否定するものはすべて破壊してやる。爆弾でも何でも……。どうして僕を認めてくれないんだ。僕をのけ者にするんだ。みんな憎い、憎い奴らばかりだ。学校も燃えてなくなればいい。僕を苦しめるものはすべて消滅すればいい。

僕は僕なりに何でも一生懸命やってきた。無理するくらいに、苦しいと思うくらいに何でも頑張ってきた。勉強は嫌いだけど、それでもそこそこ進学したいから睡眠時間を削ってやってきた。誰も僕の努力を認めてはくれない。「受験生なんだから当たり前、もっと努力すればなおできる」と、これでいいというところがなかった。学校ではいじめがあった。からかい、押搦やゆ、彼らにとってみれば遊びのつもりかもしれないけれど、でも僕にはこたえた、傷ついた。思いもかけないことを言われた。僕がもっとも嫌うことを言われた。許せない、絶対許せない。先生にも相談したのに、「そんな些細ちがたなこと  
で」と一笑にふされた。自分の中で憎しみがどんどん膨もんもんらんでいく、抑えようがないくらい煮えたぎる思いを抱えて、僕は毎日、悶々もんもんとしていた。

苦しかったんだよ。何をしても虚しかった。楽しいことも長くは続かなかった。学校が段々いやになってくる。何の疑問も持たず進学を考えた。だけど本当にやりたいことって何なんだ。自分でも分からない。進学のためにやりたいことも我慢し、没頭したい趣味も適当に我慢し、勉強に時間を割く、そんな生き方はいやだ。「入試が終わったら何でもできるじゃないか、もう少しの辛抱だ」と言うけれど、僕はもうぎりぎりのところまで追い詰められているような気がする。学校へ行くとき足が重い。いやなことを言っただけで傷つける奴らの顔も見たくない。家族はみんな僕を真面目で性格も良く、何の苦労もなく学校に通っていると思っている。その期待を裏切るのは怖い。自分の弱さや情けないところをさらけ出したくはない。そんな自分は、自分でも認めたくはない。僕はこれからどうしたらいいのだろうか。

死んでしまおうかと思ったこともある。でも、できなかった。そんなことして何になる。憎いのはあいつではないのか。あいつを消してしまえばいいんだ。僕がいじめに遭ったとき黙って見ていた奴ら、一緒になって笑っていた奴ら、みんな吹き飛ばしてやる。僕をあざ笑った奴は絶対許すものか……。



## コメント

子供の犯罪はとても短絡的です。自分に害を及ぼすもの、邪魔なものは消してしま  
う、いやな奴は殺してしまおう。自分にとって必要ないものは消してしまおう。

でも、これは大人すべての人の心に、自分で認識するしなにかかわらず、存在する  
思いではないでしょうか。大人の殺人も、自分にとって不都合なものは消すというもの  
ではないでしょうか。大人の思いは子供の思いに直結しています。また大人の行為は子  
供の行為に直結しています。なれば、大人はそのような行為を引き起こす自分の思い  
を、しっかりと見つめていくことが必要ではないでしょうか。

## Dさんの思い

人間には超えられない壁があるんですね。どんなに努力しても、抜け出そうとして  
も、はつきりとした壁があるんですね。僕の親父は借金を抱え、持っていたわずかな財  
産もなく、世話してくれる人がいて、やっと寮の管理人になりました。管理人の仕  
事は想像以上にきつくて、母はあまり丈夫じゃない体に鞭打って働いていました。いつ  
もしんどそうでした。そんな母を見るのがつらく、時には母に何とも言えない思いをし

ました。母は、「生きていてもしようがない。何の楽しみもない。死んでしまったほうが楽になる」と言うのが口癖でした。僕はそれを聞かされた時に無性に悲しくなりました。腹が立ちました。母は死んでも僕は残る。父が残ったら……父と二人の生活なんて考えられない。僕を見捨てるな。僕を悲しませるな。そんなことを言う母は嫌いだ。父は厳しい。その時の気分によって僕を罵倒する。「お前のような奴は何の見込みもない。手伝いもいい加減だ。やることなすこと皆、中途半端な奴だ」と、顔を見れば小言を言う。だけど僕だって、やりたいことはいっぱいある。遊びたいこともある。でも、それが許されなかった。「遊ぶ暇があったら他にすることがいっぱいあるだろう。少しは母さんの手伝いをしろ。掃除ももっときっちりしろ。お前がやったあとにはゴミが残っていて、またやり直さなくていけない」、そう言いながら邪険に、邪魔そうに、僕を払いのける。僕が憎いのか、僕が邪魔なのか。母は悲しそうに見ているけど何も言ってくれない。もう何の希望もないような顔をしている。僕はこれでも精一杯やってきたつもりだ。無理を言わず、自分に我慢を強いてきた。なるべく明るくふるまい、環境が変わっても、そのたびに環境になれるように努力した。つらかったよ。でも親父はそんな僕の気持ちを分かるうともしなかった。子供は親の言うことを聞いて当たり前、親に黙って従って

当たり前と、いつも僕に要求した。「お前の出来がよかったら」と、何度言われたことだろう。「お前は頭が悪い。何にもできない。一度言ったらすぐ理解しろ」。

家にいるのがつらくなった。僕には温かな家庭はなかった。まるで他人、いや他人より悪かった。他人は僕を傷つけない。でも父は違った。まるで僕を憎いかのように常に小言を言い、時に暴力があった。いつの頃からか、あいつを消してしまいたい、あいつは生きている資格のない奴だ、僕には不要だ、邪魔だという思いが心の中で膨らんできた。いつ殺やってしまおうか、その機会をねらっていた。どんな方法で……。今、パソコンではいろいろな情報が手に入る。爆発物の作り方、毒殺に使う薬、何でも手に入る。母は父とは違い憎くはなかったけれど、でも僕にはお荷物だった。さして愛情も示してくれない、僕を温かく抱き締めてもくれないそんな母を、これからどうやっていけばいいんだ。僕には母もいららない。母の姿も消したい。僕の記憶から母も消し去りたい……。つまらない人生だった。生まれる場所が違っていたら、もっと自分の能力を伸ばせるそんな家に生まれていたら、僕の人生は変わっていただろう。もうリセットはできないな……。

今、僕は冷たい部屋にいて、何か憑つき物が落ちたような空っぽな日々を過ごしている。

間違っていたのか、悪いことをしたのか、簡単には分からない。でも僕がしたことは事実、それだけが残った。もう取り返しがつかない、それだけは事実。

ああ、母さん、もっと甘えたかったよ。本当は母さんが好きだった。だけど、それを言えなかった。母さんの顔色ばかり見ていた。母さん、何で笑ってくれなかったの、僕を見てニコツとしてくれるだけで、僕の心は癒されただろうに、嬉しかっただろうに……。

#### コメント

とても寂しい心を抱えた少年です。父親にも、そして頼みの母親にも愛されていない、拒否されていると感じています。父親の都合で、自分の人生まで変わっていくことに怒りを感じています。この親がいては自分の未来は開かれてこないという、短絡的な思いの中で行われた殺人ですが、誰もこの子の心の叫びに気付くことはできませんでした。我慢も限界を超えた、この子はそう言いたかったのではないのでしょうか。

## Eさんの思い

母さんが怖い、いつも怒ってばかりいる母さんが怖い。口うるさく、何にでも指図する母さんがうっとおしい。消えてくれよ。

「これもダメ、あれもダメ」、僕が何かするたびに怖い顔をして叱責する。今まで何一つ認めてくれたことがないじゃないか。ガールフレンドができると、「あれは最低、何であんな子が、どこがいいの。だらしなそうだし、頭は悪そうだし、理解に苦しむ」とまで言う。許すものか、それは僕を否定してるのと同じだ。なぜ僕の望むことと反対のことばかりしてくるのだろう、僕が憎いのだろうか。

母さんは離婚した。「男はこりこりだ」と言う。「男など信用できない」と言う。「身勝手で薄汚くて、無責任で、能力もないのに威張り散らして、だらしなくて……」、延々と続く。もう聞き飽きたよ。それは僕の親父のことか。そんなに言うなよ。その息子だから僕を愛せないのか。いつも拒否するのか。僕が何かするたびに冷たい視線で僕を見る。それに気付いていないんだ。母の口癖は、「あんただけが生きがい。あんたのために働いている。苦労している。自分の生活を犠牲にしているとは思わないけど、あなたの成長だけが楽しみなの。絶対お父さんのようになってはダメ」。ああ、もう聞き飽き

た。うざい、いい加減にしてくれ。

僕は家にいるときは、ほとんど自分の部屋にいる。パソコンでゲームをしている時が一番楽しい。母とやりあってむしゃくしゃしたときは、ゲームの殺人を楽しんでいる。母を敵に見立ててポコポコにする。機関銃で撃ち殺す。爽快、爽快。やっと心が落ち着いて眠ることができる。だけど翌日になると、また憎しみや怒りが心いっぱい膨れくる。どうしたらいいのだろう。

僕のそばに刃物を置かないで、ナイフを置かないで、自分で自分を抑え切れなくなったら、そう思うと恐ろしい。母の言葉が恐ろしい。次はどんな言葉の鉄砲玉が飛んでくるのだろう。いつまで続くのかな、終わりはしないのか……。自分で終わりにするしかないのか。

「あんたには絶望した」、その言葉で僕は思わずバットを持った。

#### コメント

母親は、この子に口うるさく注意をすることが愛情だと感じているのかもしれない。自分の思い通りの子供に育ててほしい、こうなってほしい、ああなってほしい、そ

れは子供を私物化し、束縛し、抑圧していることです。子供がその呪縛から逃れようとするのは当然の結果かもしれない。少々口うるさくても、それが愛情からなのか、それとも親のエゴからなのか、子供はすぐに見抜いてしまいます。

母親は男を恨み、軽蔑し、この子の父親まで否定し続けています。それがどんなにこの子の心を傷つけているか知ろうともしない。逆に子供を自分の味方につける、その思いがあるのかもしれませんが、それは同時に自分をも傷つけているということに気付いてほしいと思います。

### Fさんの思い

人はどんなふう死んでいくのだろう。死ぬときはどんな顔をするのだろう。間近に見たことがない。殺したら死んでいくときの顔が見れるのかな。試しに猫の首をひねりつぶした。あっけなかった。ギャーと声を上げるかと思っただけで、うんともすんとも言わなかった。薄目を開けて僕を睨にらんでいた。怖くなった。だから首をぶった切っちゃった。何でこんなことをするのだろう。突然、何かを傷つけたくなる。僕より弱い者を狙う。だって強ければ僕が危ないじゃないか。僕の心の中にはたくさんの方がいる。

心の中で互いに競い合って、ごちゃごちゃ言っている。どれが本当の僕だろう。優しい子供、残酷な子供、親の言うことを素直に聞く子、逆らって舌を出している子、全部自分だ。だから時々バラバラになりそう。自分の代わりに鳥の首を切る、羽根をむしる、ネコをいたぶる。血なんか怖くない、血は生きている証拠だから。もっと流れるといい、全部血が流れ尽くすまで、空っぽになるまで流れてしまえばいい。

母さんは何も気付いていない。部屋の戸棚の中にいっぱい死骸があるのに、羽根が部屋の隅に固まっけていても気付きもしない。僕のことなど関心がないのだろう。勉強さえしていたら、それでOK。テストの点数だけを気にしている。「もう中学生なんだから、いつまでも小学生気分でしたらダメよ。中学で良い成績を取らないと高校には真っすぐ行けないのよ」と、脅迫じみたことを言う。どうでもいいよ。

父さんは厳しい。いつも母親に小言ばかり言っている。時に怒鳴っている。帰りが遅いとほっとする。いないほうがいい。いたら神経が張り詰めて息苦しい。顔を見ると、「ちゃんと勉強しているか」、それしか言わない。一緒にどこかへ出かけた記憶はあまりない。仕事、仕事、本当にそうだろうか。父さんは「仕事だ」と言うとも何でも通ると思っている。昨日の晩は大喧嘩をしていた。「別れる、別れない」と、一体何が原因なんだ



ろう。とても不安になった。僕はどっちについて行くのだろう。どこにも行きたくないよ。両親そろっていてもこんな寂しいんだから、一人になったらもっと寂しいだろうな。

ある日、かわいい女の子に会った。一人でスキップして歩いている。幸せをいっぱい持つてゐるようなかわいい子だった。腹を蹴<sup>け</sup>飛ばしてやった。ギャツと言ったままうすぐまった。顔色がなくなっていく。ピンク色の顔が青くなっていく。その場をそっと離れた。あの子はどうなっただろう。死んだというニュースは出てないから死ななかつたんだろう。何かもう次の獲物を探している僕がいる。ナイフがいいか、ハンマーがいいか、スパナがいいか。楽にやれるものがいい。僕の手におえる弱い子、小さい子。いくらでもいる。

ネコがギャーギャーとうるさい。今日はネコ狩りでもするか。ナイフの切れ味も試したい。なぜ僕がそんなことをするかって、決まっているだろう、求められているからさ、僕のような人間が。

ビデオで見る世界が自分の手で繰り広げられる。そんなわくわくする楽しさがどこにある。僕にはすごい力がある。僕には神が宿っている。それは誰にも侵せない領域、こ

の領域を荒らすものは天罰が下るだろう。人間なんていつかは自滅していくだろう。人はいずれみんな死ぬ。そうとも知らず、みんなあくせく働いて何の得があるんだろう。こっけいだ、見物だ。みもの僕はそんな人生は送りたいくないな。

大人なんてみんな得手勝手な奴ばかりだ。人の不幸を喜ぶ。事件でも何でも興味津々、しんしん勝手な解釈をして自己満足している。こっけいだよ、今に世間を驚かせてやる。僕にしかできないことを一つひとつ成し遂げていく。

## コメント

子供の犯罪の初期に起こった、世間を戦慄させた猟奇的殺人でした。この子の心の世界は、今、現時点に焦点を当てただけでは決して理解できないでしょう。人にはそれぞれ心の歴史があります。過去から積み重ねてきた様々な思いがあります。すべての人の心には真っ暗な闇が存在します。それを修正するために親子の縁を、夫婦の縁を結び、この肉体を存在させているのです。何も無い人は生まれてはきません。

この子は過去から積み重ねてきた心の癖を修正するために、現在の環境を選んで生まれてきました。そして、その心の癖が噴出しました。行った行為は許されるものではあ

りませんが、しかし心の修正をしていく、今がまさにその時なのではないでしょうか。たとえば、同じ親から生まれてきた兄弟、姉妹、みんな性格も個性も違います。育て方うんぬんばかりではなく、持って生まれた特性があると感じたことがありますか。物心つく頃から、それがはつきりと現れてはきませんでしたか。それがその子の心の癖、思い癖、そして心の闇が現れていると考えれば、納得される方もいるのではないのでしょうか。現在はまさしくそんな心の癖が、時代と相まって噴出してくる時期なのではないでしょうか。その意味で、今後このような事件が起こってくる可能性は大きいでしょう。

だから表面に現れてくる現象ばかりに目を留めて、様々な治療を試みても、根本的な解決にはつながってはこないのです。

### Gさんの思い

僕には憧れの人がいる。何でもできるスーパーウーマンだ。かわいくて優しく、勉強もできて、みんなの憧れの的だ。夢、空想の中では、彼女は僕だけの彼女。僕だけに優しく、僕のためだけに笑って、僕のためだけに生きてくれる。どんなに男たちが彼

女に声をかけても、彼女は僕だけを見つめてくれる。でも、それは空想の世界だけのこと……。

現実の彼女は僕には何の興味も示さない。やっと話しかけても快活に答えてはくれるけど、ただそれだけ。夢の中では彼女は僕の恋人、これでもかこれでもかというくらい何度も抱いた。彼女は喜んだ。

学校に行くのが苦しくなった。彼女の顔を見るのが苦しくなった。でも少しでも近寄りたい。少しでもそばにいたい。だけど夢と現実のギャップは激しいよ。彼女のそばに行けば、何かどぎまぎして顔が赤くなる。僕が夢で彼女を裸にして、Hして、そんなことが思い出されて、全部見透かされていそうで何か怖かった。彼女は大学に進む。僕は就職する。遠くなるんだろうな。どんどん彼女が遠くなるような気がする。彼女にはきっと輝かしい未来が待っているだろう。楽しくて楽しくて夢のような生活が待っているだろう。鳥はかごから出してはいけない。飛べないように羽根を切らなきゃいけない、彼女がかごの中にいるように、僕の手の中にいるように。でもそれは非現実。ありえない。誰にでも優しい、でもちゃんと区別している、僕に素振りなんか見せないもの。だけど許せない。彼女に僕の知らない、手の届かない世界が展開するなんて絶対いや

だ。

僕は小さい時から、手に入れたいものは絶対手に入れると頑張ってきた。親には「この子は少し変わっている」と言われてきた。「いい加減にあきらめなさい」と、何度も言われてきた。おもちゃも食べ物も、気に入ったものは絶対手から離そうとしなかった。母のおっぱいにも執着したそうだった。

今、僕の頭の中は彼女でいっぱいだ。彼女のことしか考えられない。彼女が目の前から消えていくなんて考えられない。彼女を現実でも僕のものだけにしたい。勇気を出して聞いてみた。「悪いけど友達以上でも友達以下でもない、誤解しないで」、それが彼女の答えだった。今、ここから帰してはいけない。この部屋から出してはいけない。彼女の首に紐をかけて力いっぱい引っ張った。彼女は目を見開いてぐったりした。やっと僕だけのものになった。一人にはしないよ。僕も一緒に行くよ。それが愛だと思った。後悔はない、きっと彼女も分かってくってくれるだろう……。

## コメント

なぜ殺さなければならなかったのか。少年は何でも自分の思い通りにできると思って

いたのでしょうか。それとも、いつも何かの壁にぶち当たって、挫折感を味わい続けてきたからこそ、自分をどんどん追い詰めていった結果、このような事態を引き起こしてしまったのでしょうか。普段はおとなしく自己主張もあまりしない。でも心の内にはかなり強い意志が込められているようです。

愛情と執着の区別がつかない。愛も見返りを求めない与え続ける愛と、裏返せば憎悪に変わる肉の愛があります。少年の愛は憎悪に変わる愛、執着だったのでしょう。そのことが分かっていたら、少年の生き方も変わっていたのではないかと残念に思います。

## Hさんの思い

私は両親に捨てられました。小学校の時に産みの母は家を出て行きました。父は飲んだくれてばかりいて外で遊び、家には帰ってこなくなりました。おばあちゃんと二人の生活が始まりました。おばあちゃんはいつも愚痴ぐちを言っていました。「お前のお父さんが悪い女に引っかけたばかりに、何で私はこの年で、こんな苦労をしなければいけないのか。足も痛いし膝も痛い、働くといっても皿洗いくらいしかない。寒い時は体にこたえる。自分一人だったらどんなに楽か」。まるで、お前は邪魔だと言われているのと同

じ。傷ついた、寂しかった、心がボロボロになりました。何と言われても私はここにしかいることができない、おばあちゃんの所にしか居場所はない。だから愚痴ぐちを聞くたびに、おばあちゃんまで私を置き去りにしてどこかへ行ってしまうんじゃないかと、とても不安でした。学校に行ってもつまらない。お友達はおばあちゃんしかいないことを知っていて、「お前の母さんどこに行った。捨てられたのか」と言っていて、からかいました。それを言われるたびに悔しい思いをしました。母のことはあまり憶えていません。どこかに一緒に行った記憶もないし、テールブルを囲んでおいしい食事を食べた記憶もありません。ただ、いつもみんなが大きな声で喧嘩けんかをしていた。その言葉だけが断片的に耳に残っています。母が迎えに来てくれることはきつとないでしょう。ずっといつまでも、このままこの家で暮らすのは気が重いです。学校には行きたくない。だって留守の間に、おばあちゃんが消えたらいやだ。家には黄色い小鳥がいました。小鳥を見ていたとき、くちばしを開けてピーピー鳴くのを聞いたら、心の底から何ともいえないムラムラとした怒りがわいてきました。思わずかこの中に手を入れて、小鳥をわしづかみにして首をへし折って殺してしまった。それを窓の外に捨てて、おばあちゃんには「ネコが来てやった」と、嘘をつきました。口を開けるから悪いんだ、鳴くから悪いんだ。私を見て

何かを訴えていた、だから殺した。

時々、訳もなく無性に腹が立つことがある。おばあちゃんのしぐさ、声、私を叱る声、舌打ち、体が痛くてしかめる顔、ドキッとするくらい腹が立つ。おばあちゃんから矢が飛んでくるように感じて身構える。心がいつも緊張している。

夜中に叫び出したくなる。スースーと軽いいびきをかいて寝ているおばあちゃんを見て、何か訳もなく涙が出た。いつかこの人とも別れるんだろうな。

父が帰ってきて、またすぐ出ていった。おばあちゃんと喧嘩して、「このくそばばあ、ぶっ殺すぞ」と言いながら出ていった。私には一言も声をかけてはくれなかった。お金を無心に来たらしい、あるわけがないのに。生活保護のお金までねらっている……。父も母も憎い。大きくなったら復讐ふくしゅうしてやる。私が幸せになれなかったら、みんなお前らのせいだ……。

## コメント

この子の両親はこの子を残して蒸発してしまいました。孫を残された祖母は、子供を不憫ふびんと思うよりも自分の生活を優先し、体の不調もこの子のせいにする始末でした。愛



情や温もりはほとんど感じられず、この子は寂しさと大人への不信から、心を閉ざしてしまいました。学校でも自分の居場所がなく、友達もできず、不登校を起こしていました。学校に行ったり、休んだりの経過をたどっていました。相談室で描く絵はいつも暗く、自分の姿だけが大きく描かれ、黒や紫色の暗い色はこの子の心を表しているようでした。祖母から小鳥をつぶしてしまった話を聞いたとき、そこまでこの子の心は追い詰められているのかと、祖母にどのような指示を出したらいいのか悩みました。

子供に対し、「自分の体の不調や両親の悪口を言わないこと、そして孫をかわいいと思っていることを伝えるように。たとえそう思えなくても、少しでもこの子の良いところを見つけて褒めてあげること、祖母にとって必要な存在だということを伝えてあげること」、そう伝えました。本当は祖母自身の心が少しでも和らいでくれたらという思いでした。面接を続けていくうちに、祖母は少しずつ変わっていききました。顔が柔らかくなり、自分の生活に対しても意欲的に、孫を含めての将来の展望を語るようになりました。不登校はなくなったものの、でも、なかなか一度閉じてしまった子供の心は、容易には開くことができないまま転居してしまい、相談室には来なくなりました。

今でも心に残る気がかりな存在です。

## Iさんの思い

親は勉強、勉強とうるさい。おとなしく部屋にいて本を広げていると喜んでい。バカじゃなからうか。見ているときだけさ、勉強のふりをしているのは。あとは漫画を読んでいるのにさ。漫画は楽しいよ。自分にはできないようなことをスパッとやってくれる。敵も、憎い奴も、邪魔な奴も、いちころさ。夜になると家の周りを少しうろついたりやる。電気がともっている家は何か温かい感じがする。どんな暮らしをしているんだろう。僕の家は外から見ても暗い。電気が暗いのかな、いや、そうじゃなくて何か人の温もりがないのかな。寒々しい感じがするんだ。学校に行けば、いじめがある。あいつが僕のことを言い始めた。何人かが一緒になって僕をバカにし始めた。「お前の家は汚いなあ、豚小屋かと思ったよ。豚と一緒に暮らしているのか、どおりで臭いはずだ」。悔しくて情けなくて涙が出た。

みんなは黙って聞いている。無関心を装って、とぼっちりを食わないようにしている。息を潜めているように感じる。あいつは人の家にもドカドカと上がり込んで、僕の大事にしている漫画やゲームを「これ貸せ」と言って、返事も聞かずに持って行ってし

まう。返してもらったことがない、返してと言えば「そんなもの憶えていない、うざい奴だな」と言う。どこにも不満の持っていきようがない。「いやなら貸さなきゃいいじゃないか」と友達は言うけれど、そんなことなどできやしない。先生にも言えない、親にも言えない。逆に「漫画やゲームなんか必要ないでしょ」と怒られてしまう。くそ、どうしたらいいんだ。でも面と向かって文句なんて絶対言えない。日に日にあいつへの憎しみが増してくる。あいつを思っただけで、胸の奥深くに殺意がわいてくる。いつか殺<sup>や</sup>ってやろう。

あいつの気持ちが分からない。小学生の時は友達だった。一番とっていいくらい仲が良かった。家にも行き来して遊ぶのも息が合って楽しかった。どちらかと言えば彼の言いなりのようなところもあったけど、でも互いに不満などないと思っていた。それがいつの頃からか何かが変わった。急に笑いものにする。別の友達に僕のことをあれこれ言うようになった。普段バカにしているくせに、それなのに家に入り込んで自分の欲しいものを持っていく。一体どういうつもりだ。僕はそんなに甘くないぞ。バカにするのも大<sup>たい</sup>概にしろ……。

あんな奴生きている価値がない。あいつがいる限り、僕はどこまでも追い詰められて

いくに違いない。さあ、勇気を出せ。お前にはできる、一思いに殺やってしまえ。

## コメント

親に対する不満と日々の生活への不満、「勉強、勉強」とうるさく言われることへの不満。そこへ親友だと思っていた少年からのいじめ、裏切られた衝撃が憎しみへと変わるのに時間はかからなかったでしょう。次第に自分自身を追い詰めていき、親や学校生活全般への不満が一気に殺人という形で、かつての友に向かっていった。この子の孤独な心と、常に感じていた疎外感そがいかんは、何をもってしても埋めることができなかつたのでしょう。

殺人などの犯罪を犯してしまった未成年の子供の思いを聞いていただきました。最近、未成年の犯罪、それも凶悪化した犯罪が目立ってきています。そして段々と低年齢化の傾向が見られます。最近、すぐキレる子供が多くなってきました。一見、非行歴もなく、不良と思われる子供ではなく、真面目でおとなしく普通の子供と言われていた子供の犯行は、特に周囲の大人を驚かせているようです。子供の心に何が起おこっているの

でしょうか。何がそうさせるのでしょうか。

未成年の犯罪でよく言われるのは、その生育歴、家庭環境、家族力動です。親子のあり方、しつけ方、そして夫婦のあり方、そして子供を取り巻く環境に焦点が当てられています。もっと広く子供が置かれている社会全体の動向も大きな問題となっています。

ゲームに残酷なシーンが多い、子供には見せたくないような、あからさまで興味本位なセクシャルバイオレンスなど、漫画も暴力シーンが多く、眉をひそめる大人もいます。テレビもわかりです。情報が豊富に与えられることで、いつの間にか暴力そのものが当たり前のこととして受け止められている。また殺人の方法などのヒントも得てしまうこともあるでしょう。テレビでいじめの自殺が報道されると連鎖的に次々と起こってしまう。放火事件が報道されると放火の件数が増えていく。最近は何かマスコミによって自分を変えられてしまう、踊らされてしまう、そんな傾向が見られるようにも思います。そして普及して一家に一台はあるパソコンの影響も否定できません。爆発物の作り方、人を殺す薬、共に自殺をしましょうという書き込み、通信販売で簡単に手に入る模造ガン、ポーガンなど。自殺をしたり、人を殺す材料が巷ちまたに転がっています。何の規制もないのかと疑問に思うほどの情報量です。

しかし、いくら情報が巷ちまたに溢れている環境であっても、それに興味を持ち、またかわっていかうとする意志は、個人個人の思いの中に存在します。人の命を簡単に奪うというのは、人の命の重みを感じられなくなってきている。また簡単に奪える状況に心理的にも、物理的にも置かれているからではないでしょうか。最近の子供の殺人にはあまり罪悪感がなく、反省の思いも少ないと言われています。人間として何か欠如した状態だとも言われています。

最近の子供の中には自分のことしか考えず、自分の都合を優先し、周りの状況、周りの心境には思いを馳せず、また理解ができない子供が増えていると言われています。そして、それを病理、たとえば広汎性発達障害、アスペルガー症候群の一つの特徴として捉え、責任能力に欠けるといふ見方もあります。なればアスペルガー症候群の人たちは犯罪を犯しやすいのかという問題になってしまいます。決してそのような統計は出ていません。犯罪を犯した人の中に、アスペルガー症候群と言われる人たちが数人いるという事は事実です。また数人が広汎性発達障害だったという精神鑑定が出ているのは事実ですが、ただ、それだけのことではないでしょうか。

子供の犯罪にとどまらず、最近では犯罪が急激に増加し、強盗には殺人がつきものに

なっていました。物を取るだけに終わらず人を殺す、また婦女暴行でも最終的に殺人まで犯してしまう、老人を殺す、そして自分勝手な思い込みの殺人、自分の欲望を満たしたためだけの殺人も見られます。なぜ人々の心がここまで荒廃してきたのでしょうか。一家六人、一家四人、すべてがいたとも簡単に殺されてしまう。殺したあと証拠隠滅のため放火までしてしまう。中には殺すのを楽しむかのような殺人もあります。

殺人は悪い、犯罪は悪い、許されるものではない、誰しもがそう思うことでしょう。ただ、私は人間として生まれてきたすべての人の心に、もし同じ境遇であったならば、もし同じ立場に立っていたならば、同じように犯罪を犯す危険性はあったのでは……。自分は絶対にならないと言える人は、果たして何人いるだろうかと思うのです。

私は二十年あまり、本当の自分に出会うために心を見る、今までさんざん出してきた凄まじい思いを見るという学びをしてきたことを、まえがきで紹介しました。私がその学びに入った動機は、嫁姑の争いがご多分に漏れずあって、とても苦しかったからです。何とか姑を変えてやろうと思いました。あの姑さえ変わってくれば私はもっと幸せに

なる、楽になると思っていました。でも、それは違いました。自分が出す思い、流し続けてきた凄まじいエネルギーを省みることなく、何で姑を変えることができるでしょうか。姑といさかいをしたときには、自分のお腹なかの中から怒りが噴出し、心はフライパンを持って後ろから頭をぶん殴っていました。夢では階段から落ちた姑を見て、「やっと死んだか、やれやれ」と思い、むくっと起き上がった姑を見て、「大丈夫ですか、お母さん、どこも何ともないですか」と、慌てて取り繕っている自分がありました。自分の心が見え始めたとき、人を責めてばかりいるけれど、何のことはない、私の中には凄まじい自分のためなら人を差し置いてでも、いや人を殺しかねないエネルギーがあることを知りました。そして、それを放置したまま人生を歩んでいたことを知りました。私の場合はあるところまで理性で抑えることができた、そしてまた怒りや憎しみが爆発に達する沸騰点にまで達していなかった、それだけのことでした。でも放置したままでは、いつかまた形を変えて現れてくるのが目に見えています。だから私は心を見続けました。一瞬一瞬出る思いを、ごまかすことなく見続けてきました。自分でも途方に暮れるくらい、どんどんたくさんの汚い、見たくない、認めたくない思いが出てきました。終わりがありませんでした。そして今でもそれが続いています。今は汚い心が見えるた



びに、またかとは思いますが淡々と受け止めています。そして自然に自分に対して、ここまで心を汚し切ってきたことを申し訳なく、自分にわびる思いがわいてきます。

自分が何に価値を置き、何に執着してきたか、そして、それを守るためにどんな思いを出し続けてきたか、それは時を経過しながら大きく大きく膨らんできました。今、私たちが生きているこの日本、世界、地球規模で、どんどん凄まじいエネルギーが膨れ上がり、様々な現象を起こすエネルギーとなっているのではないのでしょうか。

お金への執着は並大抵のものではありません。お金は人を狂わす、まさしくそのような傾向があちらこちらで見られ、大人の殺人はお金目当てが原因のトップでしょう。また世間を騒がす汚職、談合など、政治、経済の世界までお金にまみれて毒されています。産業廃棄物やゴミなども不法投棄される、その根底にある思いは何でしょうか。大人は何一つ子供の手本になることはしていません。

最近では高校の未履修問題まで表面化されました。目的のためには手段を選ばず、ルールを破り、嘘の報告書を出してまでもつじつまを合わせる。また補習に関して、学生の反応、言葉にも驚かされることがあります。

いじめの問題にしても、責任<sup>せきにん</sup>転嫁、責任のなすり合いなど目にあまる光景が映し出さ

れます。このような状況を、子供たちはどのような心に刻んでいくのでしょうか。人々の心にある基準が大きく狂ってきている。その基盤にあるのがお金、お金のための人生、そのための労働、勉強です。大学進学のための予備校化した高校で一体何が学べるのでしょうか。ころころ言うことが変わる教師の下で、子供は何を学んでいくのでしょうか。有名な大学への進学率を上げるためには何をしてもよいのでしょうか。それでは自分の欲望のためには手段を選ばずということ、学校自らが教えているようなものです。そして、そのようなことまで気がつかない世の中になってしまった、それが当たり前になってしまったことに、大人はそれを社会や政治や教育の責任だと決めつける前に、自らをしっかりと振り返ることから始めていく時ではないでしょうか。

お金があれば何でもできる、その短絡的な思考がすべてに優先してしまう現代の社会状況をどうしたらよいのか、それは環境うんぬん、職業の安定という以前の問題、やはり一人ひとりの心にかかってくる問題だと思います。真面目にあくせく働いても、額に汗して苦労しても、手に入るお金は知れている、それならいっそ……と飛躍してしまう思考。野球選手一人、サッカー選手一人に何十億というお金が動く時代、人が一生かかってもせいぜいその何十分の一もないことに、じくじたる思いを持つ方もいるでしょ

う。また天下りなどで法外な賃金、退職金を得る人々、そのニュースを見るたびに怒りを感じる方もいるでしょう。お金は大切です。お金がなかったなら生きていくことはできません。でも必要以上にお金を欲するところから人々の苦しみは始まり、渦巻く欲望が生まれ、そのために様々な犯罪も起こってくるのではないのでしょうか。人より上を目指す、そこに様々な人間模様が生じてくるのではないのでしょうか。

今、子供の世界に生じている現象は、すべて大人の世界の縮図です。心理的な要因から起こる犯罪ばかりではなく、遊ぶお金欲しさの殺人、窃盗、ゆすりなど、大人顔負けの犯罪も見られます。

大人の社会にもいじめがあり、パワーハラスメントによる自殺も報じられています。人間関係のもつれからの殺人、情欲から来る男女間の殺人、保険金を狙った殺人、財産争いの殺人、暴力団の闘争、オレオレ詐欺、リホーム詐欺、セールス詐欺、人を見たら疑ってかかれ、危ない人のそばには寄るなど、不安と猜疑心さいぎしんに満ちた社会になりつつあります。昔は鍵もかけなかった玄関が、今は二重鍵で守られ、ガラスも防犯ガラスになり、そして家々の玄関には防犯会社のシールが貼ってある家が多くなりました。また子供の学校の送り迎えが必要になり、地域ぐるみで子供を守る体制も取られています。過

去を振り返る間もなく、わずか戦後何十年かの間に社会は大きく変わってしまいました。一体このままだとうなるのだろうか、不安にかられる方もいるでしょう。

行き着くところまで行ってしまおう、それは当然のことかもしれない。地球の状況を見ても、異常気象が顕著になっています。地球温暖化が原因で海の水位が上がり、消えていく島、都市もある。気流も変わり、以前にはなかったような大規模な台風があり、雨量の変化もあります。自然現象が誰にも止められないように、また止めたいと、たとえば排気ガス規制をしても経済優先で守られない。各国勝手な欲望を優先する。すべて自分たちに返ってくることに目をつぶる。人間の無知と愚かさが現れている状況です。

大人も自分たちの住む環境が変わってきた、自分たちの欲望が子供たちをダメにしてきたと知っても、それに歯止めをかけられない状況なのだと思います。

これからもますます人々の心にも、また自然現象にも、予想もしない事態が起こってくるでしょう。その流れは止めることはできないでしょう。

ただ一つ、どんな状況になっても、自分の心、思いを見つめていく、そのことを心に置いていっていただきたいのです。

今、たとえ未成年といえども厳罰をという声が上がっています。確かに罪は許されるものではありません。でも罪を犯した人間にも、自分の間違いに気付いていく時間が与えられていいのではないのでしょうか。真の更正とは、一人ひとりが自分が出してきた思いを振り返り、自分の心の癖、エネルギーを知り、そして修正していくことではないのでしょうか。罪を犯してきた人にも、誰にでも命をかけて産んでくれた母親がいます。その母親の温もりを心で知ってほしい。たとえ肉的には最低と思われる母であっても、必ず心の奥底には母の思い、母の波動が存在します。それに触れてほしい、心で気付いてほしい。そして自分の心に優しさや温もりを取り戻してほしい。その温もりに触れて本当の自分に気付いてほしい。

自分の心に向き合いながら、本当の自分に帰っていく、自分を取り戻していく、それが本当の更正ではないのでしょうか。

犯罪を犯してしまった子供たちが、決して特別な存在だとは思いません。すべての人に過去から心の中に蓄積してきた思い、心の癖、闇が存在します。たまたま、あらゆる

要因で蓄積してきた闇のエネルギーが爆発してしまい、間違った道筋を歩んでしまったのでしよう。

その中で多くの苦しみに出会い、さらに心を汚してきた自分を感じ、絶望的になっていく子供もいるでしょう。

自分の心の叫びを、思いを、そのような形でしか表すことのできなかつた子供たちです。精神疾患があるならその治療を、機能障害があるのならその治療を、心理的な要因があるのならその対応を……。

その上で、一人ひとりが生まれてきてよかったと信じていることができるまで、ひたすら心を見つけていってほしいと思います。

自分を愛し、自分を信じていることができるまで、心を見つけていってほしいと思います。それをいつまでも信じて待っているあなた自身が、あなたの心に存在します。

### 母親の温もりからのメッセージ

殺人、暴行、窃盗、強盗、肉の世界にはいろいろな犯罪があります。意識の世界から見たならば、すべてが原因あったの結果です。人は皆、自分で環境を選んで生まれてき

ます。こんな環境でなかったなら自分はもっと違った人生を……、間違いなど犯しはしなかったと言われるかもしれませんが。でも自分が自分の心の修正のために、自ら選んできた環境であったと感じたならば、これからの生き方も変わってくるのではないでしょうか。

ぬるま湯のような、すべてに満たされた生活の中であれば、人は自分の心を見ていくことはしないでしょう。厳しい、苦しい生活だからこそ、自分の心を見るチャンスもたくさんあったのではないでしょうか。今までは自分の欲望のままに流された人生、自分の心の闇にほんろう翻弄され続けた人生だったかもしれません。でも、これからは本当の自分に誠実な人生を、一步一步、自分の心を見続ける人生を送っていただきたいと思うのです。自分の心の中にある母親の温もりを思い出し、感じていってください。たとえ犯した行為がどんなものであっても、すべての方の心に存在する思い、それが母親の温もりです。そして、それが本当のあなたです。

# 子供への虐待



最近、増加してきた問題に虐待があります。少子化が進む現代、いとも簡単に幼い命が奪われていくことに、悲しみ、怒りを感じる方も多いのではないのでしょうか。

家庭の中で育児に対する不安が高まり、母親が自分の内面の様々な思いを子供にぶつけてしまう。それが虐待とは認識されなまま、虐待に走ってしまう場合もあります。また虐待には様々な環境的要因も否定できません。最近、目につくのは同居人の男による虐待です。一体なぜ母親は我が子を守らず、その虐待を放置し続けてきたのでしょうか。憤りを感じる方も大勢いらっしゃるでしょう。

やはりここでも、一人人の心はどうなってしまったのだろう、母性はどうなってしまったのだろうと考える方もおられるでしょう。

都道府県には、虐待を防ぐために虐待防止ホットラインが設置され、虐待に悩む親たちの相談を受けています。

しかし自ら自分の子供への虐待に悩み、自らを救いたいとそのように電話をしたり、相談に赴く行動を起こせる人は多くはありません。中には発見されなまま放置され、死をもって初めて問題になるケースも多々あります。どんなに乳幼児の泣き声が、また

許しを請う声が聞こえても無関心の近隣、他人事ひとごとだとかかわり合いになるのを避けてい  
るのでしょうか。またその声に気付き、子供が大変だと児童相談所に通報しても、何の  
対策も取られないうちに死に至ってしまったケースもあります。

ここでは子供の虐待に至る親の心、そして周囲の様々な思いを聞いていただきたいと  
思います。現代の人間の心模様が映し出されることでしょう。

## ケース 1

この子が生まれる前から、つわりや中毒症で体調がとても悪かった。何でこんなしん  
どい思いをしなければいけないの。もともと望んだ妊娠ではなかった。できてしまっ  
て、おろす時期も過ぎてしまっ、それじゃしようがないかと思ったから産もうと思っ  
た。産まれてきたら、毎晩ギャーギャーうるさくて眠れやしない。おっぱいもあげな  
きゃいけない。夫はうるさいとばかりに布団をかぶって寝たふりをする。泣くたびに何  
がしてほしいのか。おっぱいをあげたり、おしめを換えても、火がついたように泣くば  
かりで憎らしくさえなってしまう。

あなたは一体何なのよ。何の権利があって私をこんなに苦しめるの。泣かれるたびに

こっちが泣きたくなる。幼い赤ん坊の顔を思わずパチンと打ってしまった。あっ、こんなことをしてはいけない、そう思った。でも思わず手が動いてしまった。子供がいとしいという思いがわいてこない。「寝顔を見てたらかわいいでしょ、まるで天使ね」と看護婦さんが言っていたけど、ちっともそうは思えない。何か私の自由と若さを奪い取るエirianのように思える。

夫は、「そのうるさいの何とかならないか。眠れないと仕事に差し支える。体力が持たない」と言う。それはこっちも同じよ。子育ては私に全部押しつけて、自分は何の責任もないという顔をしている。半分はあんたの責任でしょ。避妊をいやがったのは一体誰よ。夫まで他人のようで憎らしく恨めしくなる。疲れた、ぐっすり眠りたい。保健所の健診で、「体重の増加が悪い、栄養状態が悪い」と言われた。どうしろと言うのよ。もう、たくさん。相変わらず子供はビービー泣いている。真っ赤な口を開けて泣いている。それを見ていたらお腹なかの底から黒い塊が飛び出してきた。怒りでいっぱいになった。もう我慢ならない。私は子供を持ち上げて床にたたきつけた。子供はぐったりとして泣きやみ、動かなくなった。

## 近隣の人の思い

よく泣き声が聞こえました。赤ん坊だからよく泣くのかと思っていました。でも今考えれば泣き方が尋常じゃなかったですね。姿を見かけたことはありません。赤ん坊を抱っこした姿も負ぶった姿も、そう言えば見たことがなかった。あの奥さんはいつもふらーっとした感じで顔色も悪く、産後の肥立ちが悪いのかなと思っていました。でも普通あまり挨拶もしないし、話をしたこともありません。近所付き合いは、ほとんどありません。よくこんな事件が起きると、近所に住んでいる者が非難の対象になりますが、無理ですよ。私も昼間はバイトで家にいないし、本当に付き合いがないんです。かえって口出ししたら、「干渉するな」と文句が来るでしょう。泣き声がうるさいと思っても、何か言えば文句だと取られるし、面倒なんです。でも、かわいそうですね。身近にそんなことがあると少し憂鬱ゆううつになってしまいます。何か気味が悪いので引越そうかと思っっています。

## コメント

自分の体をむしばんだ望まない妊娠、赤子は自分の思い通りにはならず、何をしても

泣き叫ぶばかり、イライラが高じてつい手が出てしまう。夫は手助けをしてくれるどころか、逆に不満をぶちまける。積もり積もった不満、ついにこの子さえいなくなったという思いが膨らんでしまい、子供に向けて爆発してしまった。身近に育児を相談する人も、この母親のストレスを緩和してくれる人も存在しなかったと思われれます。また母親自身、それを望んでいなかったのかもしれませんが。最近、このような家庭が多いのではないのでしょうか。母親の資質に欠けていたと言ってしまうばそれまでですが、自分のこゝとしか考えない。我が子ですら愛せない、その根本にある思いに目を向けて、すべての人が向き合っていかなければならない大きな問題ではないのでしょうか。

## ケース 2

この子は、三歳になってもおしっこを教えません。言葉の発達も今一で、他の子供に比べるとずいぶん発達が遅いように感じます。それを指摘されるのがとてもいやです。保育園に入れようと面接に行ったら、ずいぶん遅いと指摘され、集団の生活になじめるかしらと疑問視されました。何のために保育園があるんですか。こういう子供の面倒をちゃんと見てくれるためにあるんじゃないですか。「もっとしっかり言葉がけや、遊ぶ

時間を増やしてください」と言われましたが、そうそう子供の面倒ばかり見ていられません。この子は何かとろく、いつもおどおどと親の顔を見ているような子供でした。言うことは聞かない。何でもいや、いやと言えはそれで済むかのごとく、親の言う通りにしたことがあります。食事はポロポロこぼすし、何か飲むとむせて吐き出すし、手がかかって仕方ありませんでした。子供は特に嫌いではないですが、育てるのは大変なものだとつくづく思います。夫は、「もっときちんとしつけをしろ。今、しつけをしておかなかつたら、あとで手がかかってどうしようもなくなるぞ」と言いますが、私は手を抜いて育てた覚えもありません。疲れるし、叱るとキンキン声を上げて泣き、それが近所に聞こえるかと思うと気が気じゃありません。思い通りにならないのが普通だと育児書にも書いてありましたが、そうも言ってられません。私の育児のどこが間違っていたのでしょうか。

頑張ってきました。私の母は早くに亡くなり、母の顔も写真でしか確認できません。育児の相談もできません。私がどんな育ち方をしてきたのかも、あまり記憶がありません。複数の女の人が家に出入りしていたのを憶えています。「Xちゃん、かわいいわね」と声をかけてはくれるけど、本気で相手にしてくれなかったような憶えはありません。父は厳

しい人でした。家で商売をしていましたが、いつも誰かを叱る大きな声が聞こえていました。誰に甘えることもなく、学校時代を過ごしていた。早く大人になって家を出たい、それが願いでした。楽しみといえば友達とおしゃべりをしたり、ショッピングに行ったり、ライブに行くことでした。高校を出てから専門学校に通いましたが、あまり興味がわかず中退してしまいました。友達で紹介で今の夫に出会いました。どこか惹かれるところがあって結婚しましたが、今は何となく失敗だったかなと思っています。全然心が通い合わないし、お互い自分の主張ばかりしてるし、相手を責めることしかしていません。時折、もうこんな生活から逃げ出したいと、子供を一人置いてぶらっと街に出たこともあります。もう、どこかへ行ってしまいたいなと思うこともあります。段々、夫の声、態度、体臭、話し方すべてが鼻につき、嫌悪感けんおかんを感じることもあります。私の子供の叱り方が少しずつとげとげしくなってきました。この子を見ているとイライラしてくる、そんな状態になりました。自分でも抑えようのない何かが私の心に膨らんできました。私を見るその目が夫の目に見えて折檻せつかんをしました。子供に当たっても仕方がない、子供がかわいそうじゃないかと思う自分と裏腹に、私の人生を阻むはば足かせのようなこの子を、抹殺してやりたいという思いが広がってくるのを、どうしようもあ

りませんでした。

遊ばせていたとき、私が渡した玩具をこの子は投げつけました。この頃よくある行為です。何が気にいらぬのか、玩具は投げる、食事の時もスプーンは投げる。本当にかわいくない。相変わらずおしっこやうんちも教えない。それができないと保育園には行けないでしょ。

ちょっとお留守番をさせようとしたとき、火がついたように泣き、私の足にしがみつきました。だから思わず足で遠くに蹴飛ばしてしまいました。この子はおびえたように泣きやみ、凍りついたようになりました。それから私はちよくちよくそんな行動を取るようになりました。わざと食事を与えなかったり、おしっこをするという理由で水分を与えなかったり……。今考えると、幼い子供に向かって残酷なことをしたと思います。この子を蹴飛ばしたとき、この子の腕が折れました。そして病院に連れて行ったとき、医者があちこち痣だらけなのを見て、警察に通報しました。あの子は保護され、今は施設で生活しています。

よかった。殺してしまう前に見つかってよかった。あのまま行ったら、私はもっと暴走していたかもしれませぬ。どこにも相談できなかつた。誰にも相談できなかつた。私



を取り巻く世界は何の手助けもしてくれなかった。ああ、それは私の勝手な言い分かもしれませぬ。でも今は何かほっとしています。

### 夫の思い

妻はいつもふさぎ込んでいました。私は虐待に気付かなかった。私の前で暴力を振るうことはなかったからです。妻はどちらかというと内向的で感情を表には出しませぬ。でも時にちらっと見せる激しさを感じたことはありますが、どちらかと言えば自分の気持ちも押し隠し、我慢するタイプでした。子供は癩かんが強いというのか落ち着きがなく、いつもそわそわと動く子供でした。排泄のしつけがなかなかできず、妻の怠慢もあると思っ妻にも注意しましたが、それがいけなかったのでしょうか。私は別にすべてを妻の責任だと決めつけて言ったわけではなく、「小さい時の子供のしつけは大事だ」と、そう言いたかったのです。

一度だけ、私が帰宅したとき家の中が真っ暗で、妻が部屋の中でぼーっとうずくまっていたことがあります。その姿を見たときには少しギョッとしましたが、「何してるんだ」と声をかけたら、すぐ我に返りました。まさかこの子を蹴け飛ばしたり、水も飲ませ

てなかったなんて、私もうかつでした。父親の役割を何も果たしてこなかったと責められても仕方ありません。妻は私を愛し、家庭も大事にしてくれているとばかり思っていました。それは勝手な夢だったのかもしれない。妻からは、もうやっていけないと離婚の申し出がありました。今は、やや精神的に問題があるということで入退院を繰り返しながら治療中です。でも私には妻の離婚の要求に応じる気持ちはありません。将来、妻の状態が元に戻ったら、子供も引き取って一緒に暮らしたいと思っています。私は妻の苦悩に少しも気付いてやれなかったことが悔やまれます。家のことを任せ切りにして、話も十分に聞いてやれなかったことが悔やまれます。

もう一度、家庭が取り戻せるでしょうか。親がありながら寂しい思いをさせている子供のことを考えると、何か切なくなります。

## コメント

母親自身の育った環境に、やや問題があるのかもしれない。子供を育てていく愛情は、自分がどれほど親から愛情を受けて育ってきたか、心の中にある記憶が他のものを愛する心に育っていくと思われまます。

子供は三歳にもなれば、自我も育ち、親の言うことを聞かなくなり、自己主張も強くなります。それをこの子も成長してきたと喜んで受け止めていくか、育て難くなったとネガティブに受け止めるか。母親は自分にとって都合が悪いことだと、ネガティブにしか受け止められなかったのでしょうか。

しかし一番の問題は夫婦の不仲です。心が通じ合わない。しまいには夫を毛嫌いし、拒否する妻。これでは家庭はうまく行くはずもなく、子供への虐待の原因もただ単にしつけの問題よりも、そこらにあると思われれます。子供が母親のストレスのはけ口になってしまった。でも母親はそれを十分認識していたけれど、どうにもならなかった。ただ今後落ち着いてきたときに、母親は自分の心、思いを見つめることにより、間違ってきたことを心で知るでしょう。そこから新しい出発になるのではないのでしょうか。

### ケース 3

私がしていたことが虐待だなんて考えたこともありませんでした。子供には厳しく、しっかりと善悪の判断を小さい時からできるように、善悪も体で覚えさせるのが一番だと考えてきたからです。私もそのように小さい時から育てられてきました。私は虐待を

受けていたとは考えていませんし、私がしたことも虐待だなんて思ってもいませんでした。でも私は何となく子供に愛情というか、感情的に我を忘れてのめり込むなんてことはありませんでした。いつも客観的というか、子供を観察する立場を取っていたように思えるのです。子供も私に甘えるということをしませんでした。ただ世話をしてくれるおばさんとしての認識しかないのではと思うことが度々でした。心の交流をあまり感じませんでした。それを自分の子育ての方法のせいだと思ってきましたが、何か違うようでした。子供はしっかりとした会話ができないんです。一方的にはよく話します。私の言うことも分かるようですが、その後の発展がないんです。共感というか、同じものを見て同じように感じるということがないですし、物事への対応の仕方が何か予想もつかなくて、違和感を覚えることも度々でした。こだわりが強く一度言い出したら聞かない、何を言ってもダメで、しまいにパニックを起こしてしまふ。手がつけられず、思わず手が出ることがありました。その時は小憎らしく感じたものです。

その時になって、これは普通じゃないと思うようになりました。病院に行きました。発達障害の一種でアスペルガー症候群と診断されました。療育の対象ではあるけれど、病気のように完全に治るというものではないと聞き、愕然がくぜんとしました。私の中で何が

ガラガラと崩れたような感覚で、自分の人生が真っ暗になったように思いました。まだ小学生になったばかりの子供ですが、何か私はいとしさよりも得体の知れないものを見るような気持ちですが、ますます募りました。こんな子が私の子供だなんて信じたくない、認めたくない、なぜ私の子供が……。それから私の子供に対する思い、対応が変わりました。ますます客観的に、子供に対しても心を閉ざす自分を感じ、何かとても複雑な気持ちでした。

あまり私にも甘えず、懐かず、壁が一枚間に入っているような感覚を、私は互いに相手を求めてはいないんだ、それでいいんだと思ってきたのですが、それは息子の病気だったんですね。私は息子を突き放し、放置していました。自分が子供にも求められない母だと、傷つくのがいやだったのですね。

体罰こそたまにしかしませんでしたが、でも心が息子を拒否し、受け入れることが全くなかった。無視し、この子と共に笑うことも、遊ぶことも、泣くこともなかった。いいえ、この子は障害児なんかじゃない。私心が心を通じ合わせることを全くしてこなかった。人形よりもひどい扱いをしてきたんです。

私は母親失格です。もう取り返しがつかない、どうしたらいいのでしょうか。

## 夫の思い

妻はいつも突き詰めて考えるたちで、自分をとことん追い詰めてしまう。そして一人で苦しんでいる。私も見るのがつらいです。息子の様子が何か変わっていると感じたのは、幼稚園の年中組の時でした。「他の子と遊べない、一人の行動が多い、人の気持ちに頓着しない、クラス全体の雰囲気になじんでいかないので、一度相談機関に行ってください」と言われました。その時は様子を見ましようとのことで、一月に二度ほど経過を見るということで終わりました。途中で何も変化がないので、妻はもう行くのが面倒だと行くのをやめました。私も強くは言えず、また、そのうちによくなるだろうと楽観的に考えていました。でも妻は不安だったようです。はっきりと何かを指摘されるのが怖くて行かなくなったのかもしれない。小学生になってから子供の状態は良くなるどころではなく、教室になじまず、授業中もじっとしていることができず、後ろにちょっかいを出したり、うろついたりするとのことで、学校で面談を受けました。妻は行かず、私が行きました。

その頃から妻は子供を避けるようになった。子供にはますます無関心を装い、世話も

放棄するようになりました。晩ご飯も作らず、私が会社から帰ってから用意することも度々でした。妻のほうが悪れてしまった。私は不安にかられました。でも息子を連れて病院に行き、息子の状態から発達障害と診断されたら、妻はまるで腑抜けふぬけのようになってしまいました。

最近では「自分の育て方が悪かった」と、そればかり言っています。自分で教育関係の本を買ってきては「自分は心理的虐待をした、ネグレクト虐待だ」と、訳の分からないことを言っています。私は息子のことも心配ですが、もっと心配なのは妻です。虐待って何ですか。妻は虐待などするはずがない。思い込みだと思えます。我が家には全く関係ないと思ってきましたのですが……。

## コメント

母親は真面目な人で、育児にも相当熱を入れてきました。しつけの一環として体罰も加えていたようです。

子供が障害児と宣告されることは、母親にとっては大きな痛手であり、自分の存在さえも否定しかねない大きな出来事です。子供の特色がアスペルガー症候群という病から

来るものとは知らず、悪戦苦闘の育児で疲れ果ててしまった時期もあったのではないのでしょうか。夫婦が互いに支え合い、共同して育児に当たる体制を整えてほしいと思います。そして母親は自分を責めることなく、自分自身がそんな環境の中でも明るく育児を楽しむ心を培ってほしい。アスペルガーは親の育て方は一切関係がない、親の責任ではないということ率直に受け止めて、自分をさらに追い込んでいくことはせず、子供のありのままの状態を受け止めるようであってほしいと思います。

#### ケース 4

私はただ普通の家庭を作りただけです。でも、それが狂い始めたのは、子供ができて楽しいはずの生活が、ただ苦しいものとなってしまったことからです。子供はともかわいかった。赤ん坊の時は無我夢中でした。新米ママでしたが育児書を読んだり、ママ仲間といろいろ話をしながら、私なりに頑張ってきたつもりです。夫は仕事が忙しく、なかなか共に子供のことを話題にしながら食事をするということもなく、一人で子育てをしているような、そんな寂しさもありました。疲れ切った顔で帰宅する夫に、子供のあれこれを話すこともなく、段々、私はストレスをためてしまいました。子



供が夜熱を出して苦しんでいるとき、風邪から脳炎になる子供が多かったので、病院を探して連れて行かなくちゃいけなかった。でも夫は不在で、携帯をいくらかけてもつながりませんでした。何でこんな時にと泣き出したい気持ちになりました。タクシーを呼んで夜間の救急病院に連れて行きました。たくさんの子供がいましたが、大抵はご主人が付き添っていたり、家族の人が一緒でした。私は一体何なのだろう。夫は何を考えているのだろう。仕事、仕事ってそんなに仕事が大事なのか、家族あつての仕事じゃないのか、夫に対して怒りや不満が噴出してきました。子供はしばらく高熱が続き、私も眠れない日々が続きました。それでも夫は気遣い一つ見せてくれるわけでもなく、かえって自分の身の周りの世話がおろそかになっていることを、不満に思っているようでした。実家の母を思いました。もしこの状態を知ったら、すぐにでも駆けつけてきてくれるだろう。でも夫とは不仲です。夫はあまり家庭の味を知りません。小さい時に母親と離別し、父親も厳しかったようです。言葉の断片に家族への不満が出て、愛が感じられることがあります。私が子供をかわいがればかわいがるほど、夫はたまに家にいるときでも子供と遊ぼうともせず、そばに寄っていく子供を邪険に押しつける、そんな状態でした。

健診の時に、「言葉が少し遅れている」と言われました。こんなに一人で頑張って育児をしているのにと、少なからずショックでした。確かに私は体の調子も今一つで、喜んで子供と暮らしていない。夫への不満で心が晴れない。ちょっとしたことでも子供に当たってしまう。私の気持ちがイライラしていると子供まで敏感に反応してしまう。ギャーギャーよく泣くようになりました。言うことも聞かず、私の神経を逆なでしました。この子は癩かんが強いというのか扱あつかいにくい子供でした。あんなに生まれてきたときは嬉しくて、かわいくて目に入れても痛くない、この子のためなら何でもしてあげる、そんな気持ちがいっつの間にか冷え切っていました。

公園で玩具のことでよその子の顔を引っかき、砂場で突き飛ばしてしまってから、この子は要注意のレッテルを貼られてしまいました。気に入らないことがあると、とんでもない行動を取ってしまう。私はそんな子供を受け入れることができなくなってきている。子供に対して何とも言えない感情が沸き起こってきました。ふっとそんな自分に恐ろしさを感じてしまいました。些細ちさいなことでも子供に手を上げる。ほっぺたが青くなるほどつねる。キィキィ言う声こゑが耳に障さって、どうしようもなくなりました。

もう、どうでもいい。夫が何と言おうと構かまわない。私は荷物をまとめて、泣く子供を

連れて実家に帰りました。母はただごとでない私の顔を見て、抱き締めてくれました。何も聞かず、ただ抱き締めてくれた母。本当に故郷に帰ってきた、自分のいる場所はここしかない、そう思いました。

実家で暮らすうちに私の気持ちも収まり、穏やかになってきました。子供も安心したのか、とても明るくなり、乱暴もしなくなってきました。無邪気に遊ぶ子供の顔を見ると、私が間違っていた、私が子供を追いやっていたと感じるようになりました。こんな子供に暴力を振るっていたのかと思うと、いたたまれなくなりました。

私にとって母は偉大でした。母がいてくれて私を全部受け入れてくれた、そのことがただただ嬉しいです。

私はこの子にとっても、そんな母親になりたい、そう思いました。

### 母親の思い

娘は頑張り屋で、結婚してからも、何かあっても家に不満を言ってくるような子供ではありませんでした。でも時々電話をすると暗い感じで応対し、声だけ無理に明るくふるまっている様子が感じられ、何か心配事でもあるのかなと感じていました。何を聞い

ても「大丈夫、元気でやってる」、そんな答えしか返ってきませんでした。

ある日突然、目の下に真っ黒な隈くまを作って、大きな荷物を持って、険しい顔をして帰ってきました。この子がこんなことをするなんて、よほどのことがあったのでしょう。夫が浮気でもしているのか、暴力でも振るうのか、一瞬間問いただしたい気持ちがありました。夫が何も聞くことができず、やせた体を抱き締めました。私には何も言わなくても娘の苦しみが、やるせない思いが伝わってきました。子供もおどした感じで生気がなく、やせていました。

偏食もひどく、何に対しても無気力でした。初めは不眠を訴えていた娘がよく眠り、よく食べるようになってから、孫の様子も変わってきました。おばあちゃん、おばあちゃんと一日中私のあとをついて回り、何にでも興味を示すようになりました。ぼつぼつ娘の話を聞いていくと、育児に対しての不安や家庭への不満、夫への不満がありました。もっと夫ともよく話し合ったらいいのにも思いましたが、話せる状態ではなかったようです。娘婿の育った環境は経済的には恵まれていたようですが、温かな家庭とは言えない、寂しい子供時代を過ごしたようです。娘とは価値観、家庭に望むこと、育児に対する意見が全く違っていたようです。今後のことは娘に任せるしかないと思っています。

ます。離婚するのは簡単です。でも孫から父親を奪うことは私としては避けたい。娘婿は本人が悪いというより、そんな環境で育ち、父親が何たるかを学習しないまま父親になってしまった、そう考えたら許せるのではないかと娘にも言いましたが、返答はありませんでした。まあ気の済むまで、一生のことですからゆっくり考えて、結論を出したらいいと思います。孫は帰ってきたとき体に痣あざがありました。娘の状況が分かり、何が娘をここまで追い詰めたのか、その根っこは深いように思いました。孫はそんな娘をもかばっています。痣あざも「自分がぶつけた」と言っていました。それがあまりにも不憫ふびんで、もう、そんな思いはさせたくありません。今、娘は孫に手を上げることはありませんが、私としては、あんなに子供好きで穏やかで明るかった娘が変わってしまった、それが信じられないような思いです。一体何があったのでしょうか。

娘婿は迎えにも来ません。あちらも離婚する覚悟なのでしょう。もう、戻らざるも信はないのか、私もどうしたらいいのか分かりません。

## 夫の思い

妻が子供を連れて出ていってしまった。何の連絡もありません。僕はあの妻の母親

が、あまりにもしっかりとしているので苦手です。いつも娘の幸せを考えているような、僕が何か失態をしたらいつでも文句を言いにくるような、そんな義母が苦手でした。

僕は子供の扱い方が分かりません。どう接していいのか分かりません。子供が産まれたときは、いよいよ僕も父親になったのかと責任を感じ、頑張らねばと思ったものです。でも仕事がうまく行かず、いつも帰宅時間が遅い。上司との折り合いも悪く、悩みも多い。妻の愚痴や相談事に耳を貸す余裕がありませんでした。子供の泣き声に「どうにかしろ」と、妻を怒鳴ったこともあります。泣いてもどうあやしたらいいのか分からず、大声で泣く子供を持って余りました。妻はおしめを換えたり、ミルクを温めて飲ませたりしていましたが、それでも泣きやまず、ぐずぐず言うのを僕は手伝うどころか、苦々しい思いで見つめていました。妻はそんな僕が不満のようでした。

妻が息子をつねったり、揺すぶったりしているなんて知りませんでした。時々、考え込むように遠い目つきをしているのが気になりましたが、僕はほったらかしにしてしまいました。息子が手に火傷をしていたことがありました。妻は「アイロンに触った」と言っていました。妻が押しつけたのかもしれない。何で妻がそんなことを、あんなに明るく笑っていた妻でしたが、いつの間にか気付いたら、むすっと暗い妻がそこにい

ました。僕には妻とやり直す自信がありません。今後、子供に対しても愛情がわくものか自信がありません。自分にもいろいろと問題があったとは思いますが、自分を変えていくことなどできないでしょう。今までそれで来たのですから……。

## コメント

子供が病気になったとき、夫の手助けがなかった。今まで積み重ねてきた不満が一気に高じたのでしょう。他の家庭と比較して夫を責め始め、ボタン一つの掛け違いが大きな溝へ、そして修復の利かないところまで、夫も自分をも追い詰めていったのでしょう。

最後に母親の温もりを思い出し、母の元へ駆け戻った。それは自分を救いたいという心の促しだったのではないのでしょうか。もう一度冷静に自分を見つめ直し、相手を責めるばかりではなく、母親のような優しさや温もりを、ぜひその心に取り戻してほしいと思います。母親から伝わったその温もりを、子供に、夫に伝えていってほしいと思います。夫婦は互いの心の癖、心の中の闇をお互いに見やすいように、今世、縁があって結ばれました。親子同様、これも決して偶然ではありません。どんな理由があろうとも離婚するということは、意識の世界から見れば、途中で自分の人生の目的を放棄してしま

うことなのです。夫は妻を幸せにしてくれて当然、また妻は夫を幸せにしてくれて当然、そのように思っている自分の立っている場を少し見つめ直してみれば、また違った人生が歩めるのではないでしょうか。

## ケース 5

私は出産してから、すぐ私の病気やいろいろな事情もあり、この子を乳児院に預けました。病気も癒え、職場も見つかったのでこの子を引き取り、昼間は保育所に入所させて、親子一人で暮らすようになりました。でも全然この子は懐きません。「お母さん」ともなかなか呼んでくれません。

初めは、生まれてすぐ親の元から離されて、この子も寂しかったのだろう、突然、環境も変わったのだからこの子も戸惑っているのだらうと、精一杯母親らしくなれるように努力もしました。でも全部空回りというか、いくら頑張っても、この子は私を求めてはくれませんでした。心を開いてはくれませんでした。よく熱を出し、お腹なかも壊し、度々保育所から呼び出しがかかり、仕事にも支障が出て、職場にもとても神経をしまいました。段々、私もイライラが募るようになりました。もともと望んだ出産ではありません



んでした。苦しい恋愛をして、男をつなぎとめる、そんな不純な思いで妊娠し、結局は結婚できませんでした。残されたのは子供だけでした。子供を引き取ることに躊躇ちゅうちゅうしました。でも養子に出す決心もつきませんでした。家に引き取り、何か母親らしい気持ちもわいてきた、そんな自分が嬉しかったのに、今は何か寂しいというか、虚しいというか、人生を踏み外してしまったような焦りを感じています。

頼る人もなく、相談する人もいない。母は未婚で子供を産んだ私を許してはくれませんが。実家に帰ることなど、とてもできません。私には実家がないのと同じです。もし夫がいたならば、いろいろ話も聞いてもらえたかも……。そう思うと一層寂しさがわいてきます。

こんな子を自分の勝手な思いで産んでしまったことを、いくら後悔しても始まりません。いっそ、この子がいなかったならば、もっと身軽に……。何てことを考えるのでしょうか。でも、そんな思いが体の調子が悪い時、経済的に行き詰ってくると、ふとわいてきます。

自分のものは買えるのに、この子のはどうせ汚すのだからと買い渋り、どうせすぐ汚くなるのだからと洗濯も億劫おっくうになる。保育園の先生には「お母さんはいつもぱりっ

としているのに、Xちゃんはちょっとね。もう少し温かいものを着せてもらいなさい」と、何か遠回しに言われたときは、先生が憎らしく恨みました。恨む筋合いではないのは分かっていました。私のすべてを見透かされているような恥ずかしさを覚えませんでした。段々この子が私を苦しめている、この子は私の人生をめっちゃめっちゃにしたと思いつむようになり、自分の気分に合わせて体罰を加えるようになりました。今思うと、私は尋常ではありませんでした。でもその時は、そんな考え方ができなかったのです。男への恨み、憎しみ、自分自身への恨み、それが復讐ふくしゅうの思いとなって、すべて子供に向けられていったような気がします。

保育所から児童相談所に通報されて、子供はまた養護施設に連れ戻されました。私の子供に生まれたばかりに、この子も苦労ばかりする。それでも私はあまり心の底からこの子に悪いという思いがわいてきません。すべて成り行き、無責任な思いばかり、これが私です。

### 保育士の思い

Xちゃんは、乳児院から母親の元に引き取られるときに入所してきました。発達状況

はやや言葉が遅いという程度でした。母親はやや母親としても未熟な感じで、子供はいつも落ち着きがなく、安心感に満たされていないかのように、おどおどしていました。うまく遊べず、玩具の扱い方も幼さがありました。基本的な生活習慣は乳児院にいたせいか身につけていました。それでも時に私たちを不安にさせる何かがありました。いつも顔が汚く、食べた物がこびりついている。着ている物も洗濯されていない。いつ風呂に入ったのだろうと思うくらい汗臭い。一体どんな生活をしているのだろうと、家庭訪問もしてみましたが、どうも様子が分かりません。少し何か言うとな身構え、攻撃的になります。「ちゃんとやっています。保育所はそこまで口を出していいのですか」、過剰な反応に、こちらもやや感情的になりかけましたが、でも子供が第一、子供の安全は見守っていかなくてはと、全員一致で対応していくことにしました。その後、着替えの時に子供の背中、お尻に数カ所の痣あざを見つけ、これはと思い、児童相談所に通報しました。私たちが取った行動が正しかったか、間違っていたか、いろいろ悩む点もありますが、もし死亡事故にまで発展したら、母親も子供も救われません。今のうちにお母さんもちに余裕を持って、立ち直ってほしいと思います。でも、あまり期待できないような気がします。母親になる準備ができないまま母親になってしまった、大人に成り切れていな

い危なっかしさを感じています。

お母さん自身にも、もっと素直になって、子育てなどを学んで行ってほしいと思っています。

## コメント

産んですぐ手放した子供を引き取って育てても、なかなか自分の思い通りにはいかず、またそんな生活を心の底からは望んでいなかったため、かなりのストレスをためていったようです。かなり自分本位なお母さんで、もし保育所の対応が遅かったなら、もっと事態は深刻になっていたかもしれません。男をつなぎとめるための妊娠、何か身勝手さばかりが目につきます。肉の自分の欲望に突き動かされる自分ではなく、本当の自分へ帰る道筋を歩んでいってほしいと思います。

## ケース 6

この子供が邪魔だ。愛情、それが何だっていうんだ。僕はまだ二十歳にもなっていない。彼女も僕より年下だ。できてしまったから、その時はそれでいいと半ば押し切られ

るように結婚してしまった。親の家に居候して、僕はアルバイトをしながら、わずかなお金を稼いでいるけど、全く自由な時間、自由なお金がなくなった。こんなはずじゃなかった。彼女は彼女で息が詰まると、子供の世話もろくにしないで遊び呆ほうけている。僕たちのしたことは何だったんだ。親の反対を押し切って交際し、行き着くところまで行って、子供なんか欲しくないのに避妊もしなかったから妊娠して、おろす時期を失って産んでしまった。彼女はスタイルを気にして栄養も取らず、お酒も飲んでタバコも吸っていたから、子供の発育が悪くて未熟児みたいだった。普通以上に金もかかって、親には文句を言われるし、最低だよ。

子供はかわいいときもあるけど、おとなしくしているときと、寝ているときだけだな。泣いて、ぐずって、いつまでもギャーギャー喚わめいているときは、口に手を当てて黙らせたくなる。真っ赤な顔で身を震わせて泣く子はまるで怪獣みたいだ。俺の親は働いているから助けにはならない、家に置いてやっているだけでもありがたいと思えと、孫なら少しは面倒ぐらい見てくれないだろうに、ほったらかしだ。

俺の小さい時の記憶をたどってみても、親は金のことで喧嘩ばかりしていた。おふくろは親父をバカにしていた、金もろくに稼いでこないのに口だけは一人前だと。そのた

びに親父は飲んで暴れた。俺は恐怖で小さくなって暮らしていた。「親父のようになるな」というのが、おふくろの口癖だった。家が楽しいと思ったことはない。中学は不良グループに入って、かなりやばいこともしてきた。捕まらなかったのが不思議なくらいだ。クラスの奴をいじめて金を巻き上げた。でも何をしても虚しかった。親は俺が何をしようが無関心で気がつきもしなかった。小遣いで買えないようなものを持っていても何も言わなかった。何も関心も持たれず放任されているのは、ものすごく寂しくつらかった。勝手だけどやはり自分を見つめていてほしかった。だから、いつも心の中はすきま風が吹いているようだった。高校を中退して、遊び仲間だった彼女と良い仲間になって子供までできてしまい、今は自分の人生、自分で縛ってしまったあと後悔している。愛情なんて誰にもないさ、かわいいのは自分だけ。人間ってみんなそうだろ。自分のことしか考えない奴らばかりの集まりじゃないか。

もういい加減、何もかもいやだ……。子供が激しく泣いたとき、そばに誰もいなかった。思わず抱き上げて激しく揺さぶって壁にぶつけてしまった。口から泡を噴いた。しまったと思ったけれど、もう遅い。

## 医師の思い

慌てた様子で救急で運ばれてきたこの子の様子を見たとき、普通じゃないと思いました。まるで父親らしくない男が子供を抱き抱えていました。母親の姿はありませんでした。「あやそうと思つて揺さぶつた」と言つてましたが、そんな簡単にこんなふうにはなりません。確かに外傷は目立ちませんでしたが、ぶつけたような跡はあり、硬膜下の出血が見られました。そして激しく揺さぶられたような所見がありました。こんな子供を見るのはつらいです。今まで数件見てきました。大概、<sup>たいがい</sup>親に成り切れていない、自分の世話すらもままならない人間が、何だつて親なんかになるんだと怒りがわいてきます。このやろうと殴りつけてやりたい気持ちになります。子供が欲しくてもできない夫婦もあれば、生まれてきてもこんな目に遭つて短い人生を終えていくようなこともある。世の中狂っていると、こんな患者を診るたびに思います。

人の心が荒んできた。自分のことしか考えない人間が増えてきた。感情に任せて短絡的に行動を起こす人間が増えてきた。そして罪の意識は薄く、このまま死んでしまったら自分が罪になるから困る、そんなのが多いように感じています。一体どんな世の中になつてしまったのでしょうか。

私も完全な人間だとは思っていません。しかし、こういうふうが一番弱い人間に、自分の内面の弱さをぶつけていくような奴は許せないんです。

## コメント

子供が子供を産んでしまった悲惨な事件です。自分たちの快楽を迫及した結果、妊娠し、心の準備もないまま父親と母親になってしまった。育てていく義務も放棄し、勝手気ままな生活を送っていく。人間が人間を愛する、その基本さえ心の中に少しも芽生えてはいなかったのでしょうか。父親が育ててきた家庭も冷たい風が吹き荒れていたのでしょうか。同居する親は一体何を思っていたのでしょうか。まだ二十歳にも満たない子供の心をこのように追い込んでいったのでしょうか。その親の責任は重大なものだと思います。子供の犯罪、事件の裏には、必ず子供を育ててきた土壌があります。その土壌の連鎖が、今のよくな社会状況を作り上げているのではないのでしょうか。

## ケース7

夫がリストラされてから、我が家はまるで地獄のようになりました。あれだけ仕事に



も熱心で、情熱を持っていろいろ仕事のことも話してくれていた夫が、全く無口になりました。仕事を探しに行ってもこのご時勢です。早々希望のものが見つかるとは思えません。日にちが経つにつれ焦りが出てきたのか、人が変わったように、つまらないことで腹を立てたり、言葉遣いも荒々しくなってきました。私が知らなかった一面が次々と現れて、私自身とても不安な気持ちが高まってきました。三歳前の子供がいますが、この頃、自我の芽生えか言うことを聞かず、何にでも「いや」と言うことが多くなって、イライラさせられることが多くなりました。私でも時々カッとしますが、夫の今の精神状態には子供の甲高い声と、「いや」と言って反抗する子供がどう映るのか、時に手を上げるようになりました。子供に手を上げるなんて許せません。私が抗議すると怒り、「出ていけ」と怒鳴ります。夫の子供への暴力は私の心を傷つけました。こんな夫、ついていけない。私は家を出ることも考えましたが、今の状態の夫を見捨てることはできませんでした。でも夫の暴力が高じて子供に何かあったらと、不安が募る毎日で気持ちの安まる時がありません。

人間ってこんなに、もろいものでしょうか。確かにリストラをされたら人生の大きな危機ですが、でも、それに立ち向かっていく勇気が欲しいです。「何も一流の企業でなく

てもいい。高収入でなくてもいい。子供が大きくなったら私もまた働きに行けます。二人で力を合わせてやっていけばいいじゃないですか」と、いくらそう言っても夫は聞く耳を持ちません。「会社に裏切られた」と、そればかり言っています。

プライドが高く、それを崩すことができない。自分の評価がそこにあると思いついています。エリートと言われた人でしたが、逆に何の障害も不都合もなく、ストレートに人生を送ってきた人は、こんなもろさがあるのでしょうか。子供が泣きそうになると、私は慌てて口を押さええます。夫のイライラがこれ以上高くないために……。

## 夫の思い

私がミスをしたわけではない。ただ責任を取らされる形で私は職を失いました。それこそ何にもまして仕事第一と頑張ってきた結果がこれです。会社の取った対応を、私は許すことができません。本当に責任のあるものは、いまだに悠々と重職にあります。私は必ず見返してやろうと、新しい職を求めて必死になりましたが、今までのような職は見つからず、少しレベルを落とせば逆に学歴が邪魔をしました。三十も過ぎていればなかなか思うような職は見つかりません。妻は「ゆっくり探せばいい」と言いますが、そ

うもいかないでしょう。今まで胸を張って生きてきた人生が急転し、何か負け組みのような、そんな寂しさを覚えます。毎日、鬱々と暮らしていても、段々とイライラが高じてくるだけで、些細なことで腹が立つようになりました。なぜ自分がこのような目に遭わなければならぬのか、すっかり人間不信にもなりました。外へ出るのも背を丸め、人の目につかないように気をつける、段々とこんな自分がいやになってきました。元の職場の同僚や学生時代の友達が何を言ってるかと思うと、気が滅入って夜も眠れなくなる日も多くなりました。

子供に対して何であんなふうに当たってしまうのか。自分のストレスを妻には向けられなくて、弱い子供に向けてしまう。そして、そんな自分に腹が立ち、情けなくもなります。自分がこんな弱い人間だったのか、今まで何を誇りにして生きてきたのか、すべてが崩れ去る思いがしました。

心の底から何とも言えない激情がわいてきて、自分でも何をするか分からない状態になったとき、これは、やばい、自分は壊れかかっていると思いました。今、僕は一人で考えたい。一人になりたい。でも妻は離れようとしません。僕が自殺でもすると思ってるのでしょうか……。

## コメント

今まで順調に社会に出て活躍してきた男性が、裏切りとも言える行為で逆境に立たされたとき、その怒り、やるせなさ、憤懣ふんまんを、どのように解消していけばいいのか、ここでは子供に当り散らし、虐待ともいえる行為に及んでしまう。自分でもなぜそうなるのか分からず、苦しい日々を送っているのでしょうか。

でも、そんな時こそ自分を振り返るいいチャンスではないでしょうか。自分が何に価値を置き、日々どんな思いを出しながら生活してきたか。相手を責め裁き、憎む思いもわくでしょう。でも、その思いを放置しても何の展望も開けてはこないと思います。外に向けている目を自分の内に向け、しばし、じっくりと自分の心を見つめていく、それも大事ではないでしょうか。幸い良き伴侶もいます。共に力を合わせて、新たな一歩を踏み出すことが望まれます。

虐待の周辺のいろいろな声を聞いていただきました。虐待の原因は様々なようです。最近では、生活苦、また親の置かれている様々な環境、近隣に育児を相談できる親、友

人、先輩が存在しないなど、そして親自身の生育歴、親子関係や自分が受けてきた親からの虐待など、また思うようにいかない育児、理想と現実のギャップ、他の家庭との比較による自信喪失、夫婦の不和など、そして親自身感じている極度のストレス、また社会とのつながりも決して否定はできません。

虐待には、性的な虐待、身体的な虐待、ネグレクトと言われる養育の拒否や放置、たとえば食事、ミルクを与えない、学校に行かせない、不潔な衣服、風呂にも入れないなど、そして心理的虐待、たとえば暴言を吐く、おびえさせるなど恐怖を与えるような言葉の暴力、無視、そして子供の前での夫婦のいさかい、ドメスティック・バイオレンスなど、心理的にストレスを与える行動などがあります。

身体的虐待は子供の命に直結する問題であり、またネグレクトや心理的な虐待は子供の体の成長、人格形成、性格形成に多大な影響を与えます。

最近、虐待防止キャンペーンなどが行われ、虐待が疑われるような子供を見かけたら、すぐ通報をとというパンフレットなどが街中で配布されています。隣家の子供の泣き声、叫び声、外に夜遅くまで放り出されている子供、傷や痣あざが見られたり、落ち着きがなく、おどおどしている子供、親を怖がっている子供などを見かけたら通報をとというもので

す。確かにそれは大事なこともかもしれません。子供の命を守るために必要なことかもしれません。でも私には後手後手の対応に思われてなりません。それ以前に虐待に走る親たちへのケアや、虐待が生まれる土壌そのものへの真剣な取り組みが、必要ではないかと思うのです。

しかしながら、それは簡単なものではありません。長い間、人類が様々な想念をまき散らしながら歩んできた結果の一端が、虐待という形で現れているからです。以前は別にキャンペーンを張らずとも、近所の目があり、また互いに助け合うという習慣、風土もありました。今は隣の人は何する人ぞという無関心、無干渉の社会的現象もあります。人々の心に自分さえよければ他人は敵とまで言わずとも、競争相手、人よりよい暮らしを、よい収入を願うあまり、そうでない人はあぶれ、疎外感そがいかんや挫折感を味わう、そのストレスが弱者に向かう悪循環があるからです。

そして親に成り切れない未熟な人格の持ち主が、巷ちまたに溢れています。自分の周りを見渡しても、それで苦しんでいる人がいるかもしれません。

しかし人々は、それを時代のせいにしてきました。時代が移り変わり、人々の価値観も生活一般も変わってしまった。親に対する思いも、先生に対する思いも変わってし

まった。今の若い者は何を考えているのか分からない。そして、その親も常識がない。常識に欠ける人間が多くなってきた。確かに身近に、周囲にそう思われても仕方がない人々が存在することは否定できません。傍若無人ぼうじやくぶじんに迷惑も顧みず思いのままに行動する人々。自分個人の利益のみを追求するあまり、社会のルールも常識も、全く度外視してしまう人々。常識、ルールも人間が作り出してきたものですから、そこに完全ということはありませんが、少なくとも人に迷惑をかけることはできないでしょう。

どうして時代の移り変わり、環境の変化によって、こうも変わってきてしまったのでしょうか。

なぜなら、真実を知らないからです。生きている基盤が大きくずれてきているからです。

もう一度、自分を見つめてください。あなたは何のために生きていますか。あなたの人生の目的は何ですか。あなたが一番大切にしているものは何でしょうか。建前ではなくて本音をお聞きしたいのです。

あなたはお母さんが好きですか。

お母さんを思うとき、どんな思いがわいてきますか。  
あなたはお母さんの温もりを感じていますか。

お母さんの温もりを感じることなく、子育てができるでしょうか。本当の子育ては、母親の温もりを子供に伝えていくことではないでしょうか。

今の社会は母親の温もりを忘れ去ってしまった社会だと言えます。

人々が大事にしているものは、お金、名誉、地位、それを得るためにどれほど心を汚し続けてきたでしょうか。どれほどの思いを出し、闇のエネルギーをまき散らしてきたことでしょうか。それを置き去りにし、いかに小手先で表に現れている現象だけをうんぬんしても、事態は少しも変わらず、逆に他を責める、責任転嫁せきにんてんかをするエネルギーがさらに事態を悪化させ、複雑にしていくのではないのでしょうか。

虐待をしてしまったり、ひょっとしたら自分のしていることは虐待かなと思っているお父さん、お母さんに、ぜひお伝えしたいのです。自分の内面に目を向けてください。



自分の外に目を向けて、親を恨んだり、周りをねたんだり、憎んだりしてきた人生だったかもしれない。社会を否定してきた人生だったかもしれない。でも、それは本当のあなたではありません。その心があなたにあることを教えてくれた環境ではなかったでしょうか。あなたが生まれ変わるチャンスをくれた環境ではなかったでしょうか。

なぜ自分は子供にすぐ手を上げてしまうのか、子供をかわいとは思えず邪魔者のように扱ってしまうのか、子供の世話を放棄し、要求をも無視してしまう心境なのか、なぜ子供に対して脅したり、恐れさせる言動を取ってしまうのか、子供をどうしても受け入れられず拒否してしまうのか、自分の思い通りにならないと、なぜその矛先を子供に向けてしまうのか、自分の心に問いかけていってほしいのです。

子供に責任はあるでしょうか。すべてがあなたの心に存在する思いの現象化ではないでしょうか。そして苦しんでいるのは、あなた自身ではないのでしょうか。

自分の心の中をのぞいていったとき、寂しい、悲しい、悔しい、恨めしい思いが浮き上がってこないでしょうか。自分の要求ばかりを主張し、自分の立場を守る思いだけが浮き上がってこないでしょうか。

自分は愛されてこなかった、今でも誰にも愛されていない、その心を抱え続けている人

生だったのではないでしょうか。

一人ひとりが本当に大切な存在です。そして自分自身を愛している本当の自分がいることに気付いて行ってほしいのです。自分を大切にしていってほしいのです。自分を大切にとは、自分の心の中にあるいろいろな思いに気づき、間違ってきたことを認め、そんな自分を許していくということだと思います。自分を愛することができないで、人を愛することも、幸せにすることもできないのではないのでしょうか。

本当の自分を知り、自分を愛している人から流れる波動がすべてを変えていきます。子育ても教育も、そして本来は政治も、そんな方にしていただきたいと日頃思っています。……。

虐待をしてしまう自分を責めるのではなく、嘆くのではなく、自分は何のために生まれてきたのかを、自分の心に問いかけていきませんか。きっと自分の心で気付いていかれることが多々あると思います。初めて子供を胸に抱いたとき、あなたの心で感じた喜びは本物です。そして、きっと憶えているはずです、あなたがお母さんの胸で安心し

切ってすべてを委ねて眠っていた日々を……。その温もり、優しさを、あなたの心はきっと感じてきたはずです。その温もり、優しさがあなた自身です。

そんな自分を信じられませんか。もうダメだと自分を見捨てずに、本  
当の自分に出会っていく旅を始めていきませんか。

自分を許し、自分を愛する、きっとあなたはできるはずです。

### 母親の温もりからのメッセージ

出会うべくして出会った親子、決して偶然ではないのです。その親子の関係をはぐくむ中で、様々な心の葛藤、苦悩があったことと思います。虐待をしてしまった事実はありません。失われた命は二度と戻ってはきません。でも自分が出した思い、凄まじいエネルギーは心を見ていくことで、変えていくことができます。命がけで心を見ていってください。自分を救う手立てはそれしかありません。心を見ず、このあとの人生を送っても、また同じことが繰り返されるだけではないでしょうか。子供が自分の命をかけてあなたに伝えたかった思いに気付いて、素直に受け止めてください。あなたの心の中の意識すべてが、それを待っています。

# 学級崩壊

ここ十数年の間に、学級崩壊という言葉が新聞、テレビなどのマスコミで取り上げられるようになりました。現在は少しは下火になったのでしょうか、いじめや、いじめによる自殺の報道が目立つようになり、やや報道も下火になっています。しかし教員のうつ病や自殺、休職者や退職者の増加の現状を知るたびに、底にこの問題が隠されている印象を受けます。学級崩壊もいじめと同様、その学校の評価を下げるという理由で、表面化がなかなかされない状況なのかもしれません。現在、小、中、高校の子供を持つ親にとっては深刻な問題であり、そして、その中で学んでいる生徒たちにとっても、忘れられない記憶として心に大きな傷を残していくでしょう。

今、年配の方々には、学級崩壊と言ってもピンとこない方もいるでしょう。

団塊の時代は、小学校一クラス五十人を超える生徒がいても、今のような学級崩壊は認められませんでした。それだけ先生の権威があり、生徒は先生の言うことを聞いて当たり前でした。いろいろな個性の子供がいて、落ち着きのない子、やんちゃな子、乱暴な子、いたずらっ子はいいても、学習が成立しないような事態はありませんでした。しかし今は、四十人にも満たないクラスでも、まるで無法地帯のような崩壊が起こっています。数人が教室で暴れる。先生を無視する。他の子の学習を妨害する。授業中でも教室

を飛び出して帰ってこない。注意されても凄んで暴言を吐く。逆ギレして教師に暴力を振るう。教師は自分のクラス運営に自信をなくし、また上司には叱責され、能力、適正に欠けると判断され、どんどんストレスがたまっていきます。学期途中で担任を辞める、いえ、辞めさせられる教師も多い状況です。初めは数人で始まった騒動も、次第に連鎖し、それに参加しない子供がいじめに遭ったり、クラスのはみ出し者になったりすることもあり、クラス全体の、そして他のクラスも巻き込んだの崩壊につながっていく事態も見られます。

学校はどんな対応をしてきたのか、また保護者はどんな対応をしてきたのか、見えてこないのです。

そして、やはり互いに責任をなすりつける風潮が見え隠れするのです。

学級崩壊の中にある、子供、教師、保護者の思いを聞いていきたいと思えます。

## ケース 1

何もかも僕の思い通りにはならないから、むしゃくしゃするからクラスでは暴れて

やった。新任の先生が来たとき、どうも相性が悪い感じがした。甲高い声で、早口で、ちよつとしたことでもすぐ叱る。あれが女かと思うくらい中性的だった。優しさなんて微塵みじんもなく、とげとげしていた。普通に話せないのか。穏やかに話せないのか。何か言うときとパーンと跳ね返ってくる。それも皮肉やとげを含んで返ってくる。あれは性格か。

おふくろが同じだ。いつもキイキイとうるさい。何か言うとき人の弱点ばかり探している。褒められた記憶がない。もう何を話しても虚しいから、最近は何もしゃべらず黙っている。黙れば黙ったで、何か悪いことでもしているんじゃないのと疑いの目を向けてくる。うるさい、死ね。

学校じゃ、僕が暴れる前にキレた奴がいた。先生を小突こづいた。先生が騒いだから、さらに逆上して顔をぶん殴った。歯が折れたみたいで口から血を出していた。僕らを睨にらみつけると、足早に教室を出ていった。校長が慌てて飛んできた。「誰だ、殴った奴は」。だけど誰も殴った奴をチクらなかつた、みんなあの先生には反感を持っていたから。二、三日して先生は学校に来たけど、僕らのクラスには復帰してこなかった。僕らのクラスには男の先生が担任になった。ものすごく怖い先生で、脅すばかりじゃなく、体罰

をした。「自分は体罰をする。だけど感情に任せてはしない。体罰を受けたら、それ相  
当のことをしたと反省しろ」と言った。

確かに体罰は、誰が見てもあれは仕方がないというときくらいしかなかった。それも段々減ってきた。僕らのクラスは騒がなくなった。だけど、もし担任が変わったらまた同じことが起こるかもしれない、だって、みんなの気持ちは変わっていないから。何かみんな不満を持っている。教師というものが信用できない。学校がいや。勉強がいや。教室に縛りつけられて、ちっとも分からない授業を受ける。大抵、勉強についていけない奴が憂さを晴らすために騒ぎ出すんだ。誰が悪い、彼が悪いなんて言えないよ。もっと楽しい授業ならいいのに、学校が楽しい場所ならいいのに……。

### 教師の思い

今、私は担任を外されました。あまりにも衝撃が大きかったし、精神的にも立ち直れないくらいダメージを受けました。

いつもはおとなしい子供が、「また宿題さぼって」という一言で人が変わったみたいに、突然、私を小突きました。びっくりして声を上げたら、今度はこぶしで顔を殴ら



れました。もう何があったのかも分からず教室を飛び出しましたが、あれは敵に背を向けた行為だったのでしょうか。校長に訴えましたが、「しばらく、ほとぼりが冷めるまで教室には出ないほうがいい」と言われました。以前から、このクラスは何かざわざわしていました。私は精一杯虚勢を張って、子供たちにバカにされないように、なるべく強く、女々しい態度は取らずに男勝りでやってきました。でも私がこのクラスを収めようとすればするほど、バラバラなクラスになりました。みんながてんでバラバラで好き勝手をしているし、授業をさぼる者、勝手にプイと教室を出ていく者、私語はもう当たり前で、私の声がかき消されるほどでした。だけど暴力を振るわれたのは、あの時が初めてでした。今まで積もりに積もっていた不満が堰を切ったようになり、私は荒れまわした。生徒たちなんて、私はもう責任も何も持たない、好きにすればいい。将来困るのはあんたたちだ。子供に対して憎しみさえわきました。

校長も何の対策も取れない、教育委員会も同じです。毎日現場にいる者が一番苦しみ傷ついているのに、上ではのんきなことばかり言っている。現状をいかに知らないか、もう少し現状を知ってほしいと思います。今は教員同志も、あまり話し合わなくなりました。忙し過ぎて、じつくりと本当の問題点について腹を割って話すということが

なくなってきたのです。自分に矛先が来ないように、また面倒なことに巻き込まれたくないという態度がありあります。教師同志が互いに牽制し合うけんせいというのか、あのクラスで、たとえばいじめがあるとか、崩壊の兆しが見えるとか、そういうことが同じ学校の中でも秘密にされます。なるべく隠したいというのが本音なのです。すぐ教師としての力量とか適正とかの問題になり、その次には再教育という現場が待っています。「教師なんてやってられない」と、はっきり言う教師もいます。親を呼び出すという手もありますが、それで問題が解決したという話はあまり聞きません。

親自身、子供を全く見ていない、気持ちの上で子供を見放している親が多過ぎます。子供を叱れない親が多過ぎます。個性を尊重するとか、厳しく押さえ込まない教育をしているとか、怒ったことがないというのが自慢の親もいました。何を考えているのでしょうか。そして自分ではしつけないで、何か事が起こるとすぐ教師のせいにして責任を取れというのは、大抵こんな親です。

一体、いつからこんな状況になったのでしょうか。今の子供の親たち、その親を育てた親の時代から、少しずつ少しずつ何かが変わってきたのでしょうか。昔の映画などを見てみると、まるで親に対して言葉遣いから違えますよね。親を尊敬し、目上の者を尊

敬した時代は、もう終わりを告げたのでしょうか。

愚痴<sup>ぐち</sup>を言っても始まりませんが、でも今、子供に起こっている様々な問題は簡単には解決できないし、展望もない気がします。いつまでも、どこに責任があるかなんて考えていても始まりません。みんなが協力し、一つの目標を定めて少しずつやっていくべきではないでしょうか。

でも私はもう疲れしました。しばらく休職して、今後のことを考えていこうと思います。

## コメント

母親との関係がよくない少年、イライラを学校で発散しています。他にも同じような子供がいて、クラスは騒然としているようです。担任の学校や親への不満も積もり積もっているようです。担任が変われば、確かにクラスの状態は落ち着くかもしれませんが、でも子供の心の中のためにため込んだエネルギーは、どこに向かうのでしょうか。そちらの対応が必要でしょうか。

## ケース 2

こんな学校、燃やしたろうか。全部が消えてなくなればいい。僕は自分自身さえも破壊したい。こんな僕が生きてていいのか。いつも母から言われていた言葉、決して忘れることができない、「お前のような子は、私の子供ではない」。僕が何かをしくじるたびに、成績が下がるたびに、物を壊したそんな些細な<sup>ちがひ</sup>ことさえにも、いつも僕を拒否し続けた。「私の子供ではない」、その言葉がどんなに小さい胸をえぐるか、考えたことがあるか。親に見放されたら、もう行く所がない。追い詰められて心が小さく縮んだ。悲しい、悔しい。母からも相手にしてもらえない。愛されていない。不安が僕を凶暴にさせる。家の壁もドアも打ち破って、家の中はポロポロ。母はまるで僕を怖い者を見るように遠ざかっていった。もう小言は言わない、文句も言わない、言ったらキレて見せるから。

母は父とうまく行かずに離婚した。いつも父の悪口を言う。「あの人は人間のくずだ」と言う。自分が選んだ男じゃないか、何を言ってるんだよ。そして憎らしそうに「あなたによく似ている」と言う。傷に塩を塗るように僕を痛めつける。あんなのは親じゃない。

学校は僕にとっては退屈な場所。先生も一人ひとりのことは見ていない。陰で何をやるうが見て見ぬふりをする。タバコを吸おうが、教室でいじめをしようが、知らぬ顔をする。本当はこっちを見てほしいんだ。何かを言ってほしい。たとえ叱られても、怒鳴られても、一発食らっても、自分の存在を確かめられたらいい。でも、そんな希望も打ち砕かれる。クラスメートもこんな僕を受け入れてはくれない。

今、こんな僕が生きてていいのか、そればかり思ってしまう。先生が何かぐちゃぐちゃ言っている。うるさい、母親みたいに口うるさい。僕のことを受け入れる気なんてさらさらなくせに、正論ばかり言っている。裏の心が分かるから聞いているだけで苦しくなる。ますます信用できない。思わず足を払いのけてやった。先生はひっくり返った。ざまあみろ。一瞬勝ち誇った気分になったけど、あとで無性に虚しくなった。自分が生きていく場所を自分でどんどん縮めていく。息苦しい、とても息苦しい……。

### 教師の思い

この子はいつても暗い目をしていました。何も寄せつけない目をしていました。家庭に事情があるのは薄々感じていましたが、親は懇談会には来たことがない。学校への呼び

出しにも、いつも何かかんか理由をつけて来たことがありませんでした。校長に言って家庭訪問をしましたが、留守のようでした。家の中は気配があるのに、この子が出てきて「親はいない」と言いました。かなり荒れた状態、家の中が冷え冷えとしていました。この子はすぐキレる、何を考えているのか分からないと、クラスのみんなも少し警戒しているところがあります。うちのクラスはこの子が騒がない限り平穏ですが、他に四、五名同調してしまいう子供いるので要注意です。

私は今まで何事も見えないようにというか、見ても少し距離を置いてこの子を観察してきました。どんな育ち方をし、どんな性格か、どんな特性を持ってるか、でも今までのケースや研究資料を見ても、こんな子は理解できないところがあります。大人びたところがあるかと思えば、やたらに子供っぽい、とてもアンバランスな成長の仕方というのでしょうか。もう一度赤ん坊に戻って、最初からやり直したほうがいいのではと思うほど、こらえ性もないし、我慢もできない、根気がない、思いやりがない、譲るといふことがない、人の気持ちを推し測れない、理解できない。ああ、でも今の子にそんなことを期待しても所詮無理なんでしょうか。私がいじめを目撃したとき、「少しは人の気持ちも考えなさい」と言ったことがしゃくに障ったのか、「ごちゃごちゃ言うな」と足払

いをされて、ひっくり返ってしまいました。そんなことで負ける私じゃありません。

あとで思いました。人の気持ちを考えなさいと言いましたが、この子がいつも希望していたことなんですよね。僕の気持ちを分かってほしい、僕のことを理解してほしいって……。きっとこの子は私にも裏切られた、先生はあの子の味方だって、寂しかったんでしょ。しばらく様子を見ていきます。私は教師だから母親にはなれないけれど、きっとこの子の心は叫び声を上げているでしょう。それを少しでも受け止めていきたいと思えます。こんな子にごまかしは利きません。口先だけの優しさや、親切、愛情なんて通用しません。体当たりで頑張っていくしかないんです。

### 母親の思い

私が悪いのでしょうか。この子の言葉には、ほとんど耳を傾けてきませんでした。離婚したとき、どちらが親権を取るかでもめました。私はこの子への愛情もありましたが、でも夫には絶対渡したくないという意地がありました。私をないがしろにして家庭も顧みなかった夫に、何で子供を渡せますか。慰謝料も養育費もいらないと突っぱねました。生活に不安がなかったわけではありませんが、子供と二人食べていくくらい何とで

もなると思ったんです。でも、いざ離婚してみると、聞いていたのと実際とは大きな差がありました。まだまだ偏見があって、世間の風当たりは相当冷たかった。子供と二人だからといって甘えは許されません。逆に人一倍頑張って一人前と見なされるんです。なりふり構わず働きました。自分のことで精一杯で、とてもゆっくりと子供の話を聞いてやることもできない。何か言うと「それで何なの」と経過を聞かず、すぐ結論を言わそうとする。まどろっこしいと、すぐイライラしてきて子供にも当り散らしました。何のために子供を引き取ったのか、段々、私自身悩むようになってきました。

間違っていたのではないだろうか。こんな生活がいつまでも続くわけがない。限界だ。体力的にも、気力も充実していなければ、仕事も子育てもできない。意地で子供を引き取ったことを後悔し始めました。子供はとても敏感で、自分はどこにいても邪魔者だと思いつくようになりました。私はこの子には真っすぐに育ってほしかった。だから叱咤しつたげ激励するつもりで、何かあると「そんな子は、私の子ではない」と、よく言いました。それがこの子を傷つけていたなんて思いもありませんでした。もっとひどいことを言ってきたかもしれせん。

私に暴力を振るう代わりに、この子は腹が立つとドアを蹴け飛ばしたり、椅子を壁にぶ



つけたりしました。何もないときでも自分の気持ちやいらだちを表していたのか、いつの間にか暴れた跡が増えていた状態でした。

私はこの子が何をしても強く叱ることができなかった。いつも心のどこかに、この子に対する負い目があったのかもしれない。勢いに任せて夫を許せず離婚してしまったことが、果たして、この子によかったのだろうか。私が忙しく、気持ちも荒んだ中でこの子を育てていることが、どれほどこの子に影響しているか。

学校から呼び出しがあると、ドキッとします。でも勇気がないんです。あなたは母親として落第だと言われているようで、学校には足が向きません。おまけに時間もありませんし。一度、別れた夫に会って、子供のことを相談してみようかとも思ったことありませんが、できませんでした。今さら泣き言を言っても始まらないし、プライドも許しません。こんな時になっても、私は子供のことより自分のことを優先するんです。やっぱり母親失格かもしれない。我が子というより、今ではこの子が何をしでかすか、とても手に負えない恐ろしい存在のように思ってしまうんです。

## コメント

心の闇を、学校で教師に反抗したり、タバコを吸ったりすることで表している寂しい心を抱えた少年です。家庭での母親との軋轢あつれきもあるようで、この子を包み込む優しさが見受けられません。父親とも離別し、母親は生活を支えることで精一杯で、この子の様子まで目が行き届かない状態です。少年には愛されているという実感がないのでしょうか。また母親もこの子を引き取ったことを半ば後悔している。それが子供に伝わらないはずがありません。見放された、捨てられたという思いが、どんな状況を生み出しているか、母親はもう少し考慮してほしいと思います。

## ケース 3

先生、頑張ってるよ。先生は悪くないよ。そう思っている子もいっぱいいるから学校辞めないで。私のクラスの女の先生は優しい、ヒステリイでもないし、えこひいきもしない。勉強の分らない子には残って教えてくれる。私は分かっているけど、先生と一緒に楽しく残ることが多かった。何も知らない親から文句が来た。「できない子を居残りさせて勉強させてる、やり過ぎじゃないか」と言う。「違う」といくら言っても聞

いてもらえなかった。なぜ大人はそう決めつけるの。人の話しもちゃんと聞かないで勝手に自分で思い込んでいる。先生が責められて、ちゃんと説明してるのに、「このご時勢に、下校時間が遅くなると危ない」と言う。先生は「配慮が足りませんでした」と謝っていた。

先生がかわいそうだった。気の毒だった。今まで勉強を見てもらっていた子も何も言わない。そんなのありなの、ずるいよ、卑怯ひきょうだよ、一緒に楽しんでやっていたのに。

先生はそれから変わってしまった。ただ淡々と授業をしている。冗談も言わなくなった。「分かるかな、分からない人、手をあげて」、それが口癖だったのに、それも言わなくなった。教室の雰囲気が変わってきた。口をつぐんで先生をかばわなかった生徒たちがターゲットになった。教室でいやがらせを受けるようになった。勉強の邪魔をした。

「勉強できない、邪魔しないで」と文句を言えば、「もともとできないくせに、大きな口をたたくな」と、ノートや教科書も窓から捨ててやった。これはいじめではないと自分に言い聞かせた。いやがらせをするほうと、いやがらせを受けるほうと、クラスは二つに分かれてしまった。先生の前では絶対しなかった。私たちは大人に負けたと、どちらのグループも思っていたに違いない。本当に悪いのは大人だと知りながら互いに罵り

合った。また父兄が出てきて、先生にはクラスの統率能力がないと騒ぎ始めた。資質に欠けると言い始めた。いい加減にしてほしい。

先生はしばらく担任を外れることになった。先生の挨拶の時、みんな泣いた。悔しくて悲しくて泣いた。

この気持ちをどこにぶつけなければいいの、どこに……。大人を絶対信用しない。あとで聞いた、先生をチクったのは勉強を教わっていた子の親じゃなかった。できる子の親だった。できない子など相手にしないで、そのエネルギーをもっと有効に使いなさいと言ったらしい。すごい、そんな発想どこから来るんだ……。自分の子供だけをしっかり見てほしいということだろうか……。

私たちが先生を追い詰めてしまった。後味がとても悪かった。

### 教師の思い

私は子供と一緒に勉強したり、遊ぶことが好きでした。子供の笑顔は私に元気をくれました。でも何かが空回りしてしまったのかもしれない。善かれと思ってしましたが、配慮が足りないということとんざで頓挫してしまいました。学力がすべてではありません

ん。私は授業についていけない子供に勉強を教えるというよりも、家に帰っても親がいなくて寂しい思いをしているなという子供と、少しでも一緒にいて話し相手になってあげたかったんです。だから結構放課後残って一緒に勉強したり、話をしていく子供がいました。同僚でもそこまでしなくてもとか、他の教師にもそれを求められるからやめてくれと言う人もいました。今回のことで、つくづく難しいものだと思います。教師の世界にも、本当に子供のことを考えるというより、自分の都合や利害関係に走る人もいれば、また足の引っ張り合いもある。教師になるまでは予想もなかったことでした。

教室に不穏な空気が生まれたのは、私にも責任があることです。まさかそんな対立があるということ、私は知りませんでした。管理能力がない、甘いと言われれば、確かにそうです。子供は大人が考えている以上に大人を見ています。シビアに、そして真っすぐな目で見ています。私は子供の信頼を裏切るようなことだけはしたくない、今もそう思っています。このまま私がこのクラスを受け持っていては、今の状態がさらに悪化して、崩壊が進んでいくでしょう。言いたいことはたくさんありますが、私が言って改善されていくことはほとんどないでしょう。学校は体制を守ろうとするし、教師も親も共に協力していくという姿勢がありません。教師は親の言うことはどんな理不尽なこと

でも聞いてしまう。なぜというくらい教師の立場が弱いのです。親は学校に圧力をかけ、教師が動けないようにしておいて、何かの時には責任を追及します。学校に様々な文句を言ってくる前に、もっと自分の子供に目を向けてほしいと思います。

自分の子供が何を考え、何を求めているのか、何を訴えているのか。子供がSOSを出しても受け止められない親が増えているというのは、子供を常日頃見ていないということではないでしょうか。

少々今は疲れています、この機会を自分の充電期間と受け止めて、またどこかで教師を続けたいと思っています。

### コメント

親のエゴが一人の教師をつぶし、子供の世界にまで影響を及ぼしています。自分の子供のために善かれと思ってやったことでしようが、あまりにも利己的と感じませんか。でも、このような親が増えていると聞いています。まず学力、成績と考えるその思いが子供の心を傷つけ、大人への信用を失わせていく。何が本当に大切なことか、もう一度、すべての人が考えていく時期が来ているのではないのでしょうか。

#### ケース 4

先生が辞めていった。このクラスは半年前から大変だった。授業にならないくらい、みんなが騒いだ。初めは一人、そして二人と、次第にその数は多くなって、とうとう半分くらいの人が騒いだり、授業中に飲み食いしたり、音楽を聴くようになったりした。おしゃべりで先生の声は全くといっていいほど聞こえなかった。先生はおとなしい。私はもっと叱ればいいのと思った。でも親には教室の状態を言わなかった、きっと学校に行くと思ったから。私は先生が嫌いではない、特に好きでもないけど、嘘は言わないし、根は良い人のように思えたから。

騒いでいる連中は、先生がどうのこうのというより騒ぐことに興味があるらしい。じっと落ち着いて勉強するのが苦痛のようだ。だったら、おとなしく寝ていたらいいじゃないか。私たちの邪魔などせずに寝ていたらいい。だけど、そんなこと言えない。そのうちに先生にちょっとかいを出すようになった。先生の持ち物を隠したり、机の上にノード写真を置いたり、黒板消しをいつも濡らしておいたり、様々な方法で先生を困らせた。教壇の下に水をまき、先生が滑るのを見て面白がって笑った。しばらく立ち上が

れないほど腰を打ってしまった。なぜそんなことをするのだろう。自分がされたらどんな思いをするか、私には理解できない。あの連中のすることが理解できない。

私はもうこれ以上隠しておけなくて親に言った。しばらく考えていた。まさか自分の子供のクラスが、そんなことになっているとは思わなかったのだろう。新聞の記事の上のことだと思っていたらしい。誇張して書かれているんだろうと思っていたらしい。母は担任に確かめたけれど、先生は校長には言わないでほしい、事を公に大きくしないでほしいと言ったらしい。

なぜ……先生はそれでいいの。私には分からない。大人のことは分からない。でも何か分からないけど、私は先生に失望した。自分が思い切ったことが無になったからだろうか、それもあるかもしれない。でも私は先生が他の大人と一緒に思えた。都合の悪いことは隠しておこうとする大人に思えた。教室をよくしようとか、勉強したい人の望む教室にしようとか、そんな思いはないのだろうか。学校がいやになった。気がついたら私も授業中、後ろの人とおしゃべりするようになっていた。先生が学校を休んだ。初めは風邪だと言っていたけど、そうじゃなくてうつ病になったらしい。親たちがうわさしていた。誰にも相談できなかったのかしらと、いろんなうわさが飛んだけど、



でも私は自分を追い込んでいったのは先生だと思っている。能力が不足していたのよと言う人もいるらしい。だけど、そんなことを言うだけで片づけていいのだろうか。

先生、何でもっと勇氣を持たなかったの。何で悪いことは悪いと言えなかったの。私たちは本当はそれを期待していたのかもしれない。いつも誰かが叱ってくれるのを、本気で怒ってくれるのを待っているのかもしれない。

友達の親は、子供のことはほとんど口を出さないらしい。家にもあまりいないそうだ。ちょっと羨ましいなと思うこともあるけど、それが毎日だったら寂しいだろうな。話すこともないけど、話したくても話す時間もないという。うちは帰った途端、いろいろ聞いてくる。「今日はどうだった。何かなかったか。給食はおいしかったか」。いちいちそれもうるさいけど、でも聞かれないより、聞いてくれる人がいないより、よっぽどましだと思うようになった。

### 教師の思い

私はうつ病になったということになっていろいろらしいです。でも、もうそんなことどうでもいいんです。確かに夜眠れない。心臓がドキドキする。息切れがする。めまいも起

きる。更年期でもないのに、まるで更年期のように、体のあちこちがガタガタになりました。精神的な疲れが体をこんなにしてしまふんですね。私の教室が授業もできないくらい騒がしく、収拾がつかなくなったのは半年前くらいでしょうか。ある男の子の両親が離婚をしました。かなりもめたあと、結局は離婚になり、母親が出ていきました。父親とこの子と祖母が残りました。嫁姑の葛藤も相当あったらしいのですが、詳しいことは聞いていません。それ以来、この子は学校に来てても元気がなく、突然何も言わずに教室を飛び出し、またすぐ帰ってくるということが時々起こりました。後ろの子にちょっかいを出しては邪魔をする。質問の答えを言ってる子には罵声ばせいを浴びせる。私に対しても様々なことをしてきました。でも環境が変わってしまつて寂しいんだろう、母親がいなくなった寂しさは相当なものだろうと、叱らなかつたんです。

それが今思えば、間違いだつたように思います。あの子は、誰にでもいいから構ってほしかつたんだろうと思います。心の荒ればかりではなく寂しさを訴えていたのに、受け止めることができなかつた。失望したと思います。誰にも相手にしてもらえない寂しさを、あんな形でしか表現できない、そんな子がクラスにはたくさんいたのだと思います。

私は子供たちを責める思いはありません。ただ、もう少し私にも配慮する能力とか度量があったなら、こんな状態にはなっていないかと思うと残念です。今は体調も悪く、気力も少々薄れているので、学校の勧めもあって休職願いを出しました。子供たちを途中で放り投げてしまったようで心が痛みます。

## コメント

子供の素朴な疑問、大人への不信が伝わってきます。同時に教師の苦悩も伝わってきます。教師は熱心に教育にも取り組み、一人ひとりの子供の心も大切にしているようですが、一人で解決しようとする、無理があったのではないのでしょうか。

## ケース 5

私は小学校の時、学校で騒いだ張本人です。先生に「むかつく」と言って散々抵抗し、乱暴までしました。むかついたのは先生に対してというより、大人全部に、特に身の周りにいる大人たちが嫌いだったからです。みんな自分勝手に身勝手だった。嘘はつく、ごまかす、表と裏では随分違う、そんなことをたくさん見てきたからです。母は洋品店

をやっていました。母は服を売ろうとして、全然似合いもしない服を「奥さんにピッタリ、奥さんのためにあるような服ですよ。ぜひ買ってください」と、よく勧めていました。お客が帰ったあとで、「あんな色似合うと思ってるのかしら、自分の顔をよく見ながら買えばいいのに、本当に派手好きなんだから」と、陰口を言うのを聞くのは、母とはいえ虫唾むしずが走りました。掘り出し物と言いなから粗悪品というか、特売用に作った品を売る。そんなことは当たり前でした。お客も、だいぶ前に買った品物を、「昨日買ったけど破れていた」と交換に来る。大人ってずるい、汚いと思いました。母は「仕事が忙しい」と言いなから、夜遅く帰ってくるようになりました。お酒の匂いをプンプンさせて、だらしな性格好をして……。私のことにはほとんど関心を示しませんでした。「あなたを養うために苦勞して働いている。ちゃんとしてあげてるでしょ」と言うのが口癖でした。お金さえ渡せばそれでいいと思ってる。欲しいものを与えれば、それでいいと思ってる。私はそんなこと望んでいない。私が欲しいのは、私のことを思ってくれる母です。いつも寂しい思いを抱えていました。どこにぶつけていいのかわからない怒りを抱えていました。だから自分の心の中に何か真っ黒な塊があるような、そんな気がしていました。

先生の一言、一言が私の心をえぐりました。私の身体的特徴を言ったり、家の商売のことを言ったり、「もう少し、しゃんとした格好をしろ」と言われたとき、思わず先生を突き飛ばしていました。騒ぎ始めたのは私だったけど、すぐ同調する仲間がいっぱい現れました。みんな退屈していた。授業にもついていけず、このままぼーっと生活を続けていくのがいやだったのだと思います。そして、やっぱり私と同様、何かはつきりしないけど、大きな不安と不満を抱えていたのだと思います。

男子は乱暴です。教室の机を蹴飛ばしたり、椅子を放り投げていた子もいました。でも私にはそれが楽しそうには見えませんでした。かえって苦しそうに見えました。家での不満、学校への不満、そして一番が自分自身に対しての不満だったと思います。そうやって何かを訴えていた。

私も、先生の言うことは無視する、教室は勝手に出ていく、おしゃべりで授業の妨害をする、勉強しようとする人をいたぶる、今考えると相当無茶をしました。あの当時は心の中に嵐が吹き荒れていた、それを自分でもどうしようもできなかつたんです。担任の先生じゃなく、誰かが一言声をかけてくれていたら、もっと早く収まっていたかもしれませぬ。みんな心に寂しさを抱えています。学校に多くを求めているのかもしれない。

ん。それは間違いかもかもしれませんが、どこに求めても満たされない愛情を探し続けているのではないのでしょうか。

でも、ある時ふっと自分を大切にしなければと思いました。別に説教されたわけではありません。自分でただそう思ったんです。こんなことをしている自分がかわいそうに思ったんです。

### 母親の思い

娘が学級崩壊にかかわっていたことを長く知りませんでした。ニュースで学級崩壊のことを見たときに、ふと「恐ろしいわね」と言ったときに、「何言ってるの、私が小学校の時は、私とその張本人だった」と言われ、信じられませんでした。家では無口で、何を考えているかさっぱり分からない娘でしたが、確かに荒れていた。私に対してよく口汚くののしっていたことを思い出しました。でも、それを親子の間だからと甘く考え、見過ごしていたのです。きつく叱れば、きつともっと反抗してくるだろうと恐れていました。私は放任主義でした。そうしようと思っただけではなく、自分のこと

で精一杯で、娘のことをあれこれ考える余裕がなかった。心は金儲けと自分の男のことでいっぱいでした。娘に何か言えば、娘から反撃されることをしているという負い目がありました。母親失格ですね。

でも今、娘は何かあったのか知りませんが落ち着いてくれます。私も、もう少し娘に目を向けていきたいと思っています。少しずつ学校のこと話してくれるようになります。この頃思います。娘を育てていると大きなことを言いましたが、私が娘に教えられることも多いような気がするのです。娘に対して虚勢を張ることも必要なかったです、頑張り過ぎることもなかった、娘に対しても正直に自分を表していけばよかった、そのほうが楽でした。どんなに取り繕っても、嘘はばれることも知りました。私の心など、とうに見抜いていました。私の汚い姿を見ても、私がそれを隠そうとするから傷ついていた娘の心を知りました。よく娘に言われました「嘘つき、偽善者」と。

本当にそうでした。どれだけ身勝手だったか、娘をどれだけ傷つけていたか、今になって、やっと見えてきました。

## コメント

学級崩壊に加わっていた子供ですが、ある時、その虚しさに気付いたときから生活が変わりました。それは説教されたのでも、注意されたのでもなく、自分の心の中から何か促しがあったのではないのでしょうか。母親の愛情が感じられず、寂しい思いを学校で発散させていたのでしょうか。でも同じように騒ぐ子供に自分の心を映し、その心を見つめていったときに、何かこのままでは自分がダメになる、かわいそうだという思いが沸き上がってきたのでしょうか。人間には必ず気付けるチャンスがあります。それに目をつぶるか、素直になれるか、それが分かれ道だったように感じます。

信じるということ、子供のその力を信じていくということが、親にも教師にも必要ではないのでしょうか。

学級崩壊の周辺の声聞いていただきました。どのような感想を持たれたのでしょうか。

崩壊が起こる原因も様々ですが、でも、すべてに共通する思いがあるのを感じています。子供の声を聞くたびに、どれほど寂しかったか、どれほど苦しかったか、どれほど



怒りを、虚しさを感じていたか、それが心に迫ってきます。学級崩壊は、子供の心の崩壊をそのまま表している一つの現象そのものではないでしょうか。

子供たちが、なぜ学級崩壊という形で自分たちの思いをぶつけてくるのか、どうして、そのような行動に出るのか、そこまで子供たちを追い詰めていったものは何なのか、私たちは、それを見つめていかななくてはならないのではないのでしょうか。

ある者はその責任を学校全体に、または教師に求めます。また学校や教師は、親の責任に言及します。教育評論家はそのどちらにも、そして国の教育方針、指導要領や社会全体の風潮にその原因を探っていきます。そのどれもが間違っていないかもしれません。確かにもっともだと、うなずけることもあります。ただ、それだけかと言えば、いいえ、大きなことを忘れているとしか思えないのです。

たとえば学級崩壊やいじめなどの問題が起きれば、学校や教師の対応の仕方が悪い、いじめる子をなくしていく指導をしなければいけない、いじめの原因を探っていかなければいけない、騒ぐ子をどう静かにさせるか、教師の資質をどう上げていくか、教師と校長、教育委員会の風通しをいかによくしていくか、また親の子供へのしつけの改善を、そして学校制度そのものの見直しを……等々いろいろと言われています。子供がパソコ

ン、携帯電話を持つ時代、外部から入ってくる風俗情報、バイオレンス情報の管理の問題なども取りざたされています。確かにそれは必要なことでしょう。しかし、いくら取り締まっても、形を変えて新たな形で出てくる、イタチごっこのようなものではないでしょうか。

最近では、ただ学校や教師を責める風潮から、子供たちを取り巻く様々な環境から、子供を守っていかねばという意見や、大人たちも変わっていかねばならないという意見も聞かれるようになりました。

しかし、大人たちが変わっていかねばという話題の根本も、形でしかないのです。形を改めても、基盤が変わらない限り、それは変わったことにはならないということに、早く気付いてほしいと思っています。

人を傷つけてはいけけない、暴力を振るってはいけけない、いじめてはいけけないと、いくら言葉で指導しても、いったん引っ込むだけではないでしょうか。本当に自分の心で間違っていたと気付くまで、心の中の思いは消えることはありません。そして、それに気付いていくためには、自分の思いを見つめていくということが、何より大切なことでは

ないでしょうか。それをまず子供の周辺の大人から始めていっていただきたいと思うのです。もし母親が「いくら人をいじめてはいけない、争ってはいけない」と言っても、家庭の中で夫婦が争い、嫁姑が争ってはいけません、そして隣近所が争っていたのでは、そこから流れる波動は荒い真っ黒なものでしょう。いくら「弱い者をかばい、大切に」と言っても、母親にその思いが本当になれば決して伝わらないのではないのでしょうか。「教師を尊敬し、言うことを聞くように」と言っても、母親自身で教師をバカにしていれば、その思いが伝わるでしょう。子供は言葉ではなく親、特に母親の本心で育っていくものではないでしょうか。

なぜ子供がこんなに荒れるのか、それは私たち大人が自分の心をのぞいて見れば分かるものなのですが、でも自分は間違っていないという場に立っていれば、いつまで経っても気付くことはできないでしょう。今、大人たちは自分を振り返るということをしなくなりました。そんなことをしては、この厳しい世せちがら知辛い世の中を渡っていくことはできない、間違いを認めれば自分が崩れていく、そう思う方も多いでしょう。それが大人の現実であり、今の社会の現状です。

そこから一步踏み出してみる。本当に子供を取り巻く様々な問題を何とかしていきたいと思われるのであれば、勇気を出して一步を踏み出していただきたいと思っています。

いじめの問題を巡って、そして履修問題を巡って、校長先生の自殺が相次いでいます。それに関してはいろいろな意見もあるでしょう。また子供の自殺もあとを断ちません。命を大切にと言ったところで、どうしようもない事態がこれからも起こってくるでしょう。

原点に戻らねばという意見もあります。この原点とは何を基盤とした原点なのでしょう。本当にもうどうにもならないところまで行き着いてしまった、そう思っている方も多いのではないのでしょうか。

小手先ではどうにもなりません。起こっていることを早急に止めることはできません。子供を変えていくのではなくて自分自身を変えていく、今まで培ってきたもの、自分が一番大切に思ってきたこと、守ろうとしてきたもの、それを見直して改めていく勇

気が持てるでしょうか。

あなたを変える、それはあなたの生き方を変えるということ、そして、それは自分の生きていく基盤を変えていくということです。

あなたは何を一番大切にしてきましたか。

あなたが守ろうとしてきたものは何ですか。

あなたの求める子供の幸せとは何でしょうか。

あなたは子供に何を求めてきましたか。

正直に自分に問いかけてみてください。そして、ふと疑問に感じるものがあつたならば、ごまかさずに立ち止まって、しばし自分を見つめ続けてください。間違っていたと気付いたならば、そこから出発点です。自分が間違っていたと子供に伝えるのもいいでしょう。でも、たとえ言葉で伝えられなくても、思いは伝わっていきます。優しい波動となって伝わっていきます。

学級崩壊を起こしていく子供には、心の中に抱え切れない様々な思いを詰め込んでい

ることでしょう。それを和らげ、ほぐしていくのは、お母さんの温かな思い、波動です。そうした時に、また子供自身も自らの思いを見つめ、自分の間違いに気付いていくのではないのでしょうか。

### 母親の温もりからのメッセージ

孤独な自分を抱え苦しいですか。寂しいですか。どうしようもないいらだちを、教室で様々な形で表現せざるを得ないあなたの思いを、今こそ真正面から捉え、向き合っていくてください。本当のあなたは幸せで喜びの存在なのです。ただ、それに気付かないで、不平や不満を膨らませ続けてきたあなたではなかったでしょうか。責任転嫁せきにんてんかしても決してあなたの心は晴れません。逆にどんどん淀よどんでくる思いを感じ、さらに苦しく切なくなってきた、自暴自棄じぼうじきになるあなたではないでしょうか。何かがおかしいと感じたなら、勇気を持って立ち止まってください。あなたの心の母親の温もりが、一生懸命、あなたに語りかける思いを素直に聞いてください。今、生かされて存在することが、もうそれだけで幸せで喜びであることに、どうぞ一日も早く気付いていてください。



不登校

ひきこもり



最近、不登校、ひきこもり、ニートなどが大きな社会問題になっています。不登校が長引き、ひきこもりに移行し、それがそのままニート状態になっていくというケースも多く見られます。

不登校は様々な原因が考えられます。最近では、いじめから来る不登校も多く見られます。また学校生活への不適応、学業不振、友人関係のトラブル、教師とのトラブル、親子関係のトラブル、また本人自身の精神的問題、学習障害、注意欠陥・多動性障害など様々な要因があります。原因が違えば、その対応の仕方も様々です。現在では、NP O関係や様々な団体によるフリースクールなども開設され、登校できない子供やひきこもりやニート状態にある子供、思春期の青少年へのアプローチが盛んに行われるようになってきました。

カウンセリングを受け続けても、なかなか改善されない子供たちが集団の中に入り、その小集団の中で適応していくこともあるでしょう。不登校が長引けば、ひきこもりに移行し、そして、それが長い間放置されれば、孤独感や閉塞感<sup>へいそくかん</sup>、自己嫌悪感<sup>じこけんおかん</sup>、人間不信につながる、人との関係を取り戻すことも、本人が新しく一步を踏み出すことも難しくなるという考えから、家で悩み続け、そのままの状態改善を待ち続けるよりも、一日

も早く第三者の手を借りるべきだとの意見が多いのも事実です。

ここでは不登校、ひきこもりへの対応うんぬんではなく、それを引き起こしてきた子供たちの思いに、そして親たちの思いに耳を傾けていきたいと思えます。

## ケース 1

朝起きるのがとてもつらいのです。体がだるく、熱っぽく、学校に行こうと思っても、しんどくて行けなくなるんです。親はさぼるなと言いますが、さぼろうと思っているわけではないんです。体が言うことを聞かないんです。いつからこのようになったのか、私はよく分かりませんが、でも何か学校がいやになって、行く価値が見いだせなくなりました。私はクラスでは少し浮いた状態でした。特にいじめに遭ったわけでも、悪口を言われて、つらい思いをしているわけでもありません。成績は普通です。やや苦手な教科はありますが、赤点を取るほどではありません。何か無気力というか、時々、どうでもいいやと思うことがあります。将来なりたいものも夢もありません。このまま大人なって社会に出ていくことが不安です。受験勉強にも身が入りません。友達と話してい

ても心底楽しめませんでした。うわの空で、かえって話を合わせていくことがしんどくて、話の輪の中にも入らなくなってしまった。私の言うことがどう思われるか、どんな判断を下されるか気になって、楽しむということができなくなりました。そう言えば小さい時、些細な私の言葉が誤解を生んで、のけ者にされたことがあって、その時以来、話すのが怖くなった、そんな経験がありました。人の目が気になり出したのも、その頃です。

高校ではクラブ活動もありますが、私は手芸部に入っています。あまり人とかかわらなくても一人で行ける利点があります。友達がいなくて寂しいとか、そんなことは感じたことはありません。学校に行かなくなった原因も、これと違ってないんです。でも、ある夜眠れなくて、深夜放送を布団の上で聴いていました。結構面白かったので、何日か続けて聴いていたら、朝がともつらくなって起きるのがしんどいと思ったんです。「今日は風邪気味だから休む」と言ったのが、始まりだったかもしれません。

休んで家でゴロゴロしている。でも罪悪感なんて少しも感じなかったんです。何かとても楽でした。その時、ああ本当に学校に行くのって、私にとってはストレスだったんだと思いました。何日か続けて休みました。両親は心配して、「学校で何かあったのか」

と、しつこく聞いてきました。でも「別に」としか答えようがありませんでした。「体も悪くないなら、さぼってはいかん」と叱られて学校に行きましたが、何かそこが違う世界のように感じて、落ち着かない気分が高じてきて、早々に早退してしまいました。自分自身何かとてもショックで不安になりました。クラスに出たときに初めて疎外感そがいかんというか、溶け込めない雰囲気を感じて、その場から弾き飛ばされたような感覚がしました。学校に行くのが怖くなってきました。不登校を起こしていることをクラスメートはどのように思っているのだろうか、バカにし、見下げているのではないだろうか。人の気持ちばかりが気になって、人の前に出るのが億劫おっくうになってきました。外出もあまりしなくなりしました。親が気分転換に散歩でもしてきたらと勧めますが、それがもうできないんです。部屋から出るのが面倒臭い、だから何でも部屋の中で済ませます。食事も誰も見てないうちに部屋まで運びました。カップめんを部屋にたくさん持ち込んで、ポットで湯を沸かし、それだけ食べていたこともあります。親が部屋の前に置いてくれるおにぎりや焼きそばを、しばらく食べ続けました。「せめて食事は下に降りてきて食べなさい」と言われましたが、それも何かしんどくなってきて、食べなくてもいいわという気持ちになってくるんです。お風呂も面倒臭くなってくる。何か自分がどんどん変わっ

ていくようで、それがとても怖かったです。

親はこれはただの物ぐさではないと、いろいろな人に相談したようですが、何一つ、私を奮起させるものはありませんでした。

病院にも数件行きました。その都度告げられる診断名も様々でした。統合失調症とか、適応障害とか、人格形成不全とか、訳の分からないことを言われました。両親は困り果てて、何か憑つき物がついているのかもしれないと、拝みやさんや占い師の所まで出向いていきました。この宗教がいいと聞けば、あちらこちらを渡り歩きました。でも私はそんな親をさめた目で見つめていました。私は自分が精神的な病でも、それこそ親が言うような憑つき物がついているとも思いませんでした。ただ、どうしようもない心の動きが、自分の意志とは別に存在しているのを感じていました。もしかしたら、それが病気なのでしょうか。親が私を何とかしようと思えば思うほど、苦しくなってくるのです。私のことを忘れてくれれば楽になるのです。

私は小さい時から知らず知らずのうちに、とても大きな重圧の中に存在していた。厳しい親ではなかったけれど、でも無言のうちに動かされていたことを感じました。何でも自由にやっていたようで、結局は、親の敷いたレールの上を歩かされていただけなん

だということに気付いたんです。「こうしなさい」ではなく、「こうしたらいいと思うよ、お母さんはそれがベストだと思う」、母は押しつけているとは思わないでしょう。ただ意見を言っているとしたか思わないでしょう。でも一見こちらに選択権があるように思わせるそのやり方が、逆に私を追い詰めていた。それがとても苦しかった。だから、そのすべてから逃げ出したかったのだと思います。学校を休み始めて、もう長い時間が過ぎました。今さら高校に戻るつもりはありません。あの場所も私に静かな重圧を感じさせました。

## 母親の思い

何か複雑な気持ちです。決して育て方が悪かったわけではないと、いろいろ相談した先生たちも医者も言ってくれますが、では何でこうなったのか、はっきりと答えてくれる先生方はいませんでした。子供自身の持っている特性、または脳いちがいに何らかの問題を持っている場合もあり、原因は一概には言えないそうです。高校を休み始めるまで、子供の異常には気付きませんでした。どちらかと言えば無口で表情が乏しく、笑わない子供でした。特に親しい友達もいず、誰かと遊びに行くということもありませんでした。

部屋にこもって何をしているのか、部屋に入ることはいやがりましたので、よく分かりませんでした。時々、こそっと入ってみましたが、特に問題になるようなことは見つかりませんでした。アイドルの写真や、歌手の写真、CD、ちょっとした化粧品、今時の子供が持っている普通のものでした。ただ、段々目つきが暗くなっていく、顔つきが暗くなっていく、それが気になっていました。突然学校に行かなくなって、前日までは「明日は必ず行く」と約束をしても、朝になれば起きてこない。「熱がある、お腹なかの調子が悪い」とか言って、絶対学校に行こうとはしませんでした。「行かせようと無理にしないでください」と言われ、本人がその気になるまで待とうとしましたが、心は焦るばかりでした。責める心も強くなり、「ご飯を食べる元気があるなら、病気じゃないでしょ」と怒鳴ったこともあります。知らず知らずのうちに追い詰めていったのでしょね。ご飯も「階下に下りて食べなさい」と言ったときから、声をかけても無言で、それ以上言う、「うるさい」と怒鳴る声がしたり、物を投げている音が聞こえてきました。ある日、ジョッキジョッキという音が聞こえてきたので、そっと様子を見たら、自分の髪の毛をハサミで切っていました。ざんぎり頭の姿を見たとき、これは尋常ではないと背筋がぞーっとしました。

いろいろな宗教や拝みやさんも行きました。何かに取り憑かれているのではと思ったのです。藁わらにもすがりたい気持ちでした。

病院に行つて、今は薬をもらい飲んでいきます。何かぼーっとした感じが強くなっているのが気にかかります。

もう学校には無理に行かせません。しばらく通院させながら様子を見ていきたいと思ひます。この子がこんなになって、家の中は地獄のようになりました。夫は私を、私は夫を互いに責め合い、互いの人格まで傷つけ合う日々になりました。隣近所の人の目も気になります。病院も神経科は何か抵抗があります。何でうちの娘が、私たちの育て方がやはり悪かったのでしょうか。どこでもいいです。娘の症状がよくなる所があれば、どこにでも連れて行ってやりたい。

それが親心ではないでしょうか。

#### コメント

母親が娘を心配し、あれこれ言ったり手を出したりするたびに、娘は苦しくなっています。母の存在そのものが重圧を与えているようです。だからと言って治るものならと、



あちこち病院に連れて行ったり、宗教、拝みやと他力丸出しの心で渡り歩いて、決して解決にはつながらないでしょう。心に抱えている闇を知る、そして心を閉ざす原因となっているものを開放していく試みが必要でしょう。それには、それぞれがしっかりと自分の心を見つめていくことが必要でしょう。

## ケース 2

私は今、フリースクールに通っています。様々な理由から不登校をしていた、ひきこもりをしていた子供たちが集まっています。でも、みんな最初に会った頃に比べると明るい顔をしています。ここでは互いに自分から話さない限り、一人ひとりの心の傷には触れません。話さなくても、どれだけ苦しんできたか、どれだけ自分を責めてきたか、そして周りの大人に失望してきたかが伝わってくるからです。私が学校に行かなくなったのは、高校の二年になった頃でした。受験校で来る日も来る日も勉強ばかり、先生との話題も、友達との話題も、大学の情報、偏差値情報ばかりでした。将来何をしたいという目的もまだ見つかっていなかったもので、私はなかなか本腰を入れて勉強に励むことができませんでした。友達は時に友で時に敵、試験の時には互いの点数ばかりが気にな

りました。「全然できなかつたよ」と言いながら、返ってきた答案は百点だったり九十五点だったり、この人たちは何なんだと、とてもいやな思いをしました。そして人の点数が気になる自分もいやでした。成績順が黒板に貼られたりすると、それに一喜一憂する自分がありました。何のために大学に行くのか、みんなが行くから自分も行くのか。母は「今したいことがなくても、取りあえず大学に入学し、それから考えても遅くはない。だから勉強だけはしっかりしておきなさい」の一点張りでした。大学って取りあえず行くものでしょうか。矛盾を感じました。段々、心の中に不満や何とも言えないストレスがたまってきました。勉強に身を入れなかったので、成績は下がる一方でした。みんなが必死になって勉強しても、もうその中ですべてを犠牲にして、勉強し続けることが苦痛になっていました。親は顔を見れば「勉強、勉強」と、成績の話ばかりします。成績が下がれば、しばらく説教が始まります。「いかに学歴がこれからの世の中必要になってくるか、人生を左右する大問題なのだ」と言います。私が自分の意見を言っても、全く聞いてもらえませんでした。「そんなことは成績を上げて大学に入ってから言いなさい。やることもやらす屁理屈ばかり言うな」と、父までうるさく言うようになりました。勉強に意味を持たなくなった私にとって、今の高校は何の魅力もなく、苦痛な時間を

過ごす場所にしか思えませんでした。自然に休むようになりました。家にいると叱られるので学校に行くふりをして、一日中、電車に乗ってぐるぐると都内を回っていたこともあり。それもしんどくなつて、部屋にこもってしまう日々が続きました。親が何と言おうが頑として動きませんでした。

私は怠けているのではない、私の生き方がみんなとは合わないだと思いつけることで、自分をかろうじて保っていたのだと思います。家にいる間、いろいろな本を読みました。いろんな人生を知りました。自分のしたいことも見えてきました。でも以前の高校に戻るつもりはありませんでした。他の高校に行く勇氣も出ませんでした。フリースクールを知り、参加してみたい気持ちが起きました。本当にいろいろな人がいました。私は結局は勉強から逃げた、その結果、高校に行くことを断念しました。でも他の人たちはそんな単純ではない、大きな深い悩みを抱えているようでした。精神的に疲れて体の不調を訴えている人、同じ行動を意味もなく繰り返して繰り返している人、非行に走って心も体もボロボロになった人。でも、そのすべての人に理由がある、原因があったのに、大人はそれを知ろうともしてこなかったんだと思いました。

私の今の目標は大学受験資格を取って、大学で心理学を学ぶことです。そして私と同

じように悩む人、周りにいるような人たちとかかわっていけるような職業に就きたいと思っと思っています。

私は後悔はしていません。あのまま高校を卒業して同じように心理学を学んだとしても、たぶん仕事に就いたとき、私の姿勢は随分と違っていたと思います。臨床心理士もカウンセラーも、そして児童相談所の人も、本当に悩み苦しんでいる人の立場、足元で共に考えることをしているのでしょうか。いくら正論を言ったところで、本当にその痛みを共に感じていなかったら、子供の心には届かないのではないのでしょうか。

フリースクールには資格を持った専門の人もいます。でもボランティアの人もいます。年配のおじさんや、おばさん、そして大学生も。だけど説教もせず熱心にじつと話を聞いてくれる、それがどんなに嬉しいか。やっと自分の話を聞いてくれる人が現れた、そう思っってほっとしました。話がうまくできなくても、そっと背中に手を当ててくれる、手を握っっていてくれる、それだけでもどんなに嬉しいか、初めて知りました。

## 母親の思い

随分と葛藤しました。せっかく都内でも有数の進学校に合格し、これでこの子の将来

も安心だと、ほっとしていたのに。

二年になった頃から、いろいろと屁理屈を言うようになって、初めは成績が下がってきたため、その言い訳をしているんだらうと軽く考えていました。どんなになだめすかしても、この子の思いは変わりませんでした。私たちは「絶対、中退は許さない」と言ってきました。「何をやるにしても、ちゃんと大学だけは進学しなさい。文句があるなら、それから聞こう」と言いました。でも学校には行かなくなる。部屋に閉じこもる。私たちは、こんな状態を続けていいのかと悩んでいました。フリースクールは自分で情報を仕入れて「行ってみたい」と言い出しました。私たちは、それがどんな所か聞いたことがなかったので不安でしたが、一緒に行ってみました。正直言って、何でうちの子がこんな所に来たいなんて言うのか分かりませんでした。こんな所で埋もれてしまっているのだろうか、うちの子が来るような所ではない、それが率直な感想でした。

でも日ごとに娘は明るくなっていきました。生き生きとしてきました。勉強も自分なりにしているように見えました。私は自分の夢をあきらめ切れなかった。娘が生まれたならば、こうもしたい、ああもしたいと勝手に願ってきた夢がありました。豊かな人生を歩んでほしい。それがあの子の幸せだと思ってきました。それにはまず学歴、だから

勉強を強いてきました。娘の望みよりもまず勉学。

でも今、娘の人生は娘が決めていくことだと、やっとそう思えるようになりました。それを親の希望を娘に押しつけて、自分の思い通りにさせようとしていた、それを親の愛情だと思ってきました。娘は全身ではねのけて自分の人生を歩み始めたように思います。

これからもいろいろなことがあるでしょう。挫折することもあるかもしれませんが。でもこの子ならきつと自力でそれを乗り越えていくでしょう。私は娘を信じ、信頼することを学んだように思います。

#### コメント

娘を信じ、信頼することを学んだというお母さん、とても頼もしく思います。そこまです自分の心を変えていく過程には、苦しみもいっぱいあったでしょうが、お母さんの気持ちが変わったことで一番嬉しいのは、お母さん自身ではないでしょうか。

### ケース 3

学校でいじめに遭って、とても我慢ができなくて、親に「転校したい」って言いました。親は「もう少し頑張れ、先生にもきちんと話してあげるから」と言いました。先生に言っても事態は変わりませんでした。かえって誰も見ていない所で殴られたり蹴けられたり、「金を持ってこい」と脅されました。学校の行き帰りも怖い……。段々、僕は学校を休むようになりました。親は全く頼りにならない先生だと怒っていましたが、もう学校に無理をして行けとは言わなくなりました。テレビでいじめの問題や自殺したニュースを見ると、無理してまで何で学校を続けていたのかと思います。

転校してほっとしたのもつかの間でした。いじめられやすい人間って僕のことかと思うくらい、すぐにいじめが始まりました。「弱虫、毒虫、点取り虫」、僕はそんなふうに呼ばれるようになりました。今度は親にも言えませんでした。こんな僕が情けなかったんです。誰にも言えず黙っていると、いじめはますますエスカレートしていきました。あることないこと言われたり、「汚い、腐った匂いがする、キモイ」と言われました。初めて悔しくて、死にたいと思いました。でも死んだら負けだと思いました。見返してやる、仕返しをしてやる、でも何もできませんでした。よっほどどこかに投書してやろう

かとも思いましたが、うまく書けず、面倒なのでやめました。学校へ行く気が失せて休む日が続きました。先生が電話をくれたりしましたが、何も変わらないことが分かっていたので、学校には絶対行きませんでした。何をされるか怖かった。すべてに失望していました。

不登校が続いたあと、僕はある田舎の学園に転校しました。そこは学校のように大きくはないけど、友達もいて、勉強したり、遊んだり、農作業をしたり、川で釣りをしたり、今までとは違う体験ができて楽しいです。ゆったりとしていました。乱暴な子はいましたが、僕にかかってくるわけではないので安心でした。親と離れて少し寂しいけれど、でも、すぐ慣れました。僕がもたもたしていると、黙って手助けしてくれる子もいました。好き嫌いがあると見つからないように、黙って食べて助けてくれる子もいました。田舎道を走るマラソンもありました。そこらに住むじいちゃん、ばあちゃんが、みんな応援してくれました。泊まらせてもらった家には、遊ぶ物もゲームもなかったけれど、早く寝て早く起きるこの村の生活は、決して苦しくはなかった。勉強が終わったあと、野山で走り回ったり、校庭でボール蹴<sup>け</sup>りをするのも、追いかけてこするのも楽しかった。まるで小さい時に戻ったみたいに、何でも新鮮に感じました。仲間と遊ぶのが



こんなに楽しいなんて驚きでした。

体の弱い子や喘息の子、僕と同じように学校に行けなかった子、いろいろいたけど、みんな元気を取り戻していました。「帰りたくない」と言っている子もいました。僕は「この村の下の町にある中学に編入したい」と親に言ってみるつもりです。

都会にはないものがここにある。この空気が、そして周りの人たちが、僕にはとても優しく感じました。みんなの笑顔が優しかった。ぎすぎすしないでゆったりと、そんな時間の流れが僕にはピッタリです。ご飯もとてもおいしい、朝ご飯が待ち遠しくなるほど、お腹なかがすくんです。いっぱい食べます。

### 父親の思い

息子が学校でいじめに遭って、もう長い時間が経ちました。いろいろなことがありました。先生に相談しても、転校しても、解決できないいじめでした。どこに怒りをぶつけていいのか、また怒りをぶつけたところで責任の所在も分からない。所在が分かったとしても何の解決にもつながらないというのが、私の最終的な思いです。息子はつらかったと思います。潔癖な子供です。それが殴られたり、蹴けられたり、罵ほりぞう詈雑言を浴び

せられたり、よく自殺しないで持ちこたえてくれたと思います。転校してもいじめられ、この子はそんないじめられやすい子なのかと、暗澹あんたんたる思いでした。打ちのめされて元氣のない息子に何をしてやれるか、私がいちいち息子のあとをついて歩くわけにはいきません。いじめの相手を説得して回るわけにもいきません。そんな時、テレビで山村留学の紹介を見ました。近くにこんな所があったら子供の気分が変わるかもしれない、一縷いちるの望みをかけました。山村留学ではありませんが、短期間、様々な事情を持つ子供が集まる場所があることを知り、見学に行きました。子供も心を動かされたようで、そこに行くことを希望しました。時々、手紙が来ますが楽しそうです。電話の声もはずんでいきます。少しほっとしています。今後どのような方向で進んでいくのか予断は許しません、私は何があっても子供を守っていきたいと思っています。こんな世の中、本当に腹が立つばかりですが、これが現実ならば、それに立ち向かっていくしかないじゃないですか。学校がいじめのない学校に変わるのを待つことはできません。いじめは決してなくならないでしょう。いじめをしている子供の親を知っていますが、全くその自覚もなく、相手にするのも腹立たしいです。

今度のことがあってつくづく思うのは、家庭は何でも話せる場所じゃなくちゃいけな

いということ、そして常に子供の様子を見守り続ける姿勢が大事だということ。また子供は本当に苦しい時は口を閉じるということを、一人で悩み、自分を追い込んでいくことを知りました。

今後も強く生き抜いていけるよう、バックアップしていきたいです。

## コメント

これは環境を変えて成功した例です。子供の状態と環境がピッタリと合っていたのでしよう。すべての不登校の子供に適応できるとは限りませんが、この子は自然の中で、そして純朴じゅんぼくな人々の中で元気を取り戻し、人生は楽しいという実感を得たのではないでしょう。この体験が、これからの長い人生の中できつと生きてくるでしょう。この子が人に対して優しさや、ありがたの思いを心に持ち始めたことが、感じられるのではないでしょうか。

## ケース 4

僕は今、十八歳です。もし何もなく順調に行っていたら、大学受験を控えた高校生の

はずでした。ただどある日、何もかも虚しくなって学校を休むようになりました。もう八カ月も続いてしまいました。出席日数も足りないから卒業はできないし、受験もできない状態です。勉強することも、受験することも、ある日、何の意味もないように思っただんです。なぜだか分かりません。ただ疲れたなあと、ふっと思っただんです。小さい時からいつも母に監視されているような生活でした。何を決めるのも母の意見が優先されました。高校を決めるときも、僕が選んだ高校ではなく、進学率がよいという理由で母の勧めのまま受験しました。でも、やっぱり入学してから後悔しました。僕の行きなかった学校のほうが自由で、そっちに行った友達楽しそうです。学校生活も勉強だけじゃなく、充実しているという話を聞くたびに、自分の意見を押し通せなかった自分に腹が立ちました。一生懸命勉強して、大学に入ってから青春を謳歌おうちかしよう、そう思うことで自分をごまかし、納得させようとしてきました。でも三年間はとて長かった。クラスメートとはあまりなじみませんでした。心を割って話す、何でも話せる友達もできませんでした。中学時代の友達は、高校が違えば次第に疎遠になり、何か寂しさを感じました。

母は相変わらず、すべてに干渉してきます。僕が学校を休み始めたときは大変でし

た。学校に行ったり、相談所に行ったり、何が何でも登校させようと躍起になるかと思えば、逆に無理に行かせないようにとカウンセラーに言われれば、「無理に行くな、少しゆっくりのんびりしていなさい」と、言うことにも一貫性がない有様でした。僕はこんな母親に振り回されていた、そう思ったら自分の人生が情けなくなってきたんです。

母は別れた父親の分まで頑張らねばと、僕を育てることだけに情熱を込めてきた。それが分かるから、僕も母の言うことはできるだけ聞いてきたつもりです。でも、もう開放してほしい、大学こそは自分で選んだ所に行きたい。でも三年になった途端、「文科系に進みたい」と言う僕に、「文科系なら、司法試験をねらって法学部がいい。その他は食べていけないからやめなさい」と言います。そこまで指図してほしくない。もうやめてくれ。母の望んでいることは分かります。しっかり勉強して、良い大学に入って、良い職業に就けということでしょう。僕の人生は僕のものだ。だけど面と向かって母には言えませんでした。そんなことを言ったら母が悲しむと思ったから、今までの苦労を知っているから言えませんでした。でも僕は、もう母親の言いなりにはならない。学校にも行くものか、そう思って休み始めた高校ですが……。

何かほっとして開放感を味わい、ぶらぶらと過ごしてしまいました。でも今、少し後

悔しています。何度か学校に行こうと自分に叱咤しつたげ激励げいしてみましたが、長くは続きませんでした。休むほうが楽になってしまったんです。ゲームをしたり、音楽を聴いたり、でも楽しいと思ってやっているといるわけではないんです。何かこのままだと自分がどんどん深みにはまってしまふ、自分の人生をダメにしてしまふ、本当のダメ人間になってしまうのではと、悩み始めています。

ああ、助けて母さん。そんな思いが出ました。そして、そんな僕にドキッとしたんです。あんなに母に反発しても、僕の心は母を求めているのか、頼りにしているのか、何かますます情けなくなりました。

### 母親の思い

あんなに素直で良い子だったのに。私の言うことは全面的に信頼して、何でも任せてくれる子供でした。高校に行ってから、誰か悪い友達でもできたのでしょうか。今までとは違って反発するようになったんです。自分の人生は自分で決めるなんて偉そうなことを言っていて、結局何にもできないじゃないですか。あの子には私の助けが必要なんです。片親になり不憫ふびんだと思ったから、本当に気を使い、不足のないように育ててきまし

た。たとえ自分が必要な物でも控え、あの子のためにお金も使ってきました。決して不自由はさせてないつもりです。あの子を思って一番いい道を歩んでいけるように心配りをしっかりしてきました。

それなのに突然、学校には行きたくないと休むようになったんです。信じられませんが、何を考えているのか。父親がいないということが何かあの子に影を落としているのでしょうか、私の生きが이었다のに。

留年してでも高校は卒業してもらいたい。もう、うるさいことは言いません。どこでもいいから大学に入って正常な生活をしてほしい。あのままではダメになります。一日中家にいて、ガンガン音楽をかけて寝転んでいます。あんな子ではなかったのに。

でも寂しいです。一体何が悪かったのでしょうか。今、子供と話したくても部屋にこもってしまって、話しくれなくなりしました。ご飯を食べるときでも、まるで他人のようにそっぽを向いているんです。ご飯とお風呂とトイレ以外、部屋にこもってしまった息子。

どうしたら元の息子に戻ってくれるでしょうか。

私は自分の思いを押しつけ過ぎたのでしょうか。善かれと思ってしてきたことが、息

子を苦しめてきたのでしょうか。ただ息子の幸せだけを考えているつもりでしたが……。息子の幸せが自分の幸せ、そう思っていました。そうではなかったようです。自分のエゴを押しつけていただけかもしれない。あの子は良い子でいるために無理をして、ぎりぎりまで頑張っていたのかも知れません。

かわいそうなことをしました。今日は息子の好物でも夕飯に準備します。ある人に、「あなた方は親離れも子離れもできていない、まるで共生して生きているみたいなお親子ね。息子から少し目を離さないよ」と言われました。そんなことはないとすぐ否定しましたが、でも考えさせられました。

### コメント

母親は善かれと思って、息子の幸せを思って、自分の望む通り息子を動かそうとしてみました。息子にはそれが大変な重荷だったようです。母親を思い、あるところまで親の言うことに疑問を感じながらも従ってきたけれど、臨界点に達してしまったのでしょう。精一杯の抗議が不登校でした。立て直しが利かないまま不登校が続いています。精神的、神経的な問題というより、母親への強烈な抗議がこのような形になってい



ると思われます。母親も自分の心を見ながら子供への思いを変えていけば、必ず立ち直ってくれる親子だと感じます。

## ケース5

とても苦しいです。こんな生活、僕も脱却したい。不登校になってから、かなり長い年月が経ちました。初めは時々休むくらいでしたが、中学二年の時には、もうほとんど学校に行けなくなりました。学校に行こうとしても勇気が出ない、玄関でもう足がすくんでしまいます。初めて登校を拒否したときは、小学生の時でした。母親がいろいろとなだめて校門の所まで送ってくれました。母親のあとを追ってすぐに帰りたい心境でした。

今思えば、いろいろなことがありました。中学に入って勉強が分からなくなりました。授業はちゃんと聞いているのに、みんなのスピードについていけない、先生の教えてくれることの半分も理解できない、そんな状態でした。段々、授業が、教室にいるのが苦痛になりました。三年になるとクラス替えがあります。「成績順にクラスが決められる」、そう聞いたとき、何かそれがとてもいやで学校に行く気がしなくなりました。僕

はきっと一番点数の低いクラスでしょう。そのクラスには、きっと先生も手を焼いている乱暴者や、いじめをする子もいるでしょう。それに一番成績が悪いと思われるのはもっといやです。僕にだってプライドがあります。見栄もあります。親にも何て言ったらいいんですか。きっと怒るでしょう、「こんなこと分かり切っていたのに、努力もしないで、恥ずかしいと思いなさい」と……。

兄はとてもよく勉強ができます。親の自慢の子です。進学校に入って、そこでも成績が良く、きっと国立大学もストレートで合格すると言われています。小さい時からよく比較されて育ちました。「お兄ちゃんのように、お兄ちゃんのように」、耳にたこができるくらいに。だから、どんなに僕が頑張っても、少しずつ成績が上がっても、褒めてもらったことはありません。それどころか、「こんなテストなら、お兄ちゃんは百点を取る。一体どこで間違えるの、もっと集中しなさい」と叱られるばかりでした。母にとってテストの成績だけが僕を評価する材料のようでした。そんな僕を、兄は見下げて笑いました、「バカだな、こんな問題間違うのか、あほと違うか」。

父だけが「勉強、勉強言うな、子供の時はもっと遊んでいい」と言ってくれましたが、すぐ母に程度問題だと一蹴いっしょつされました。うちは父よりも母が一番強いんです。誰も母の

言うことには逆らえません。

窮屈です、心がとても窮屈です。僕はそんな母から、そして、この家からも逃れたかった。学校に行かずに母に抵抗してやろう、母を困らせてやろう、それが僕にできる母への反抗だったんです。もう、みんなは高校に行く準備をしています。僕は結局中学も中途半端で高校にも行けません。大学も行かず、ずっと家において一生を送るんですか。

僕は自分の感情のままに不登校をしてしまったけれど、後先のことは全く考えていませんでした。自分の環境を、これ以上不幸はないとあの時は思い込んでいたけれど、本当にそうだったのか、今は分かりません。

### 父親の思い

息子は今、悩んでいる。その苦しみが伝わってくるようです。おとなしい子で自己主張もあまりできなかった子です。もっとやんちゃであれば、母親に向かっていくバイタリテイがあれば、また状態は変わっていたかもしれない。家内は、長男は成績も良く、

問題になることは何もなかったもので、とても当たりが柔らかく、かわいがっていました。次男のほうは成績も下がる一方で、勉強にも意欲を示さない、何に対しても消極的なところが家内の癪がくに障るといふのか、随分対応の仕方が違うので、それは注意しなければ、いつも思っていました。私も気のついたときにはそれとなくフォローするのですが、あの口には勝てません。

息子が学校を休み勝ちになったときには、そんなに深刻には受け止めていませんでした。私が学生の頃にもずる休みというのがある、私もよくしたものです。それでも今、社会人となって二児の父親になっています。しかし次男の場合は、少し違いました。学校に行かない理由は成績順のクラス替えがいやだということでしたが、確かに私でもそんなのはいやですよ。でも、それは表面の言い訳のようにしか私には聞こえません。勉強、成績を一番に置いているから、それが息子たちの価値を決めているような、そんな雰囲気は家庭には確かにありました。次男はずっと劣等感を抱えたまま、その価値観の中で生活し続けてきたわけですから、一番成績の悪いクラスに行くということ、家庭でも居場所がなくなるくらい深刻な問題だったのでしよう。

息子はそのクラスに行くのがいやと言うよりも、家での居場所がなくなる、そのこと

を恐れていたような気がします。そのことが息子を追い詰めていったような気がします。

自分で勉強して高校に進むのもいいでしょう。もう中学でやめて働きたいというのであれば、それもいいでしょう。息子に考えさせ、息子に決断させる、その方向で行こうと思います。ただ、私の意見だけは言うつもりです。昼夜逆転のめっちゃくちゃな生活をしていますから、まず生活から少し見直していかなくては思います。それ以上に、家内の考え方などを少し改めていってほしいとは思いますが……。

#### コメント

父親が子供の状態をよく見ているようです。しかし、やはり家庭では母親の力が強く、父親の役割がうまく機能していかないのは残念です。しかし不登校という現象を通して、家族を構築し直していくいいチャンスではないでしょうか。何に価値を置くか、どんな人生を歩んでいきたいのか、親の期待を優先するのではなく、子供の適正を考えた、子供の希望を入れた、ゆったりとした人生を選択するのもいいのではないのでしょうか。

## ケース 6

僕は自分のやりたいことをことごとく反対されてきた。親の価値観と僕が行きたい方向が全く違っていた。僕は小学校の時に画集を見て涙が出るくらい感激した。それは風景だったけれど、まるでそこに自分が立っているような感覚に襲われた。ヨーロッパの小さい町だったように思う。僕は絵を描くのが好きで、見よう見真似みまねで家の中にある物や、犬やネコの絵を描いていた。母や父の似顔絵や、友達、先生の似顔絵も描いた。みんなとても感心してくれた。「とても上手だ、まるで今にも喋り出しそうな顔だ」と。

高校生になっても美術への情熱が薄れていなかったので、僕は美術大学に行きたいと思った。高校も美術クラブに入って、デッサンの仕方も、入試に必要な技術も教えてもらった。バイトでお金をためて、美術大学受験のためのセミナーにも通った。母は何も言わなかった。でも、いざ大学受験のための懇談会があると、父と一緒にがぜん反対し出した。「美術では食べていけない。考え直せ。趣味でやる範囲でとどめよ」。趣味でなんてできない、それは美術への冒涇だ。「どうしてもと言うなら、自分でお金を稼いで行け。一銭の援助もしない」と、かんかんになって怒った。なぜ、美術がいけないの

か、やる前から決めつけて、生活できない、結婚して家庭も持てない……。そんな発想にはついていけなかった。「最初からバイトで行けるほど美大は甘くはない。入学してからなら、いくらでもバイトはできる。だから最初の授業料だけでも払ってくれ」と言っても、聞く耳を持たなかった。

何をする気も起こらなくなった。もう何も言いたくない。

「いくらでも絵を描いて生活している人はいる。有名になって評価されている人もいる」。いくらそう言っても、「それは生まれで、何万人に一人だ」と反論された。画家じゃなくても、デザインでも何でも自分の中にある世界を表現したい、それが一番したいことなんだ。でも理解はしてもらえなかった。

僕は卒業まで数カ月というときに、学校に行くのをやめた。先生も親にいろいろ言ってくれた。美術部の顧問の先生も言ってくれたけど、全然ダメだった。言えば言うほど頑かたくなになった。僕はどうしたらいいんだ。こんな親、僕の親ではない。どうしたらいいのか、今、家の中にこもって一人で絵を描いている。ただキャンバスに向かっていると、僕は生きていると感じる。だけど段々気力が萎なえてくる。絵への情熱が薄れてくる。僕の絵に対する思いはそんな薄っぺらなものだったのか。自分でも信じられな

い。壁が立ちふさがればこんなにもろく崩れてしまうほど、僕は弱かったのか。

僕の存在価値がない。すべてに自信を失っていく。もういい、どうなってもいい。これが僕の現実なのか……。

### 母親の思い

画家になりたい、そんなバカげています。少し絵がうまいからといって、画家で食べていけるほど世間は甘くはないですよ。何を考えているんだか。もっとちゃんとした生活設計を立ててほしいですよね。

もっと早くあきらめさせるべきでした。でも非行にも走らず、一生懸命、絵を描いているあの子に何か安心していたんです。悪いことをするよりよほどいいと、そう思っていたんです。でもまさか本気だったなんて……。許すわけにはいきません。海のものとも山のものとも、どんなふうになるのか皆目分からない。でも絶対この子を苦勞させるわけにはいきません。たった一人の息子です。できるならば家の跡を継いでもらいたい、主人が一人でそこそこ大きくした事業です。主人もぜひそうしてほしいと願っているはず。これは親のエゴなんでしょうか。でもエゴだと言われても、私は自分の意



見を曲げるつもりはありません。

学校にも行かず、部屋に閉じこもって、暗い目つきをしている息子を見るのはつらいです。もうあと少しで高校も卒業だというのに、何日欠席したら卒業できなくなるのでしょうか。試験も受けてないから単位は取れないかもしれませぬ。バカな子です、こんなことで道草を食って。主人も悩んでいるようです。自分が若かった時のことを思い出しているでしょう。主人も父親の反対を押し切って、跡は継がずに自分の道を行く大人ですから……。

私はどうしたらいいのでしょうか。このままほっておくわけにもいきません。あきらめ切れません。

でも、もしこの子がこのままひきこもってしまうようなことがあったら、それこそ取り返しがつきません。私のほうが頭がおかしくなりそうです。

#### コメント

この子なりの理由のある不登校です。親の望む方向と息子の望む道が違っていた。一体誰の人生でしょうか。この子は着実に自分の道をバイトまでして歩み始めていた。そ

れを食べていけないからという理由で、つぶす権利が親にあるのでしょうか。息子も自分の道をあきらめなければと思ったときから、生きていく意欲をなくしています。自分を見失いかけています。手遅れにならないうちに、エゴをむき出しにし合うのではなく、本当の幸せに向かって、道を修正してほしいと思います。お母さん、あなたの幸せは何ですか。あなたの望む息子の道は本当に幸せへの道でしょうか。子供の笑顔が消える、暗い苦悩の顔になる、それはあなたにとって一番つらいことではないですか。今一度、立ち止まり心を見つめてください。

不登校の子供、また、ひきこもりを起こしている子供たちの思いを聞いていただきました。様々な原因があげられますが、その中で気になるのが母子関係です。あまりにも過保護過ぎる親、また自分の価値観や希望を、知らず知らずのうちに押しつけている過干渉の親、支配的な親、そして、いつまでも母子分離ができていない親子、相互依存的な親子、親子関係の改善が問題を軽くし、解決されていくと思えるケースも見受けられました。

そして最近問題になるのは父親の不在、権威のない父親が増加してきていること、特

に男児の場合、父親を手本として成長していく同一化の対象の影が薄いということが、子供の人格形成に大きな影響を及ぼしていると考えられます。

不登校を起こす子供の心には不満がたくさんたまっているようです。子供は親の所有物ではありませんが、それでも親は子供の幸せを願ってという大義名分の下に、自分の思い通りに動かそうとしている。そのために子供は、自分の心では抱え切れない不満やストレスをためていくこととなります。そのはけ口、また自分の心を訴える一つの手段として不登校が起こる場合があります。不登校を起こす条件があったとしても、その時に適した対応を取れば不登校も長引かず、ひきこもりに移行していく確率も低くなっ  
ていくかもしれません。

ただ不登校やひきこもりは、悪いとは一概いちがいに言えない場合もあります。そのような行動を起こすことで自分の心を救っている、大きな打撃から受ける傷を小さくしていることも考えられるからです。もし、そのまま無理に学校へ行っていたら、精神的にもっと大きなダメージを受けていたかもしれません。自分を傷つけていたかもしれません。そのエネルギーが外に、他人に向けられていたかもしれません。

今まで、この本でいろいろな子供を取り巻く問題を取り上げてきましたが、すべての問題の根っこは一つ、様々な形で現れてはいるけれども、問題の本質は一つだと思っています。

今、時代は急速な勢いで進み、人の心も大きな変化をしてきました。今、社会で起きている様々な事柄は、そんな人の心の移り変わり、そして人々が流し続けてきた思い、真っ暗なエネルギーが現象化していると思えません。起こるべくして起こっていることに気付けないのは、人間だけではないでしょうか。それほど傲慢ごうまんになってしまった人類ではないでしょうか。

人類は科学を発達させ、宇宙へも飛び出せる時代になりました。医学も発達し、臓器移植や体外受精なども可能になりました。人間は何でもできると勘違いしてもおかしくありません。でも人間の叡智えいちをいくら結集したところで、人間の力が及ばないことがたくさんあります。自然はそれを教えてくれているのではないのでしょうか。

最近では今までになかったような大規模な竜巻がありました。異常気象で生態系も狂っています。そして、いつ起こるか予測のつかない大地震の影にいつもおびえています。

す。明日はどうなるか分からないという不安な状況の中で、今、私たちはどのような方向を目指して進んでいったらいいのでしょうか。

多くの自然現象が私たちに伝えてくれているもの、それは何でしょうか。人類の驕りおご高ぶった何ものも恐れない心ではないでしょうか。人間の能力、財力が万能だと信じて疑わない人類への警鐘けいしょうではないでしょうか。それは言い方を変えれば、愛そのものではないでしょうか。人類が自分たちの間違いに気づき、本来の自分たちを取り戻していくための大きな愛ではないでしょうか。

子供たちに起こる様々な問題も、人が本来あるべき姿に心を取り戻していくための大きな愛ではないでしょうか。心を変えていく大きなチャンスではないでしょうか。

責任をなすりつけ合ったり、責任を追及していくよりも、もっと大事なことに、それが自分に残された時間を使っていけたらと思うのです。

心を変えるという言葉を簡単に使っていますが、それは並大抵のことではないということとは重々知っています。それでも変えていく時期がもう来ていることを心が感じてい

ます。

人類が心を変えていくためには予想もつかないエネルギーが動く、それではなければなかなか変えられません。人間がどんなに知力を絞っても、巨万の富を積んでも、どうしようもない事態になったとき、人は初めて絶望の中からそれでも自分を振り返り、自分の間違い気付いていくのではないのでしょうか。謙虚に自分を振り返っていくのではないのでしょうか。表面的にはいくらでも変えられます。人に優しくしたり、親切にしたり、でも、いくらそのような態度を取っても、本質が変わらない限り、何も変わっていないのと同じなのです。本質を変えるといふことは、生きていく基盤を変えるといふことです。

人間の本質とは何か。

人は肉ではなく意識であり、永遠に存在するものである。

それが田池留吉氏に出会い、学んできたもっとも基本的なことであり、真髄です。

そこを基本に人生を考えたときに、自分が歩んできた道を振り返ったときに、たくさ

んの間違いを繰り返してきたことに気付きます。向上心という名の下に肉の欲を膨らませ、満たそうとしてきました。その中で様々な心を使い続け、真っ黒なエネルギーをまき散らしてきたのです。その結果、人類がたどってきた道、それは皆さんが周知の通りです。

人は心の温もりを忘れ去ってしまった。自分さえよければという風潮の中で、一番大切なことを忘れ去ってしまった世の中だと言えます。

現在、多発する子供の問題も、対症療法的に解決を図ることではなく、人々の心の奥底にある問題に焦点を当て、一人ひとりが自分の生きてきた道を振り返る。自分の心の中にある膨大な闇に気付き、認め、修正していく。そして、その輪が少しずつでも広がっていけば、社会も少しは変わっていくのではないのでしょうか。一人が気付き目覚めれば、それは大きな力になるでしょう。

損得で物を考え、ギブアンドテイクの世界をすべてに持ち込んできたからこそ、今、どうしようもない世界が広がっているのではないのでしょうか。

子育ては言葉でも形でもありません。一人ひとりの心から流れる波動が子供を育てていきます。人はいつの頃からか形を整えることに終始してきました。良い結果を求め、

そのためには人を押しつけ、排除し、戦いのエネルギーをまき散らしています。邪魔なものは消す、自分に都合の悪いものは消す、その心が自分の心にあることをご存じでしょうか。大抵は否定されます。でも本当にそうでしょうか。

たとえば自分の親でさえも持て余す。財産は残してほしいけれど、長引く介護はいやだ、一体いつまで長生きするのだろう、そんな思いを持たれたことはないでしょうか。かわいがっていたペットをもう面倒を見切れないと、病気になって治療費も高いからと、もっと小さなかわいい犬を飼いたいからと、簡単に捨ててしまう。そんな社会状況を見ても、人の心は荒み切っていると感じないでしょうか。

小さないざごさはどこにでも転がっています。各国の紛争、戦争を見ても、また宗教、思想の違いから起こる紛争、闘争を見ても、どんなに立派な理由をつけたところで、その底に流れるものは利権を巡る欲のぶつかり合いでしかありません。

では、その荒みきった心を優しい温もりのある心に変えていくには、どうしたらいいのでしょうか。

それが今、私たちがこの世に生かされている大きな意味ではないでしょうか。



今、私たちは本当の自分に帰っていく流れの中にあります。これは決して止まることもなければ、止めることもできません。その流れの中にある私たちは、人それぞれに気付きのチャンスを頂いているはずです。それが家庭の中で、職場の中で、また私たちを取り巻く社会の中で、様々な問題となって表面化してきています。そして、そのこと自体が、人々の垂れ流してきたエネルギーが現象化してきている、それぞれが心の中に抱える闇が現象化していると考えられないでしょうか。

身辺に問題が起きたときこそ、自分自身の心、思いを見つめ直していく。そこで立ち止まり、自分を振り返り、間違っていたと気付いた人から歩み始めていく。本当の自分に立ち返る第一歩を進めてほしい、そんな流れになってほしいと思うのです。

子供が大人顔負けの犯罪を犯す。いとも簡単に人を殺す。傷つける。しかし、それはすべて子供自体に最初から問題があったわけではありません。心の中にその火種、すなわち闇を抱えたまま自分の心を見ずに放置してきた結果、また家庭や社会の中でその火種に油を注ぎ、大きく発火点まで押し上げてきた結果だと思えるのです。

様々な思惑、欲の思いを互いにつつけ合う、そんなことをいつまで続けていくので

しょうか。もう、そろそろ本当の自分に帰っていきましよう。真実の自分によみがえっていきましよう。それが、まさしく今現在、一人ひとりに問われていることではないでしょうか。

自然も天変地異を通し、動植物も生態系の変化を通し、私たちに愛を込めて伝えてくれているのではないのでしょうか。

すべての原点、それが母の心です。すべてを生み出している、生かしている母の心です。

母の心に触れてみませんか。母を思い出してみませんか。

お母さんの温もり、優しさ、その温もり、優しさこそ本物です。

そして、それは本当はすべての人の心に存在する思いです。

様々な事情で母を憎み、疎む<sup>うと</sup>人生を送られた方、母に捨てられた、育ててもらっていない、かわいがってもらっていない、母など思い出たくもないと思われる方、あ

なたを産んでくださったのは誰ですか。命を懸けて産んでくださった母の思いに気付きませんか。

お母さんのお腹なかの中で、ゆったりと眠っていた日々を思い出しませんか。  
肉のお母さんではなく、お母さんの温もり優しさを思い出してください。

わざわざ人には優しく親切にしましょう、思いやりを持ちましょう、そのような教育をせずとも、母親の温もりを心にかけていけば、自然にそうなっていくのではないのでしょうか。そして人を傷つけることも、自殺することも、できなくなるのではないのでしょうか。

なぜなら、すべての人に生きる意味があり、目的があり、生きていく上でどれほどの愛に支えられてきたかが、心に伝わってくるからです……。

子供を取り巻く様々な問題に触れてきましたが、そこで気付くのは、すべての人がお母さんを求めている、それは肉の敵しい、自分勝手な母親ではなく、その温もり優しさをすべてを受け入れ、包み込み、許してくれる母親です。その母の心に触れたとき、子供

の心も大きく変化していくのではないのでしょうか。

今、人間は自分では気付かぬ寂しい心を、すべての人が抱えているのではないのでしょうか。なぜ寂しいのか、それは母親の温もりを自らの心から消し去ってしまったからではないのでしょうか。肉の自分を自分と思い、その肉を生かすために、どんどん心を汚し続けてきた結果、自分の心にある温もり気付かなくなってしまった。そして寂しさから、さらに肉を満たす何かを求め続けてきた人生ではなかったのでしょうか。

一人ひとりが本当の幸せを感じて行ってほしい。すぐに消えてしまう幸せではなく、本物の幸せを自分の中に見いだして行ってほしい。そう伝えてくれた田池留吉氏の下で学んできたことを、少しでもお伝えできたらと願うものです。

## おわりに

最近、たくさんの事件が起こっています。いじめ、いじめによる自殺、子供への虐待、そのニュースを見るたびに誰もが痛ましい事件だ、何とかならないものだろうか、その胸を痛めていることでしょう。

いろいろな意見が交わされ、また、どのように対応し対策を立ていくか、その話し合いも行われてはいますが、いま一つ、心に響いてこないのです。何かずれている、問題の本質はそこにはない、それが率直な私の思いでした。

人はそれぞれの立場から物を言います。政治家も教育者もマスコミも、そして評論家も、そして親も。

それぞれの立場を主張し、自分の立場を守っているのは、本当に子供を大切に、子供を守っていく道筋はなかなか見つからないでしょう。

教育そのものに問題があるからと、教育制度を見直す流れもあります。予備校化した

高校を見るたびに、いつからこのような社会になったのか、すべてが大学へという風潮がなぜ始まったのか、その一つを取ってみても、人の心に、社会に、大きな原因が隠されているように思うのです。

個人的には、本当に勉強が好きなら大学へ行けばいい。将来なりたい職業がどうしても大学を出なければ就けないなら、大学へ進めばいい。でも大学も厳しい選抜試験を行うよりも、門戸を広げ、入学してから厳しい勉強をしなければついていけない制度を取り入れていったなら、ただ大学に入り、あとは遊んでしまう学生の温床にはならないでしょう。また自分に適正がないと思ったらなら、別の道を歩むことも可能でしょう。

人がそれぞれの個性を生かし、自分の行きたい道を自ら決め、本当に生きていると実感できる、そんな社会であったならと思うのです。

その時、今、起こっているような、いじめや学級崩壊、そして自殺などを生み出す温床が、少しは改善されていくのではないのでしょうか。

つい先日、テレビ番組で毎日仕事をするのが楽しいと、生き生きと顔を輝かせている青年を見ました。親の家業を継いだ左官屋さんでした。壁を塗るのも研究を重ね、努

力を惜しまず、自分の一生の仕事だと誇りを持っていました。幸せな人だと思いました。海外にも評価され、有名になっているからそう思ったわけではありません。自ら打ち込むものを見つけ、その仕事をしていることが嬉しい、楽しいと、顔を輝かせながら毎日を送れることが、素敵でいいなと率直に思ったのです。

その時、みんなが大学に行くから自分もという考え自体が、そして、それを求めている社会が何となく貧困に思えたのです。

人は豊かな生活を求めてきました。しかし本当に豊かになったのでしょうか。お金に執着し、お金に踊らされる人生、人間は本当にそんなものを求めてきたのでしょうか。大きな代償を払って……。

失ってしまったものは、そう簡単には取り戻せません。

自分の心を見ていったならば、おのずと自分の進む道が見えてくるはずですよ。自分に正直に生きていくということ、それは自分に対して素直でなければいけません。

本当の自分に正直に素直に、母の心に触れながら日々を過ごしていくことこそ、本当

の豊かさであり、幸せではないでしょうか。

お母さん、ありがとうございます。産んでくれてありがとうございます。

その思いがどれほど優しく、また自分をも包み込んでくれる温かなものか、ぜひ心で感じていってほしいと思います。

最後に一言だけ申し上げたいことがあります。

心を見ていく、それは自分への愛です。自分のために見てほしいのです。何の目的も持たず、子供や周りを変えたいという欲の思いではなく、ただ無心に思いを見つめていっていただきたいのです。

そして無心にお母さんを思い続けてください。

幸せは、あなたの心の中にあることに、きっと気付いていかれることでしょう。



本田せつ子（ほんだせつこ）

昭和 25 年 函館市に生まれる。

大学、大学修士課程にて発達心理学、児童心理学を学ぶ。

昭和 50 年より平成 8 年まで約 20 年あまり保育専門学院講師、家庭児童相談員、保健所発達クリニック心理相談などに携わる。

「母親のぬくもり」 — 子供の問題 —

初版発行 2007 年 2 月 20 日

著 者 本田せつ子

発 行 者 桐生敏明

発 行 U T A ブック

装 丁 仁井谷伴子

発 売 元 **株式会社かんぼう**

大阪市西区江戸堀 1 丁目 2 番 14 号

TEL 06-6443-2171 / FAX 06-6443-2175

印刷・製本 モリモト印刷株式会社

© Kayo Shiokawa, Printed in Japan 2007